【資料】

文京区障害者（児）実態・意向調査結果の報告

目　次

◆ **調査の概要** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **1**

◆ **量的調査（アンケート調査）** ・・・・・・・・・・・・・・ **1**

○ 在宅の方を対象にした調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

○ 18 歳未満の方を対象にした調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

○ 施設入所の方を対象にした調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

○ サービス事業所の方を対象にした調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

◆ **質的調査（インタビュー調査）** ・・・・・・・・・・・・・・ **70**

令 和 元 年
文　京　区

1. 調査の概要

１．調査の目的

文京区では障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文の京（ふみ みやこ）ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者・児計画」に基づき、様々な障害福祉施策を推進しています。

令和２年度に次期計画（令和３度～令和５年度）を改定するにあたり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握するため、実態・意向調査を実施いたしました。

また、区内の障害福祉サービス事業所等を対象に、事業所の概要や福祉人材の現状を把握することにより、今後の障害福祉サービス基盤整備に資するための基礎資料とします。

２．調査の対象と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者及び 18 歳未満の方を対象とした量的調査（アンケート調査）、及び区内施設を利用する知的障害者、精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の２種類を実施しました。

2. 量的調査（アンケート調査）

１．調査の種類

調査の種類	対象者
在宅の方用	・文京区内に居住している身体障害者手帳をお持ちの 18 歳以上の方（肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数） ・文京区内に居住している愛の手帳をお持ちの 18 歳以上の方（全数） ・文京区内に居住している精神障害者保健福祉手帳をお持ちの 18 歳以上の方（全数） ・文京区内に居住している難病医療券をお持ちの 18 歳以上の方（全数）
18 歳未満の方用	・文京区内に居住している身体障害者手帳をお持ちの 18 歳未満の方 ・文京区内に居住している愛の手帳をお持ちの 18 歳未満の方 ・文京区内に居住している精神障害者保健福祉手帳をお持ちの 18 歳未満の方 ・文京区内に居住している難病医療券をお持ちの 18 歳未満の方 ・文京区内に居住している障害児通所支援受給者証をお持ちの 18 歳未満の方
施設に入所している方用	・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の 18 歳以上の方
サービス事業所の方用	・文京区内の指定障害福祉サービス等事業所

２．調査方法

調査票を郵送配布し、郵送回収する方法で実施しました。

３．調査期間

令和元年１０月４日～１０月３１日

４．配布・回収状況

調査の種類	配布数	有効回収票数	有効回収率
在宅の方用	4,610	2,022	43.9%
18 歳未満の方用	480	256	53.3%
施設に入所している方用	142	70	49.3%
サービス事業所の方用	94	49	52.1%
合計	5,326	2,397	45.0%

（注）

・「在宅の方調査」の身体障害、知的障害、精神障害、難病（特定疾病）の合計は、重複障害者が含まれているため全体の回答者数と一致しません。

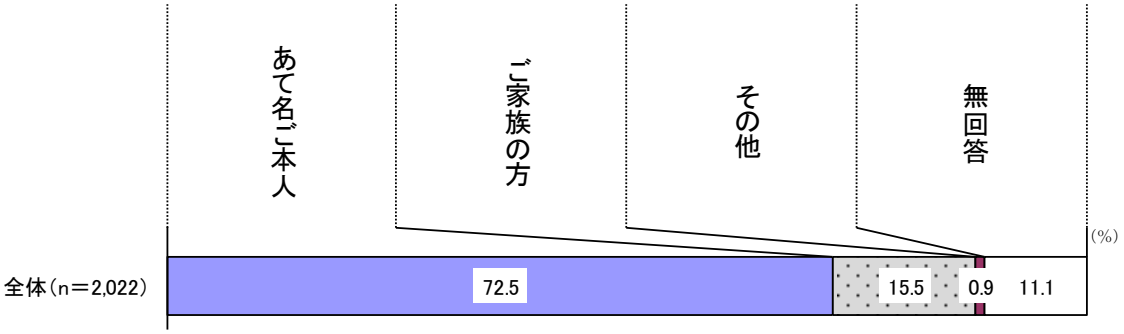
・「施設入所の方調査」の精神障害、難病（特定疾病）は回答者がいないため、分析では触れていません。

3. 在宅の方を対象にした調査

1．対象者特性

（1-1）回答者（問１）

《全体》



回答者についてみると、「あて名ご本人」が 72.5%、「ご家族の方」が 15.5%となっています。

《障害の種類別》

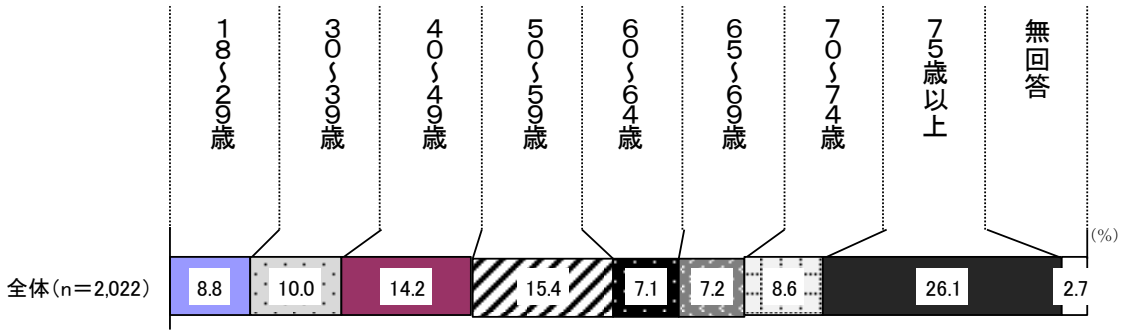
(%)

	調査数	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
身体障害	821	70.8	15.7	1.0	12.5
知的障害	247	32.8	56.3	3.6	7.3
精神障害	436	80.7	7.1	0.5	11.7
難病（特定疾病）	606	82.3	8.1	0.5	9.1

回答者について障害別にみると、〔身体障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕は「あて名ご本人」が７割から８割と最も多くなっており、〔知的障害〕は「ご家族の方」が最も多く 56.3%となっています。

（1-2）年齢（問２）

《全体》



年齢についてみると、「75 歳以上」が 26.1%と最も多くなっており、次いで「50～59 歳」が 15.4%、「40～49 歳」が 14.2%となっています。

《障害の種類別》

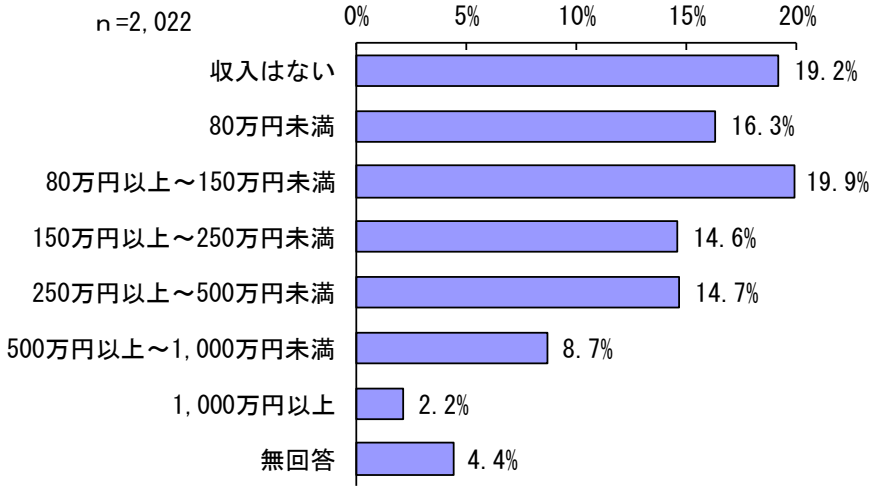
(%)

	調査数	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳
身体障害	821	3.2	4.3	7.7	7.4	5.7	9.4
知的障害	247	36.4	19.4	20.6	11.7	4.0	1.6
精神障害	436	10.3	18.3	22.7	27.5	8.5	5.3
難病（特定疾病）	606	5.8	9.2	14.7	20.6	9.9	7.9

	調査数	70～74 歳	75 歳以上	無回答
身体障害	821	12.7	47.3	2.4
知的障害	247	1.6	2.4	2.0
精神障害	436	2.8	1.8	2.8
難病（特定疾病）	606	8.7	21.0	2.1

年齢について障害別にみると、〔身体障害〕、〔難病（特定疾病）〕については「75 歳以上」がそれぞれ 47.3%、21.0%が最も多くなっています。また、〔知的障害〕は「18～29 歳」が 36.4%、〔精神障害〕は「50～59 歳」が 27.5%で最も多くなっています。

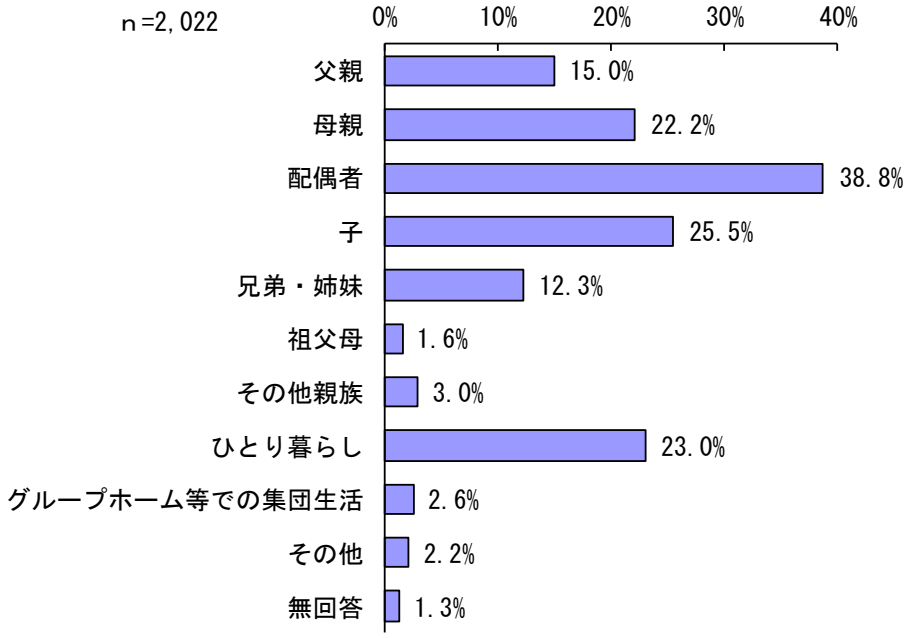
（1-3）年収（問３）



本人の収入についてみると、「80 万円以上～150 万円未満」が 19.9%、「収入はない」が 19.2%と２割近くで多く、150 万円未満が全体の過半数を超えています。

（1-4）同居家族（問５）

《全体》



同居家族についてみると、「配偶者」が 38.8%と最も多く、次いで「子」25.5%、「ひとり暮らし」23.0%、「母親」22.2%となっています。

《障害の種類別》

(%)

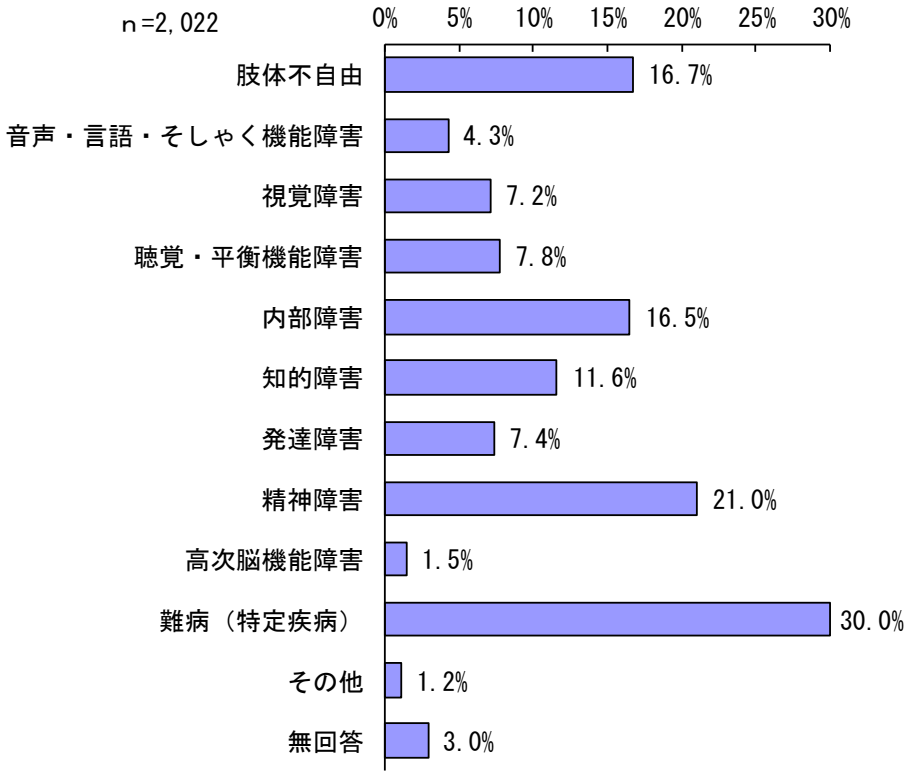
	調査数	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
身体障害	821	5.6	8.9	**45.4**	31.7	5.7	0.7
知的障害	247	57.1	**76.5**	2.8	2.0	40.9	5.3
精神障害	436	24.1	**36.2**	20.6	15.8	17.7	3.2
難病（特定疾病）	606	6.6	11.6	**56.4**	33.3	7.1	0.2

	調査数	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
身体障害	821	4.6	25.8	1.6	3.2	1.5
知的障害	247	2.0	2.4	14.2	0.4	1.2
精神障害	436	1.4	29.8	1.4	2.5	0.9
難病（特定疾病）	606	2.3	21.3	1.0	1.2	0.8

同居家族について障害別にみると、〔身体障害〕、〔難病（特定疾病）〕では、「配偶者」がそれぞれ 45.4%、56.4%で最も多くなっています。また、〔知的障害〕、〔精神障害〕では、「母親」がそれぞれ 76.5%、36.2%で最も多くなっています。他の障害と比較して、〔知的障害〕では、「兄弟・姉妹」が 40.9%、「グループホーム等での集団生活」が 14.2%と多くなっています。

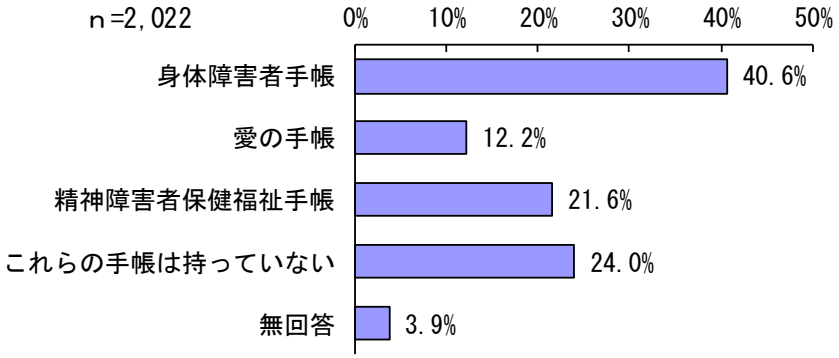
２．障害と健康について

（2-1）障害の種類（問６）



障害の種類については、「難病（特定疾病）」が 30.0%と最も多く、次いで「精神障害」が 21.0%、「肢体不自由」が 16.7%、「内部障害」が 16.5%となっています。

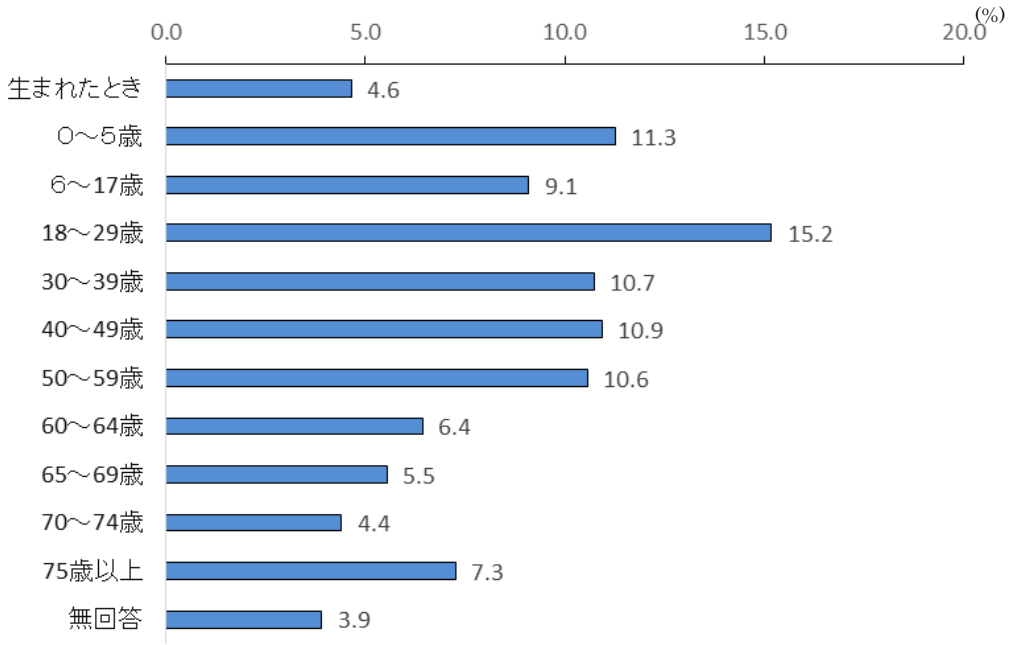
（2-2）手帳の所持状況（問７）



手帳の所持状況については、「身体障害者手帳」が 40.6%と最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が 21.6%、「愛の手帳」が 12.2%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は 24.0%となっています。

（2-3）障害に最初に気づいた時期（問８）

《全体》



本人や家族等が障害に気づいた時期についてみると、「18～29 歳」が 15.2％で最も多く、以下「0～5 歳」が 11.3％、「30～39 歳」が 10.7％となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	生まれたとき	0～5 歳	6～17 歳	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳
身体障害	821	5.7	9.1	6.1	6.9	7.1	9.5
知的障害	247	21.5	**56.7**	16.2	2.0	0.8	0.4
精神障害	436	0.9	6.7	14.9	**36.5**	18.3	13.8
難病（特定疾病）	606	0.3	2.8	6.4	15.3	15.0	**16.2**

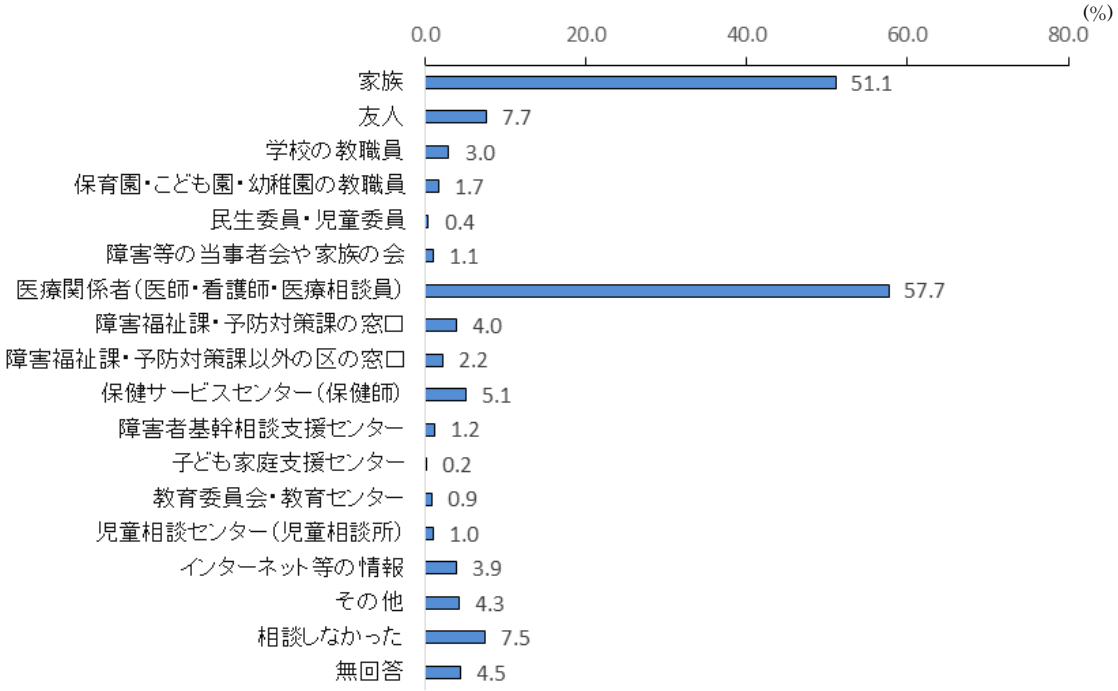
	調査数	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75 歳以上	無回答
身体障害	821	**13.3**	10.7	8.4	8.2	13.0	1.9
知的障害	247	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	1.6
精神障害	436	6.0	0.9	0.5	0.7	0.5	0.5
難病（特定疾病）	606	15.7	6.9	6.9	3.3	5.4	6.0

本人や家族等が障害に気づいた時期について障害別にみると、〔身体障害〕では、「50～59 歳」13.3％、「75 歳以上」が 13.0％と多くなっているのに対して、〔知的障害〕では「０～５歳」が 56.7％と過半数を超えて最も多くなっています。

また、〔精神障害〕では、「18～29 歳」が 36.5％、〔難病（特定疾病）〕では「40～49 歳」が 16.2％とそれぞれ最も多くなっています。

（2-4）障害に最初に気づいた時の相談相手（問９）

《全体》



相談相手についてみると「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」（57.7%）と「家族」（51.1%）の２つに集中しています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	家族	友人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
身体障害	821	49.2	6.8	0.7	0.5	0.4	0.4
知的障害	247	51.0	5.3	9.7	12.1	0.4	5.7
精神障害	436	55.0	12.2	5.7	0.9	0.9	1.1
難病（特定疾病）	606	53.6	8.1	1.7	0.2	0.0	0.5

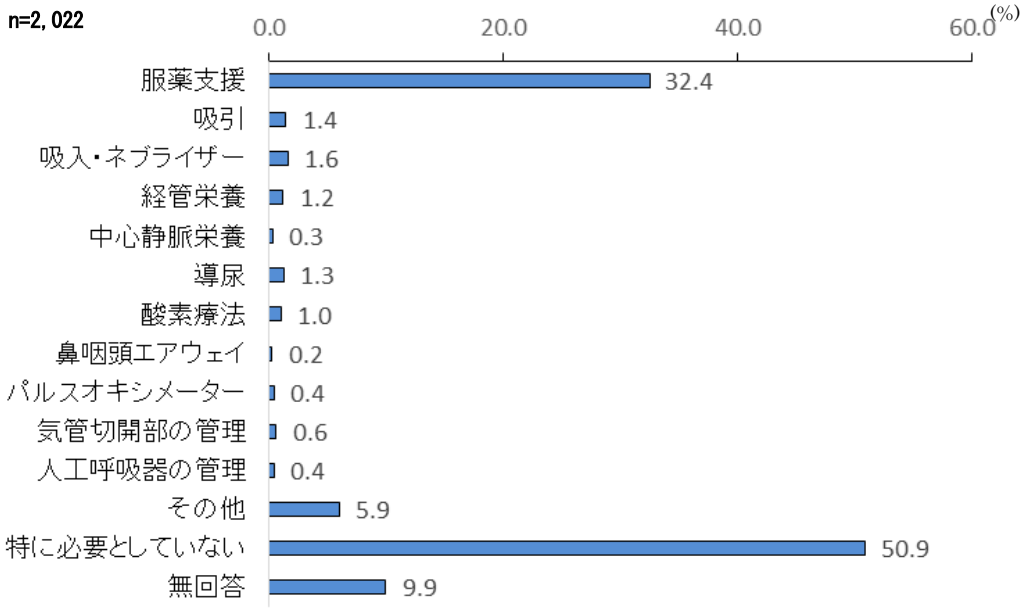
	調査数	医療関係者（医師・看護師・医療相談員）	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター（保健師）	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター
身体障害	821	58.0	3.5	2.9	1.9	1.0	0.0
知的障害	247	49.8	7.3	2.4	16.2	4.0	0.4
精神障害	436	56.4	6.4	3.4	10.8	1.8	0.7
難病（特定疾病）	606	65.3	1.3	0.7	2.5	0.5	0.0

	調査数	教育委員会・教育センター	児童相談センター（児童相談所）	インターネット等の情報	その他	相談しなかった	無回答
身体障害	821	0.0	0.1	1.2	5.4	7.7	3.4
知的障害	247	6.9	6.9	3.2	7.7	4.5	4.5
精神障害	436	0.9	0.9	5.7	4.8	10.1	0.5
難病（特定疾病）	606	0.0	0.0	6.1	2.3	6.6	4.5

相談相手について障害別にみると、〔身体障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が、〔知的障害〕では「家族」が最も多くなっています。

（2-5）必要とする医療的ケア（問 13）

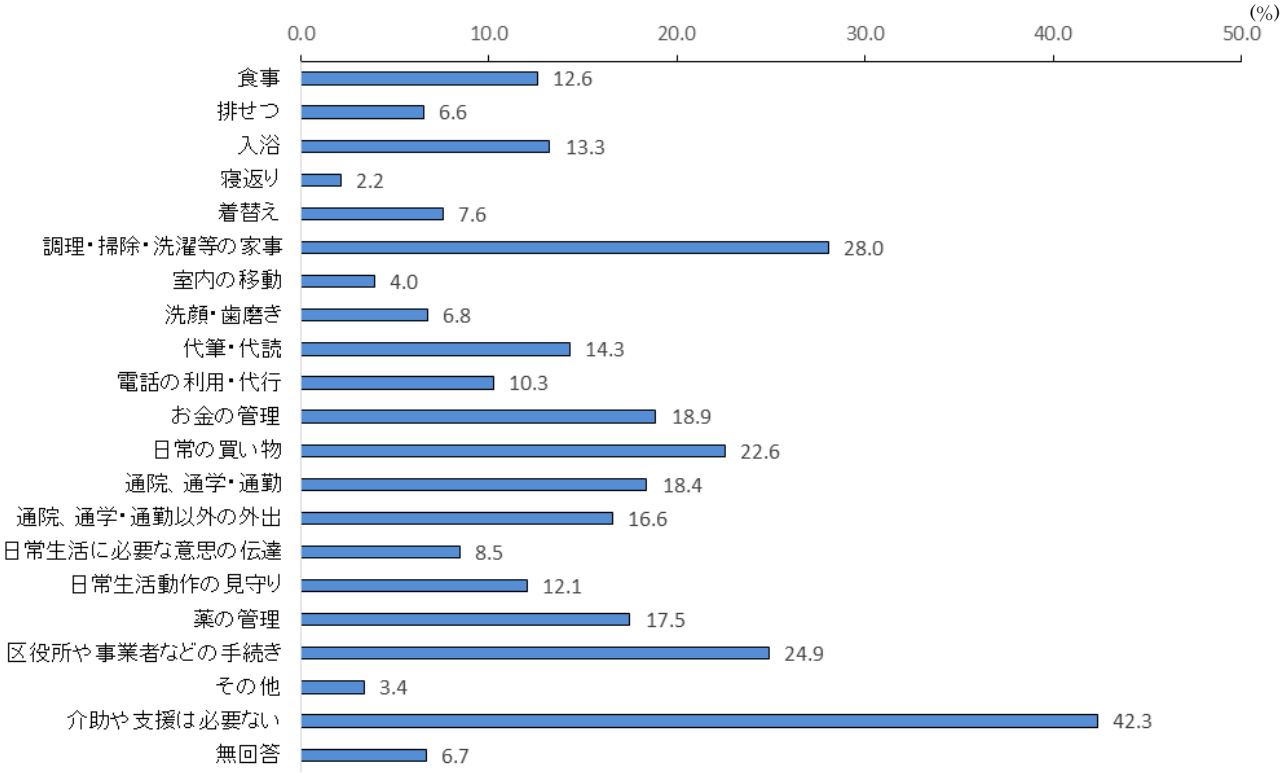
《全体》



必要な医療的ケアについては「服薬支援」が 32.4%で最も多く、次いで「吸入・ネブライザー」(1.6%)、「吸引」(1.4%)、「導尿」(1.3%) となっています。

（2-6）日常生活で必要な介助・支援（問 14）

《全体》



日常生活で必要な介助・支援についてみると、「調理・掃除・洗濯等の家事」が 28.0%で最も多く、「区役所や事業者などの手続き」が 24.9%でこれに次いでいます。

一方、「介助や支援は必要ない」は 42.3%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事
身体障害	821	15.2	8.9	17.9	3.8	10.6	**28.9**
知的障害	247	31.2	20.2	32.0	2.0	21.1	59.9
精神障害	436	11.0	2.3	6.2	1.1	2.5	**31.9**
難病（特定疾病）	606	6.8	5.4	10.6	2.0	5.8	17.2

	調査数	室内の移動	洗顔・歯磨き	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理	日常の買い物
身体障害	821	6.8	7.3	17.5	12.7	14.3	26.8
知的障害	247	5.7	29.1	48.2	35.6	67.2	49.8
精神障害	436	1.6	3.4	6.2	5.3	21.6	15.8
難病（特定疾病）	606	3.5	3.6	5.9	3.6	7.4	15.5

	調査数	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	薬の管理	区役所や事業者などの手続き
身体障害	821	21.2	19.9	6.6	12.1	15.8	25.0
知的障害	247	46.2	46.2	40.5	40.5	53.0	**67.6**
精神障害	436	10.8	10.8	8.0	10.1	20.2	22.0
難病（特定疾病）	606	9.7	9.7	2.1	5.9	8.3	13.2

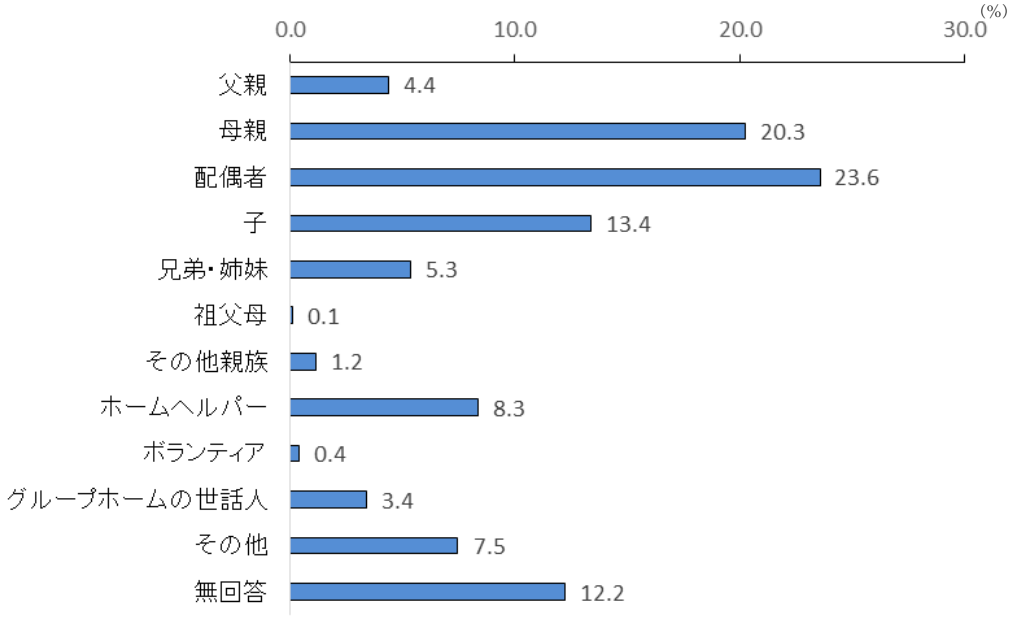
	調査数	その他	介助や支援は必要ない	無回答
身体障害	821	2.7	36.4	7.8

知的障害	247	4.0	11.3	5.7
精神障害	436	6.0	34.6	6.2
難病（特定疾病）	606	3.0	**66.5**	3.6

日常生活で必要な介助や支援について障害別にみると、〔身体障害〕、〔精神障害〕では「調理・掃除・洗濯等の家事」がそれぞれ 28.9%、31.9%と最も多くなっています。一方、〔知的障害〕では「区役所や事業者などの手続き」が 67.6%、「お金の管理」が 67.2%と多くなっています。

（2-7）主な介助者（問 15）

《全体》



主な介助者をみると、「配偶者」が 23.6%で最も多く、次いで「母親」が 20.3%、「子」が 13.4%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
身体障害	458	1.3	7.0	**30.6**	21.2	3.1	0.2
知的障害	205	10.2	**58.0**	0.0	0.0	7.3	0.0
精神障害	258	7.8	**25.2**	15.9	3.5	9.3	0.0
難病（特定疾病）	181	0.6	9.4	**40.9**	19.3	2.8	0.0

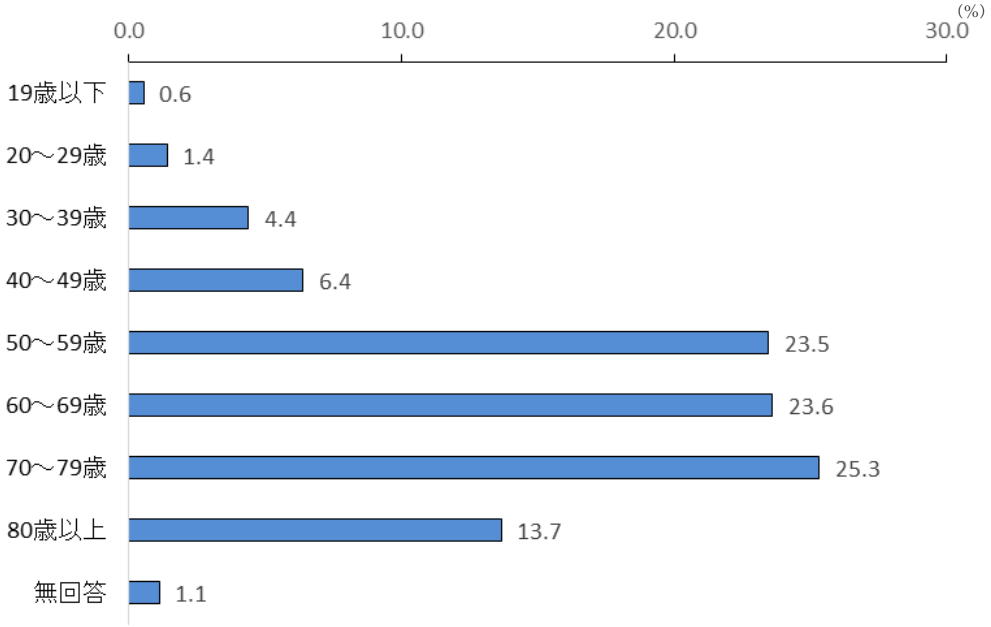
	調査数	その他親族	ホームヘルパー	ボランティア	グループホームの世話人	その他	無回答
身体障害	458	2.0	10.7	0.4	2.8	8.3	12.4
知的障害	205	0.5	1.0	0.0	11.2	1.0	10.7
精神障害	258	0.4	9.7	0.8	1.6	10.1	15.9
難病（特定疾病）	181	1.7	7.2	1.1	1.1	7.7	8.3

主な介助者・支援者を障害別にみると、〔身体障害〕では「配偶者」が 30.6%、〔難病（特定疾病）〕では 40.9%と最も多くなっています。

一方、〔知的障害〕では「母親」が 58.0%、〔精神障害〕では 25.2%と最も多くなっています。

（2-7）主な介助者の年齢（問 15-1）

《全体》



主な介助者・支援者の年齢をみると、「70～79 歳」が 25.3%で最も多く、次いで「60～69 歳」が 23.6%、「50～59 歳」が 23.5%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	19 歳以下	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳
身体障害	299	0.7	0.6	4.3	7.0	22.7	24.1
知的障害	156	0.0	0.0	0.6	1.9	**33.3**	32.1
精神障害	160	0.6	2.5	6.9	10.6	16.3	25.0
難病（特定疾病）	135	1.5	4.4	5.9	5.2	21.5	17.8

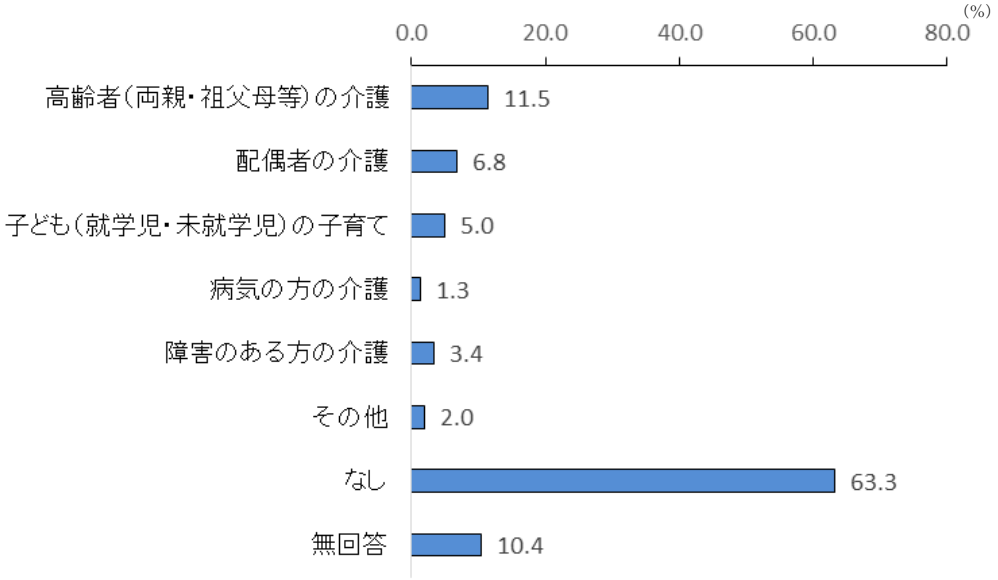
	調査数	70～79 歳	80 歳以上	無回答
身体障害	299	**25.1**	14.4	1.0
知的障害	156	17.9	12.8	1.3
精神障害	160	**26.9**	8.8	2.5
難病（特定疾病）	135	**28.1**	15.6	0.0

主な介助者・支援者の年齢を障害別にみると、〔身体障害〕では「70～79 歳」が 25.1%、〔精神障害〕では 26.9%、〔難病（特定疾病)〕では 28.1%と最も多くなっています。

一方、〔知的障害〕では「50～59 歳」が 33.3%と最も多くなっています。

（2-8）主な介助者による介助状況（問 16）

《全体》



主な介助者による対象者以外の介助状況をみると、「なし」が 63.3%で最も多く、次いで「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が 11.5%、「配偶者の介護」が 6.8%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	高齢者（両親・祖父母等）の介護	配偶者の介護	子ども（就学児・未就学児）の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	なし
身体障害	299	7.7	7.0	4.7	0.3	2.0	64.9
知的障害	156	19.2	4.5	3.8	0.0	2.6	61.5
精神障害	160	15.6	6.3	8.1	2.5	2.5	58.1
難病（特定疾病）	135	8.9	8.9	5.9	1.5	0.7	66.0

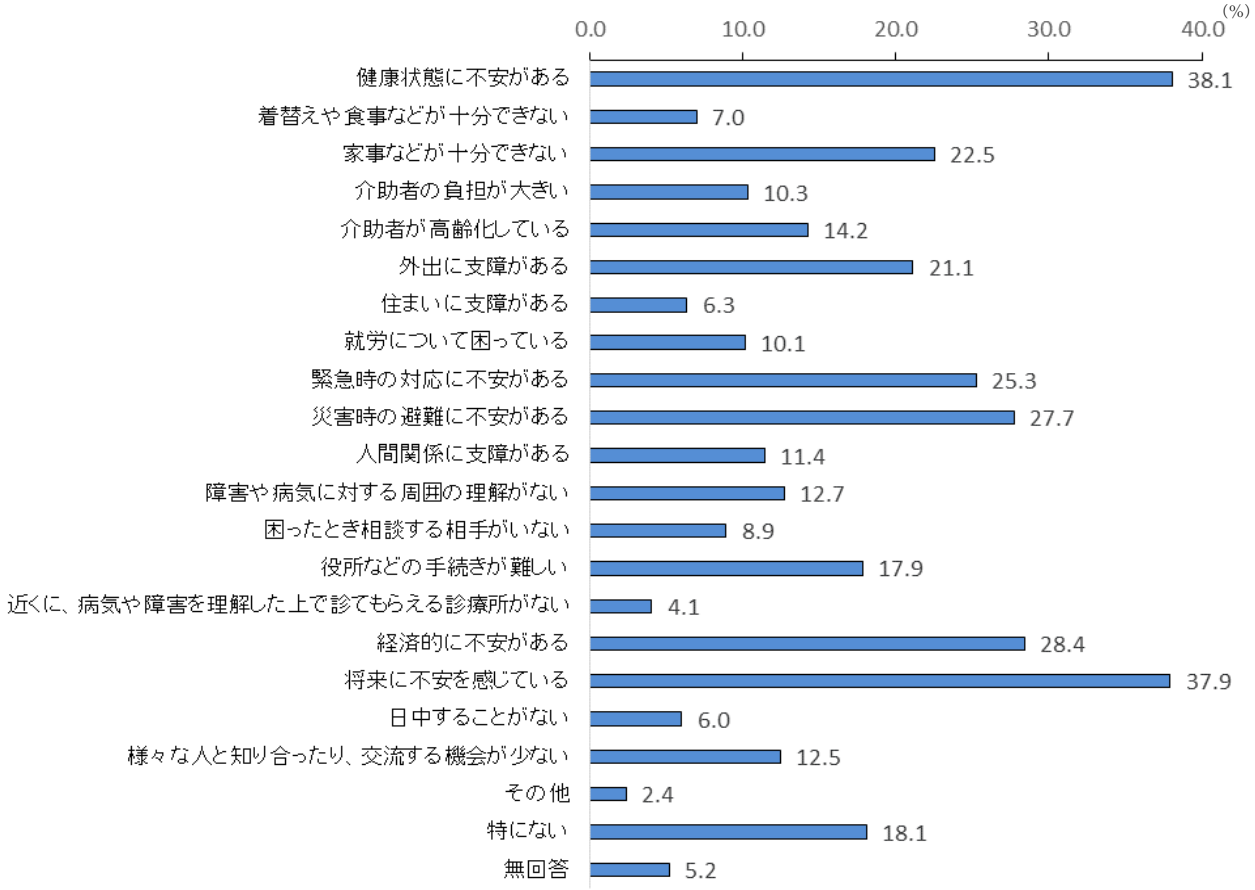
	調査数	無回答
身体障害	299	12.7
知的障害	156	7.1
精神障害	160	10.0
難病（特定疾病）	135	8.9

主な介助者による対象者以外の介助状況を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕ともに「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が最も多く、〔難病（特定疾病）〕では「配偶者の介護」が最も多くなっています。

３．相談や福祉の情報について

（3-1）日常生活で困っていること（問 18）

《全体》



日常生活で困っていることをみると、「健康状態に不安がある」（38.1%）、「将来に不安を感じている」（37.9%）が４割近くと、特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある
身体障害	821	33.9	6.9	18.8	10.0	12.7	25.1
知的障害	247	24.7	13.4	39.7	20.2	28.7	31.6
精神障害	436	47.0	7.8	31.0	11.5	17.9	15.8
難病（特定疾病）	606	46.2	5.6	17.0	6.9	8.7	19.5

	調査数	住まいに支障がある	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない
身体障害	821	6.3	4.5	26.4	31.9	3.7	7.1
知的障害	247	6.9	10.1	51.0	47.0	21.5	15.0
精神障害	436	11.9	25.5	25.5	26.4	32.6	26.4
難病（特定疾病）	606	2.5	7.4	16.2	20.1	2.5	9.7

	調査数	困ったとき相談する相手がいない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
身体障害	821	6.7	15.1	3.0	20.3	27.0	5.1
知的障害	247	14.2	41.3	9.3	26.7	44.5	8.9
精神障害	436	16.5	21.1	4.1	53.4	60.3	9.4
難病（特定疾病）	606	3.6	9.7	2.6	22.8	35.0	2.6

	調査数	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
身体障害	821	9.1	2.1	20.5	7.2
知的障害	247	17.8	3.6	12.6	4.5
精神障害	436	24.1	4.1	6.4	3.0
難病（特定疾病）	606	5.3	1.5	24.8	2.8

日常生活で困っていることを障害別にみると、〔身体障害〕では「健康状態に不安がある」が 33.9%、「災害時の避難に不安がある」が 31.9%といずれも３割強で多くなっています。

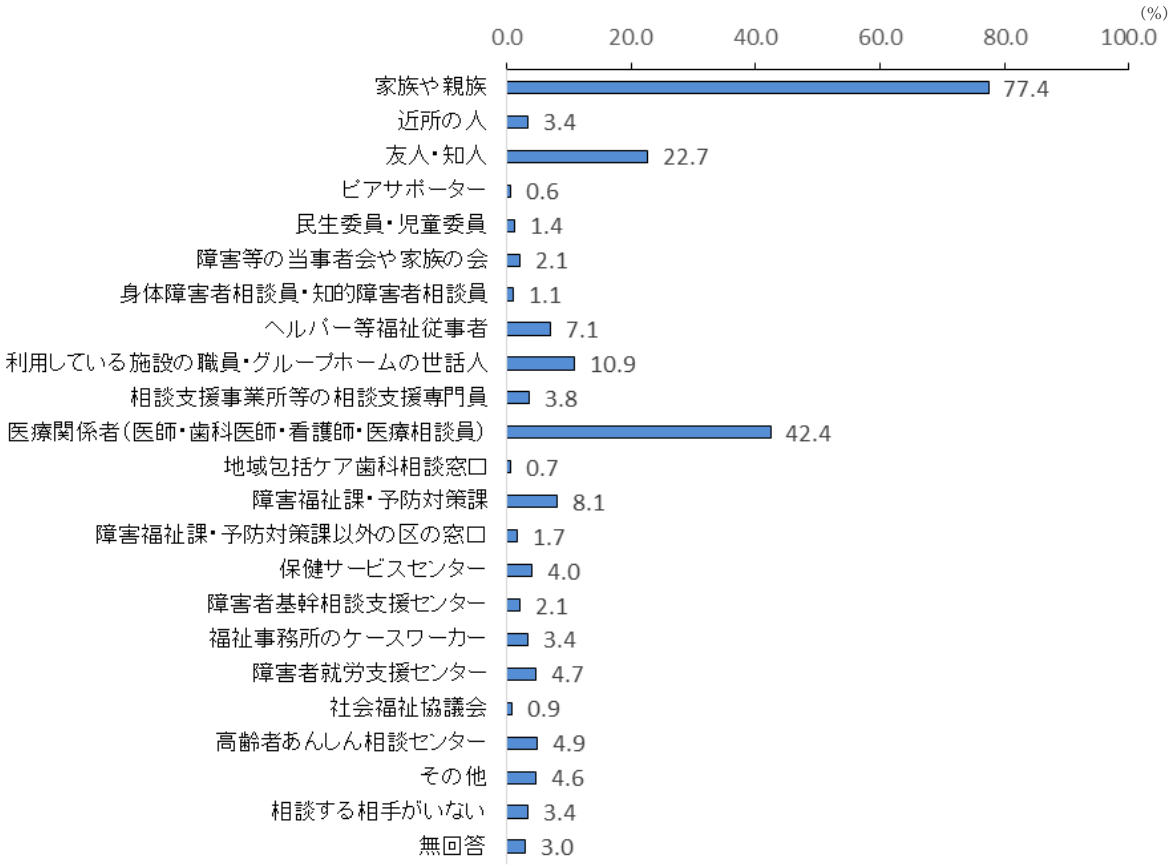
また、〔知的障害〕では、「緊急時の対応に不安がある」が 51.0%と最も多くなっています。

一方、〔精神障害〕では、「将来に不安を感じている」が 60.3%と最も多く、次いで「経済的に不安がある」が 53.4%と過半数を超えています。

〔難病（特定疾病)〕では、「健康状態に不安がある」が 46.2%と最も多くなっています。

（3-2）困った時の相談相手（問 19）

《全体》



困ったときの相談相手をみると、「家族や親族」（77.4%）、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」（42.4%）が特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
身体障害	821	77.5	4.5	23.5	0.4	1.8	2.3
知的障害	247	81.4	4.0	8.9	1.2	1.6	8.1
精神障害	436	70.0	2.1	23.6	1.1	1.4	1.1
難病（特定疾病）	606	82.2	2.1	29.0	0.5	0.3	2.0

	調査数	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	地域包括ケア歯科相談窓口
身体障害	821	1.2	10.8	7.1	2.3	35.3	1.1
知的障害	247	4.5	6.1	42.1	9.3	28.3	0.8
精神障害	436	0.9	4.6	13.1	7.8	54.1	0.0
難病（特定疾病）	606	0.5	5.1	4.5	1.0	52.3	0.3

	調査数	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター
身体障害	821	7.4	2.2	0.9	1.1	3.2	1.5
知的障害	247	18.2	4.9	1.2	6.9	2.8	15.0
精神障害	436	11.9	0.5	12.8	3.4	7.3	12.4
難病（特定疾病）	606	4.0	1.2	3.1	0.3	1.0	0.8

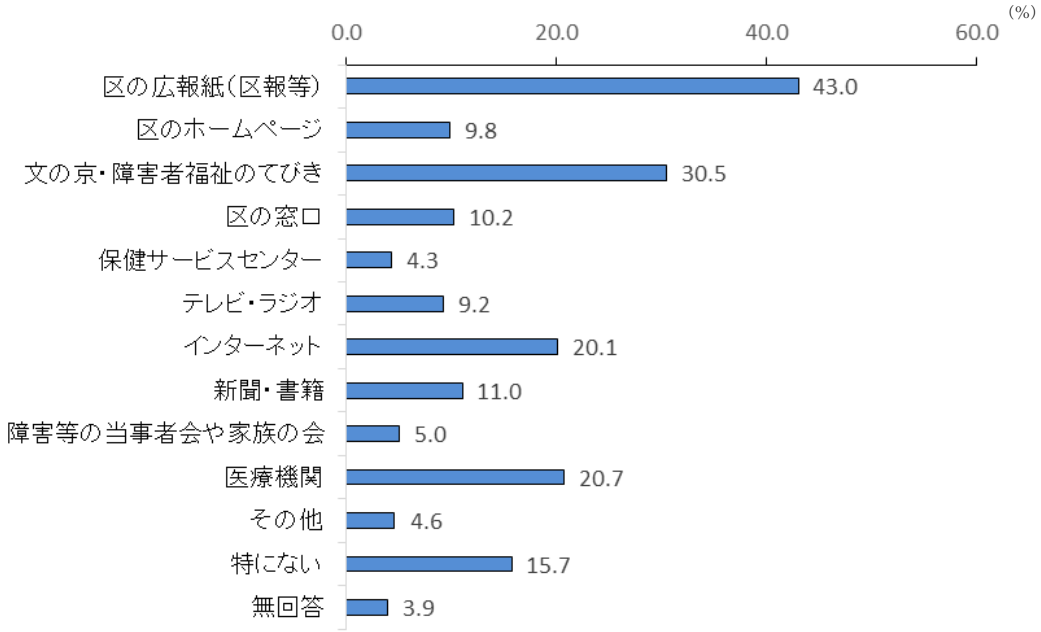
	調査数	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	その他	相談する相手がいない	無回答
身体障害	821	1.5	7.2	3.0	3.2	3.4
知的障害	247	0.4	0.8	4.0	1.6	2.8
精神障害	436	1.4	2.3	8.3	5.3	2.8
難病（特定疾病）	606	0.0	5.1	4.0	3.1	1.7

困った時の相談相手を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では、いずれも「家族や親族」が７～８割強を占めて最も多くなっています。

次いで〔身体障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では、いずれも医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が多くなっていますが、〔知的障害〕では「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が 42.1%と４割を超えて高くなっています。

（3-3）福祉に関する情報の入手先（問 20）

《全体》



福祉に関する情報の入手先をみると、「区の広報誌（区報等）」（43.0%）、「文の京・障害者福祉のてびき」（30.5%）が特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	区の広報誌（区報等）	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ
身体障害	821	49.1	7.9	45.6	8.0	1.7	12.4
知的障害	247	45.7	6.1	49.8	18.2	0.8	3.6
精神障害	436	34.2	11.2	23.9	10.8	10.1	7.3
難病（特定疾病）	606	42.9	13.4	12.7	10.4	4.8	8.9

	調査数	インターネット	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	その他	特にない
身体障害	821	14.0	14.1	4.6	17.5	4.3	14.0
知的障害	247	10.1	7.3	18.6	7.3	7.3	16.2
精神障害	436	26.8	9.9	3.9	27.3	6.2	16.7
難病（特定疾病）	606	29.0	9.7	2.6	28.2	3.5	15.8

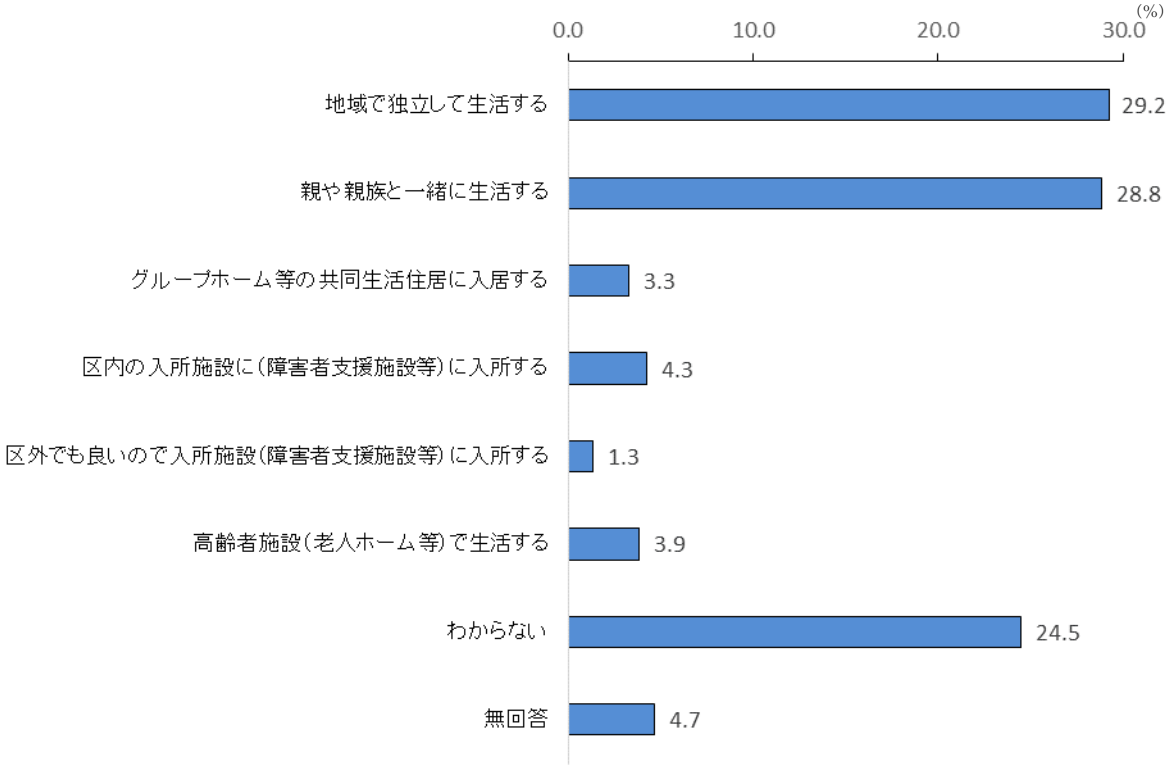
	調査数	無回答
身体障害	821	3.3
知的障害	247	5.3
精神障害	436	3.7
難病（特定疾病）	606	2.8

福祉の情報の入手先を障害別にみると、〔身体障害〕では「区の広報紙（区報等）」が 49.1%、〔精神障害〕では 34.2%、〔難病（特定疾病）〕では 42.9%と最も多くなっています。

一方、〔知的障害〕では、「文の京・障害者福祉のてびき」が 49.8%と最も多く、また「区の広報紙」も 45.7%と４割を超えています。

（3-4）今後希望する生活（問 21）

《全体》



今後希望する生活をみると、「地域で独立して生活する」（29.2%）、「親や親族と一緒に生活する」（28.8%）が特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設（障害者支援施設等）に入所する	区外でも良いので入所施設（障害者支援施設等）に入所する	高齢者施設（老人ホーム等）で生活する
身体障害	821	27.5	27.2	2.2	4.6	1.7	5.6
知的障害	247	8.5	29.6	18.2	15.0	2.8	1.2
精神障害	436	39.2	25.7	1.1	1.6	0.9	1.1
難病（特定疾病）	606	32.3	33.2	0.8	2.6	0.5	4.0

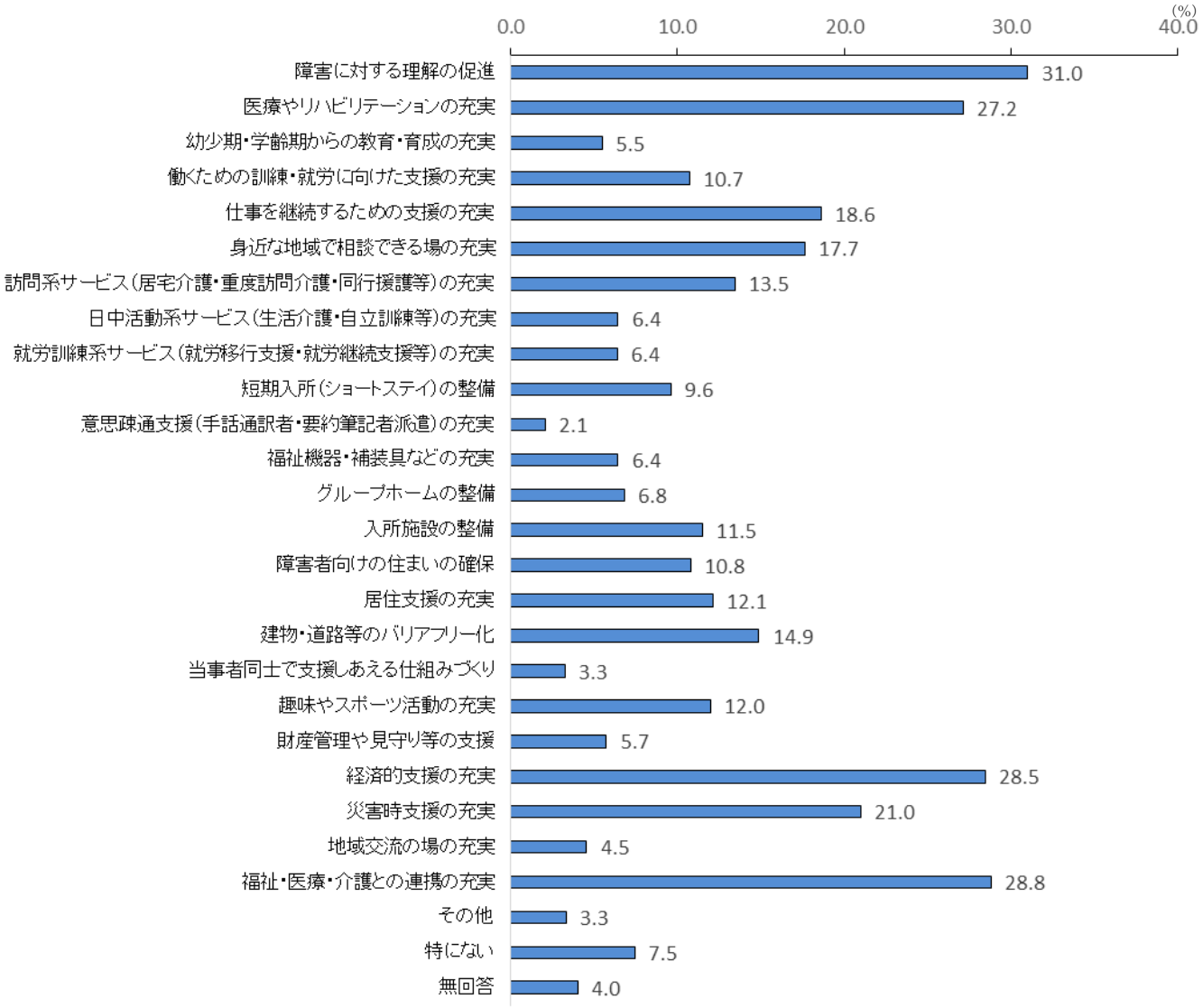
	調査数	わからない	無回答
身体障害	821	26.7	4.5
知的障害	247	17.8	6.9
精神障害	436	25.9	4.4
難病（特定疾病）	606	22.4	4.1

今後希望する生活について障害別にみると、〔身体障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では、「地域で独立して生活する」と「親や親族と一緒に生活する」が多くなっています。

一方、〔知的障害〕では、「親や親族と一緒に生活する」が29.6%と最も多く、次いで「グループホーム等の共同生活住居に入居する」が18.2%、「区内の入所施設（障害者支援施設等）に入所する」が15.0%となっています。

（3-5）地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問 22）

《全体》



地域で安心して暮らしていくために必要な施策をみると、「障害に対する理解の促進」（31.0%）、「福祉・医療・介護との連携の充実」（28.8%）、「経済的支援の充実」（28.5%）がそれぞれ約 3 割を占め、特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実
身体障害	821	29.1	**33.0**	4.1	4.3	8.6	13.5
知的障害	247	**36.4**	13.0	6.5	15.4	24.7	17.4
精神障害	436	**45.6**	15.6	7.6	24.8	29.8	28.0
難病（特定疾病）	606	23.6	35.3	5.9	7.8	21.8	15.8

	調査数	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	就労訓練系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実
身体障害	821	19.6	5.4	2.2	10.0	4.3	12.4
知的障害	247	7.7	19.0	13.0	23.5	1.2	2.0
精神障害	436	6.4	4.6	15.4	4.1	0.5	0.7
難病（特定疾病）	606	14.7	4.6	2.8	8.7	0.5	5.9

	調査数	グループホームの整備	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
身体障害	821	3.7	11.7	10.2	11.9	21.2	2.3
知的障害	247	34.0	27.5	18.2	9.7	8.1	1.6
精神障害	436	4.6	3.7	16.5	14.4	4.4	4.8
難病（特定疾病）	606	2.5	11.7	5.1	11.9	19.1	3.6

	調査数	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実
身体障害	821	10.5	2.9	20.1	25.1	4.3	32.3
知的障害	247	16.6	19.4	19.8	20.6	3.2	26.7
精神障害	436	14.7	8.3	43.1	15.4	5.0	19.3
難病（特定疾病）	606	9.4	3.0	33.8	21.8	5.0	36.1

	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	821	3.3	7.9	4.5
知的障害	247	2.4	6.1	2.8
精神障害	436	5.0	3.7	3.7
難病（特定疾病）	606	3.1	8.3	2.8

地域で安心して暮すために必要な施策を障害別にみると、〔身体障害〕では「医療やリハビリテーションの充実」が 33.0%で最も多く、次いで「福祉・医療・介護との連携の充実」が 32.3%と３割を超えています。

〔知的障害〕では、「障害に対する理解の促進」が 36.4%と最も多く、次いで「グループホームの整備」が 34.0%と３割を超えています。

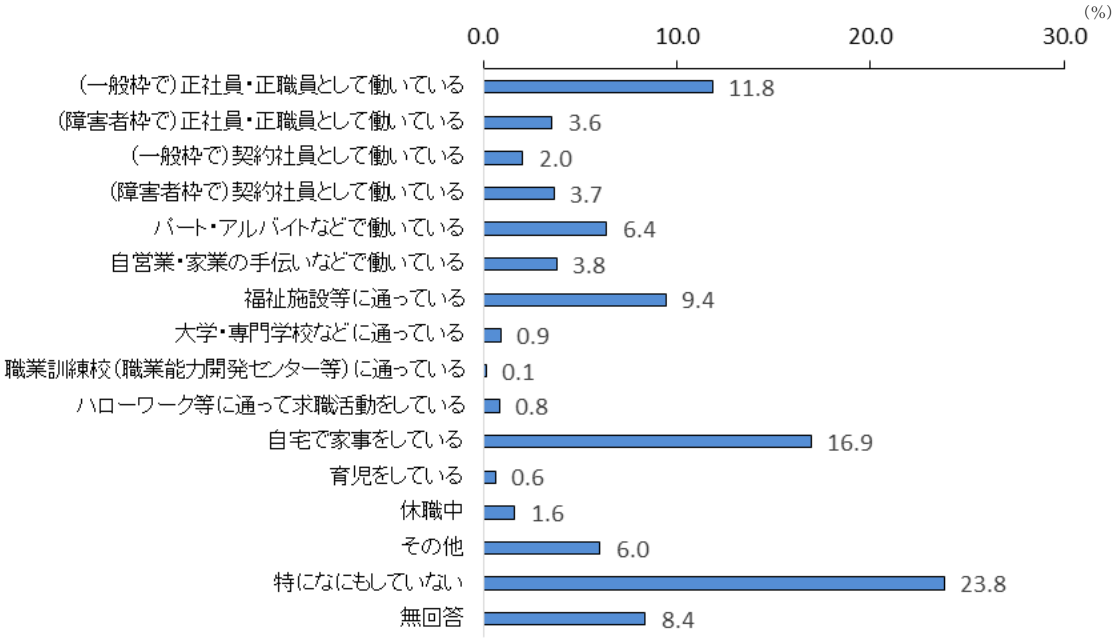
〔精神障害〕では、「障害に対する理解の促進」が 45.6%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」が 43.1%と４割を超えています。

〔難病（特定疾病)〕では、「福祉・医療・介護との連携の充実」が 36.1%と最も多く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」が 35.3%、「経済的支援の充実」が 33.8%と３割を超えています。

４．日中活動や外出について

（4-1）平日の日中の過ごし方（問 31）

《全体》



平日の日中の過ごし方をみると、「特に何もしていない」（23.8%）が多く、次いで「自宅で家事をしている」（16.9%）、「(一般枠で）正社員・正職員として働いている」（11.8%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	(一般枠で)正社員・正職員として働いている	(障害者枠で）正社員・正職員として働いている	(一般枠で)契約社員として働いている	(障害者枠で）契約社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	自営業・家業の手伝いなどで働いている
身体障害	821	8.4	3.7	1.7	2.4	3.3	4.1
知的障害	247	2.0	9.7	1.6	11.3	4.0	0.4
精神障害	436	6.2	4.1	0.5	6.9	9.6	1.6
難病（特定疾病）	606	23.9	0.8	4.0	1.0	8.4	6.4

	調査数	福祉施設等に通っている	大学・専門学校などに通っている	職業訓練校（職業能力開発センター等）に通っている	ハローワーク等に通って求職活動をしている	自宅で家事をしている	育児をしている
身体障害	821	4.5	1.2	0.0	0.2	19.4	0.1
知的障害	247	48.6	0.4	0.4	0.0	2.0	0.0
精神障害	436	13.1	0.9	0.5	2.1	17.7	0.9
難病（特定疾病）	606	1.3	0.7	0.0	0.7	17.0	1.2

	調査数	休職中	その他	特になにもしていない	無回答
身体障害	821	1.1	5.8	32.8	11.2
知的障害	247	0.8	4.5	8.5	5.7
精神障害	436	3.9	8.5	19.5	4.1
難病（特定疾病）	606	1.3	4.6	21.8	6.8

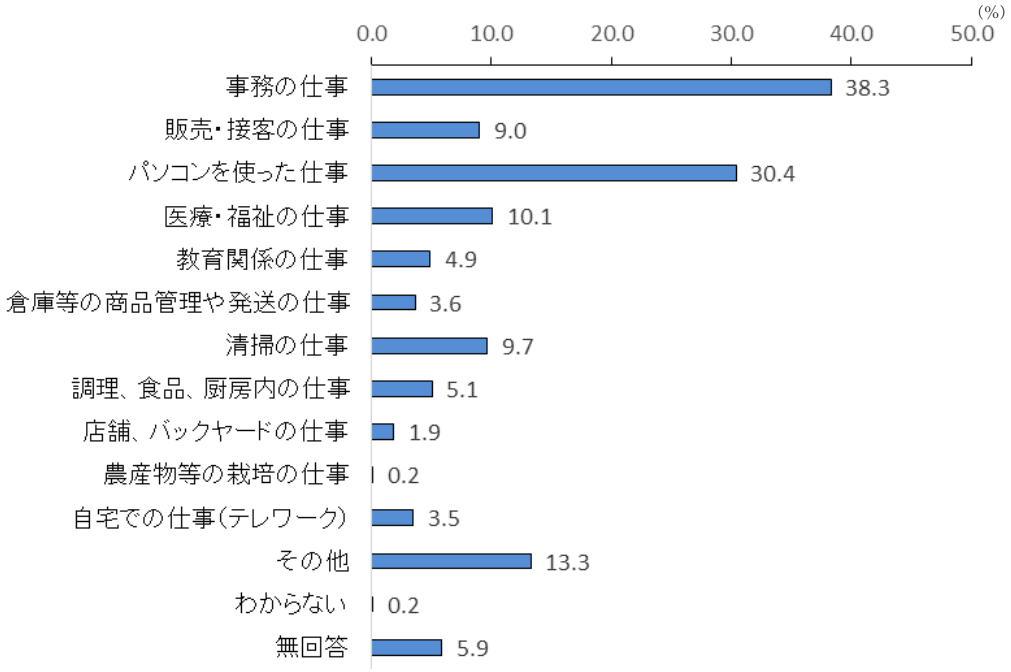
平日の日中の過ごし方について障害種別でみると、〔身体障害〕では、「特に何もしていない」が 32.8%、〔精神障害〕では 19.5%と最も多くなっています。

一方、〔知的障害〕では、「福祉施設等に通っている」が 48.6%と５割近くで最も多くなっています。

また、〔難病（特定疾病)〕では「(一般枠で）正社員・正職員として働いている」が 23.9%と最も多くなっています。

（4-2）（仕事をしている方について）仕事の内容（問 31-2）

《全体》



仕事をしている方の仕事内容をみると、「事務の仕事」（38.3%）が多く、次いで「パソコンを使った仕事」（30.4%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	事務の仕事	販売・接客の仕事	パソコンを使った仕事	医療・福祉の仕事	教育関係の仕事	倉庫等の商品管理や発送の仕事
身体障害	194	39.7	9.3	25.8	9.8	4.6	5.7
知的障害	72	20.8	4.2	15.3	1.4	0.0	13.9
精神障害	126	42.9	7.1	38.1	5.6	5.6	4.8
難病（特定疾病）	270	44.1	11.1	37.4	6.3	6.3	0.7

	調査数	清掃の仕事	調理、食品、厨房内の仕事	店舗、バックヤードの仕事	農産物等の栽培の仕事	自宅での仕事（テレワーク）	その他
身体障害	194	5.7	3.6	1.0	0.0	3.1	1.5
知的障害	72	38.9	22.2	6.9	1.4	0.0	9.7
精神障害	126	11.9	1.6	0.8	0.0	1.6	17.5
難病（特定疾病）	270	3.3	3.3	1.5	0.0	5.9	9.6

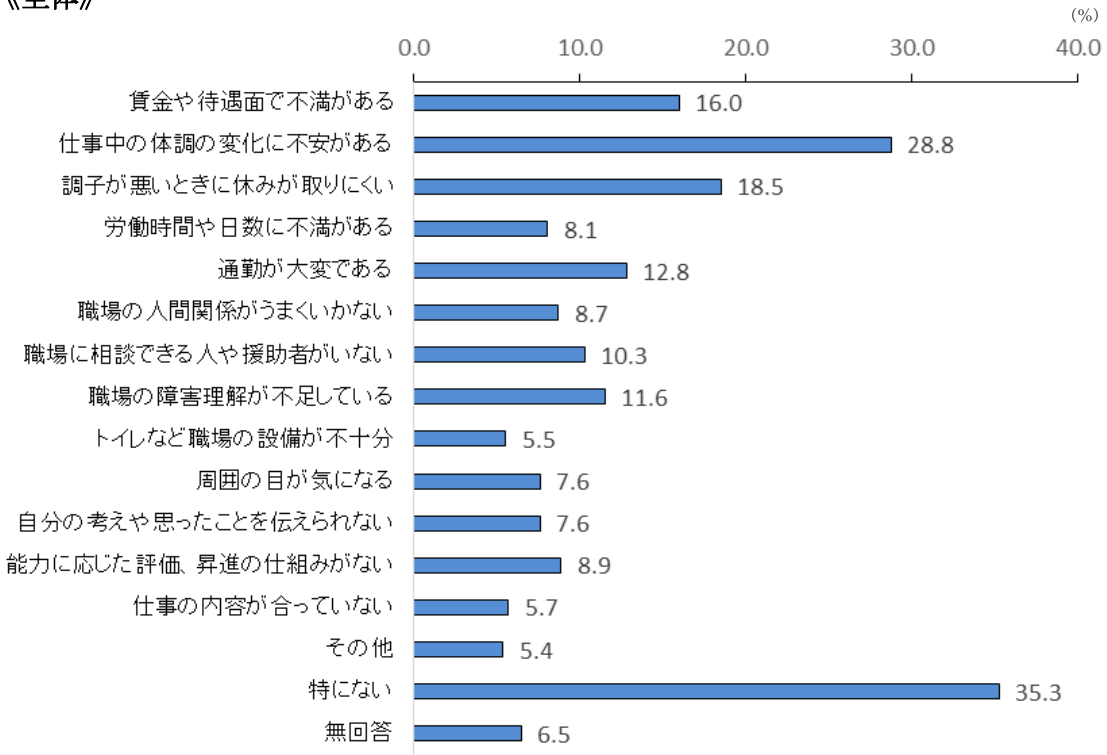
	調査数	わからない	無回答
身体障害	194	0.0	6.2
知的障害	72	1.4	2.8
精神障害	126	0.0	7.1
難病（特定疾病）	270	0.0	5.2

仕事をしている方の仕事内容について障害種別でみると、〔身体障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病)〕では、「事務の仕事」が最も多くなっており、約 4 割を占めています。

一方、〔知的障害〕では、「清掃の仕事」が 38.9%で最も多くなっています。

（4-3）仕事上困っていること（問 31-4）

《全体》



仕事をしている方の仕事上の困りごとをみると、「特にない」（35.3%）が最も多く、次いで「仕事中の体調の変化に不安がある」（28.8%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	賃金や待遇面で不満がある	仕事中の体調の変化に不安がある	調子が悪いときに休みが取りにくい	労働時間や日数に不満がある	通勤が大変である	職場の人間関係がうまくいかない
身体障害	194	22.7	15.5	14.4	17.0	13.9	9.3
知的障害	72	8.3	4.2	12.5	5.6	9.7	8.3
精神障害	126	38.9	22.2	28.6	10.3	13.5	18.3
難病（特定疾病）	270	36.3	21.9	12.2	14.8	10.4	8.1

	調査数	職場の障害理解が不足している	トイレなど職場の設備が不十分	周囲の目が気になる	自分の考えや思ったことを伝えられない	能力に応じた評価、昇進の仕組みがない	仕事の内容が合っていない
身体障害	194	5.7	4.6	4.1	6.2	5.2	4.1
知的障害	72	19.4	2.8	9.7	15.3	2.8	5.6
精神障害	126	15.9	14.3	17.5	16.7	12.7	4.0
難病（特定疾病）	270	4.8	8.9	4.8	2.6	3.0	7.0

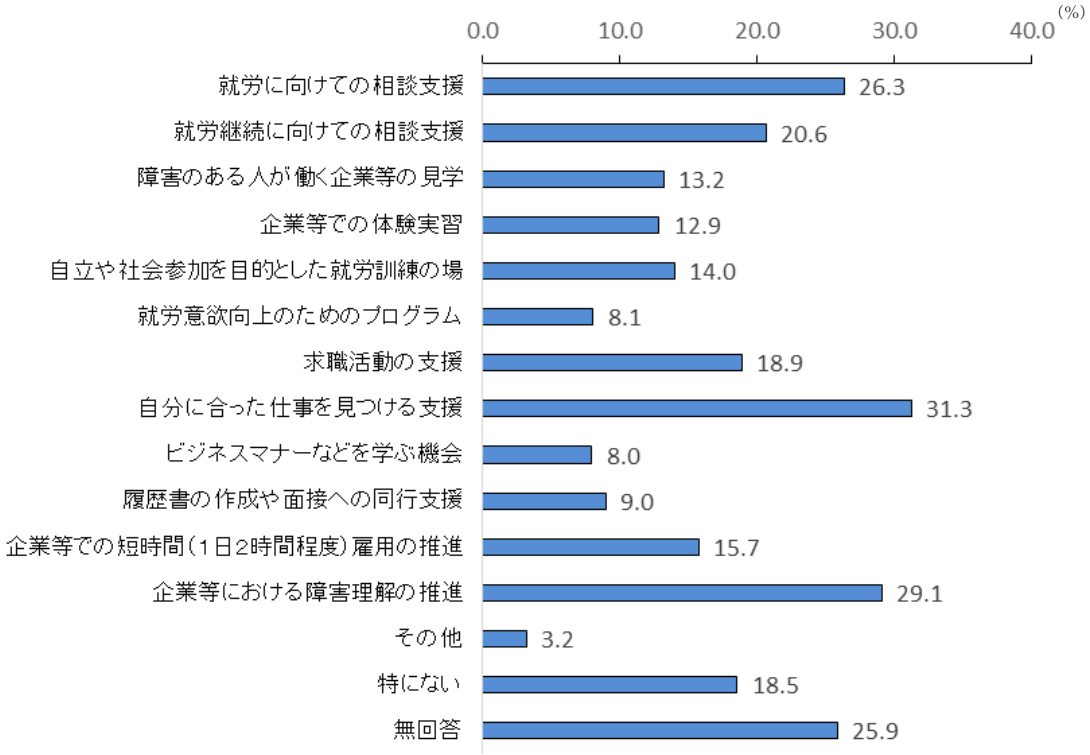
	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	194	3.1	41.2	8.8
知的障害	72	6.9	43.1	4.2
精神障害	126	7.9	19.0	8.7
難病（特定疾病）	270	5.6	34.4	5.2

仕事をしている方の仕事上の困りごとを障害別にみると、〔身体障害〕と〔知的障害〕は「特にない」が４割を超えて多くなっていますが、それ以外では、〔身体障害〕で「賃金や待遇面で不満がある」が22.7%、〔知的障害〕で「職場の障害理解が不足している」が19.4%と２割前後で多くなっています。

一方、〔精神障害〕と〔難病（特定疾病）〕では「賃金や待遇面で不満がある」が３割を超えて多くなっており、また〔精神障害〕では「調子が悪いときに休みが取りにくい」が28.6%と３割近くで多くなっています。

（4-4）一般就労のために希望すること（問32）

《全体》



障害者が一般就労するために希望する支援についてみると、「自分に合った仕事を見つける支援」（31.3%）が最も多く、次いで「企業等における障害理解の推進」（29.1%）、「就労に向けての相談支援」（26.3%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	障害のある人が働く企業等の見学	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	就労意欲向上のためのプログラム
身体障害	821	19.0	11.9	9.3	7.4	9.1	4.8
知的障害	247	32.0	31.2	17.8	23.1	19.8	10.5
精神障害	436	36.0	33.3	27.5	23.6	22.2	17.7
難病（特定疾病）	606	28.7	21.0	6.8	8.3	12.9	4.5

	調査数	求職活動の支援	自分に合った仕事を見つける支援	ビジネスマナーなどを学ぶ機会	履歴書の作成や面接への同行支援	企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進	企業等における障害理解の推進
身体障害	821	12.7	21.2	5.1	4.1	7.9	20.6
知的障害	247	15.4	42.1	9.3	14.6	18.2	34.0
精神障害	436	28.9	45.9	15.1	20.9	26.8	41.7
難病（特定疾病）	606	21.6	28.4	5.6	5.0	19.3	31.8

	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	821	2.2	22.2	36.8
知的障害	247	4.0	14.2	18.6
精神障害	436	5.7	14.7	12.2
難病（特定疾病）	606	2.3	17.7	21.3

障害者が一般就労するために希望する支援について障害別にみると、〔身体障害〕では、「自分に合った仕事を見つける支援」が 21.2%、「企業等における障害理解の推進」が 20.6%、「就労に向けての相談支援」が 19.0%とそれぞれ２割前後で多くなっています。

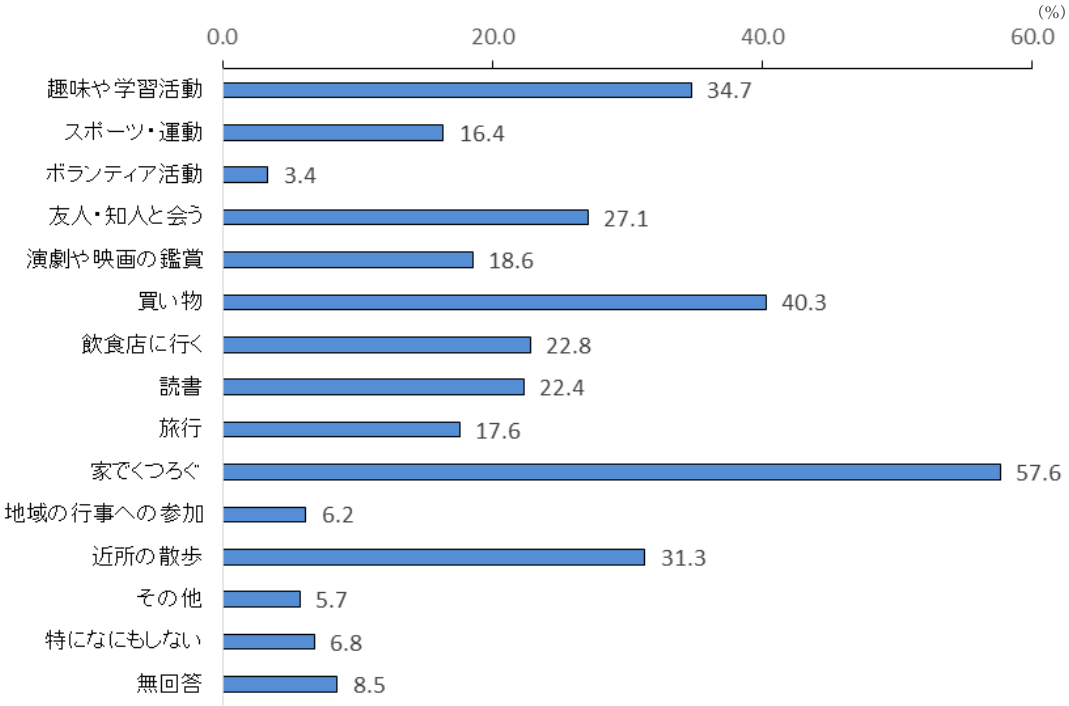
〔知的障害〕では、「自分に合った仕事を見つける支援」が 42.1%と４割を超えて最も多く、次いで「企業等における障害理解の推進」が 34.0%、「就労に向けての相談支援」が 32.0%、「就労継続に向けての相談支援」が 31.2%と３割を超えて続いています。

〔精神障害〕では、「自分に合った仕事を見つける支援」が 45.9%、「企業等における障害理解の推進」が 41.7%と４割を超えて多くなっています。

〔難病（特定疾病)〕では、「企業等における障害理解の推進」が 31.8%で最も多く、次いで「就労に向けての相談支援」が 28.7%、「自分に合った仕事を見つける支援」が 28.4%と３割近くで続いています。

（4-5）余暇の過ごし方（問 33）

《全体》



余暇の過ごし方についてみると、「家でくつろぐ」（57.6%）が最も多く、次いで「買い物」（40.3%）、「趣味や学習活動」（34.7%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	趣味や学習活動	スポーツ・運動	ボランティア活動	友人・知人と会う	演劇や映画の鑑賞	買い物
身体障害	821	29.4	15.1	4.8	25.7	16.6	33.7
知的障害	247	33.2	17.0	0.4	13.8	19.8	42.9
精神障害	436	40.1	15.4	2.5	26.8	17.7	45.6
難病（特定疾病）	606	39.3	16.5	3.6	34.7	22.9	45.0

	調査数	飲食店に行く	読書	旅行	家でくつろぐ	地域の行事への参加	近所の散歩
身体障害	821	19.4	22.5	17.9	51.8	6.9	30.6
知的障害	247	24.3	6.1	15.8	68.0	6.9	31.2
精神障害	436	23.9	25.5	11.9	61.2	5.3	29.8
難病（特定疾病）	606	26.9	24.6	21.1	61.9	4.8	31.5

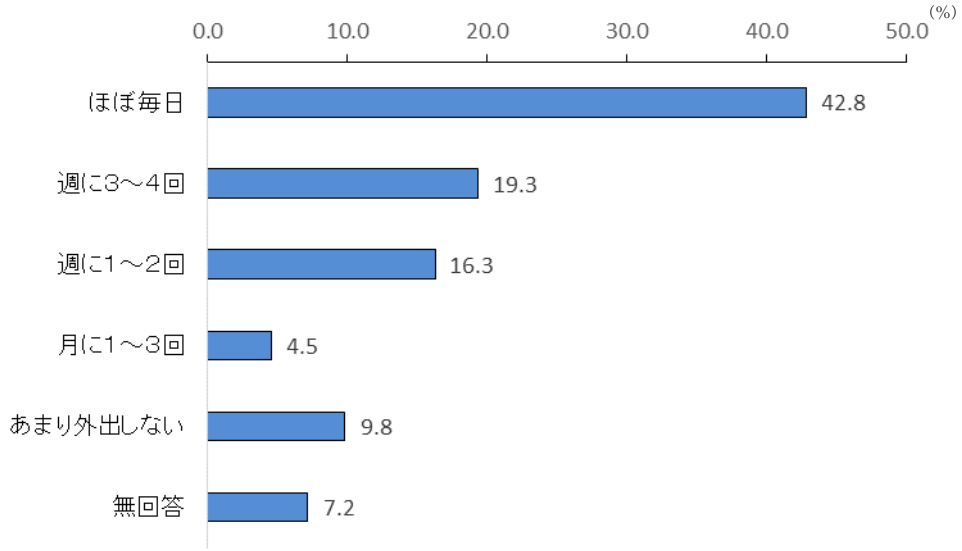
	調査数	その他	特になにもしない	無回答
身体障害	821	3.7	9.1	11.7
知的障害	247	8.1	2.4	5.3
精神障害	436	8.5	8.0	4.4
難病（特定疾病）	606	5.0	4.8	6.9

余暇の過ごし方について障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕とも、「家でくつろぐ」が最も多く、次いで「買い物」となっています。

また、〔精神障害〕と〔難病（特定疾病）〕では、「趣味や学習活動」が４割前後と多くなっています。

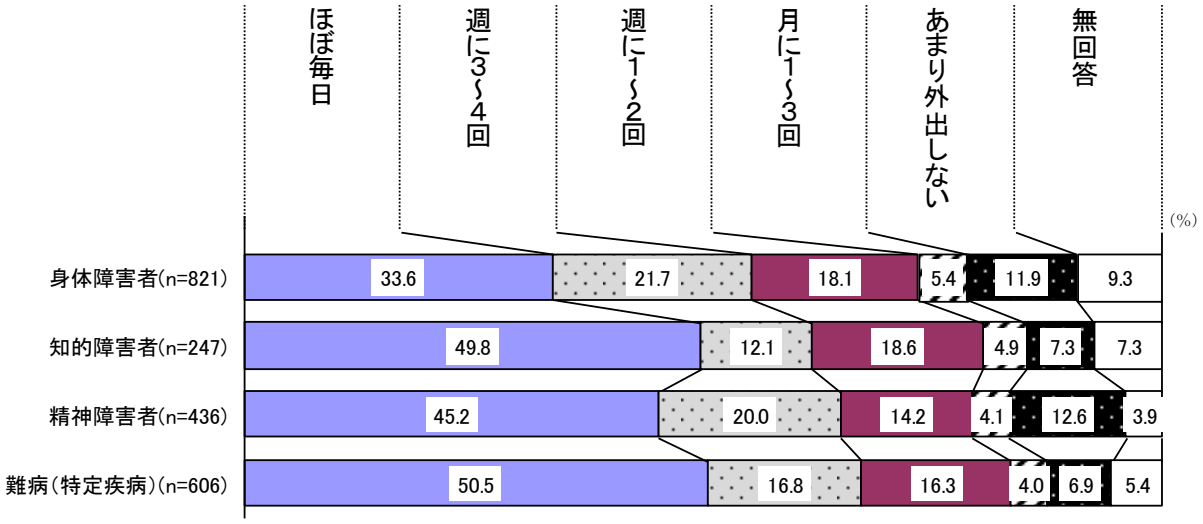
（4-6）外出頻度（問 34）

《全体》



外出頻度についてみると、「ほぼ毎日」（42.8%）が最も多く、次いで「週に 3～4 回」（19.3%）、「週に 1～2 回」（16.3%）となっています。

《障害の種類別》

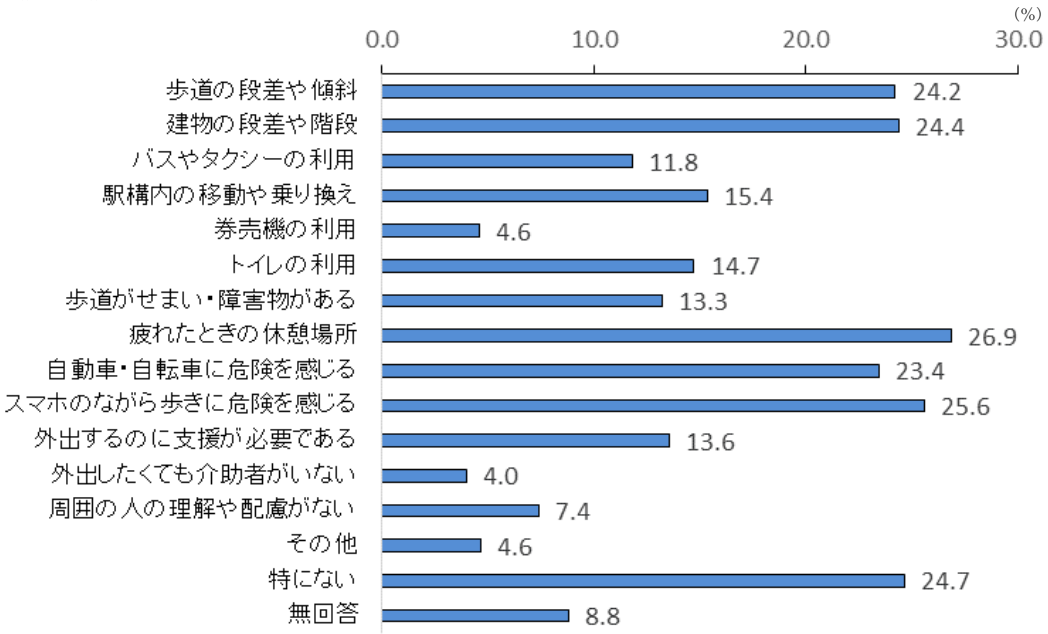


外出の頻度をみると、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では「ほぼ毎日」が、それぞれ 49.8% 、45.2%、50.5%と、いずれも４割後半から５割を超えて最も多くなっています。

一方、〔身体障害〕では、「ほぼ毎日」が 33.6%と、他の障害者に比べて少なくなっています。

（4-7）外出の際に困っていること（問 35）

《全体》



外出の際に困っていることについてみると、「疲れたときの休憩場所」（26.9%）が最も多く、次いで「スマホのながら歩きに危険を感じる」（25.6%）、「特にない」（24.7%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用
身体障害	821	39.2	36.3	15.7	21.2	5.2	17.1
知的障害	247	13.8	15.8	13.0	16.6	10.5	13.8
精神障害	436	8.7	11.2	9.4	9.6	3.0	12.2
難病（特定疾病）	606	24.9	25.2	10.4	13.7	2.1	15.8

	調査数	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる	スマホのながら歩きに危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない
身体障害	821	20.5	28.7	30.1	31.5	16.3	5.7
知的障害	247	9.3	17.8	20.6	17.8	37.2	7.7
精神障害	436	7.1	30.0	17.7	20.2	6.9	2.8
難病（特定疾病）	606	13.0	28.7	21.1	25.2	9.2	2.0

	調査数	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
身体障害	821	7.1	4.5	16.0	10.5
知的障害	247	12.6	2.4	28.3	7.3
精神障害	436	8.7	9.4	29.8	8.9
難病（特定疾病）	606	4.0	2.8	28.1	6.3

外出の時困っていることについて障害別にみると、〔身体障害〕では、「歩道の段差や階段」が 39.2%、「建物の段差や傾斜」が 36.3%と３割後半を占めて多くなっています。

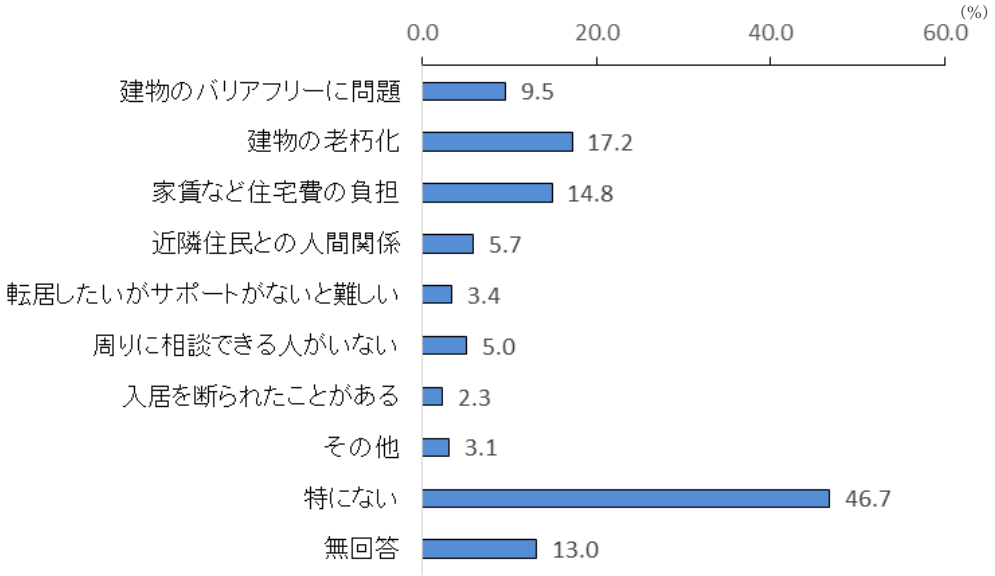
一方、〔知的障害〕では、「外出するのに支援が必要である」が 37.2%と、他の障害より突出して多くなっています。

また、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では、「疲れた時の休息場所」が、それぞれ 30.0%、28.7%と３割前後で多くなっています。

５．住まいについて

（5-1）住まいで困っていること（問 36）

《全体》



住まいで困っていることについてみると、「特にない」（46.7%）が最も多く、次いで「建物の老朽化」（17.2%）、「家賃など住宅費の負担」（14.8%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	転居したいがサポートが無いと難しい	周りに相談できる人がいない
身体障害	821	13.4	15.8	13.4	3.0	1.9	4.3
知的障害	247	5.3	12.1	8.1	5.3	1.6	3.2
精神障害	436	6.9	24.1	20.1	14.7	9.6	11.0
難病（特定疾病）	606	9.4	16.2	15.7	2.6	1.0	2.3

	調査数	入居を断られたことがある	その他	特にない	無回答
身体障害	821	1.1	1.5	45.8	16.3
知的障害	247	3.2	4.5	55.5	15.8
精神障害	436	5.7	6.9	36.2	7.8
難病（特定疾病）	606	0.8	2.5	52.1	9.4

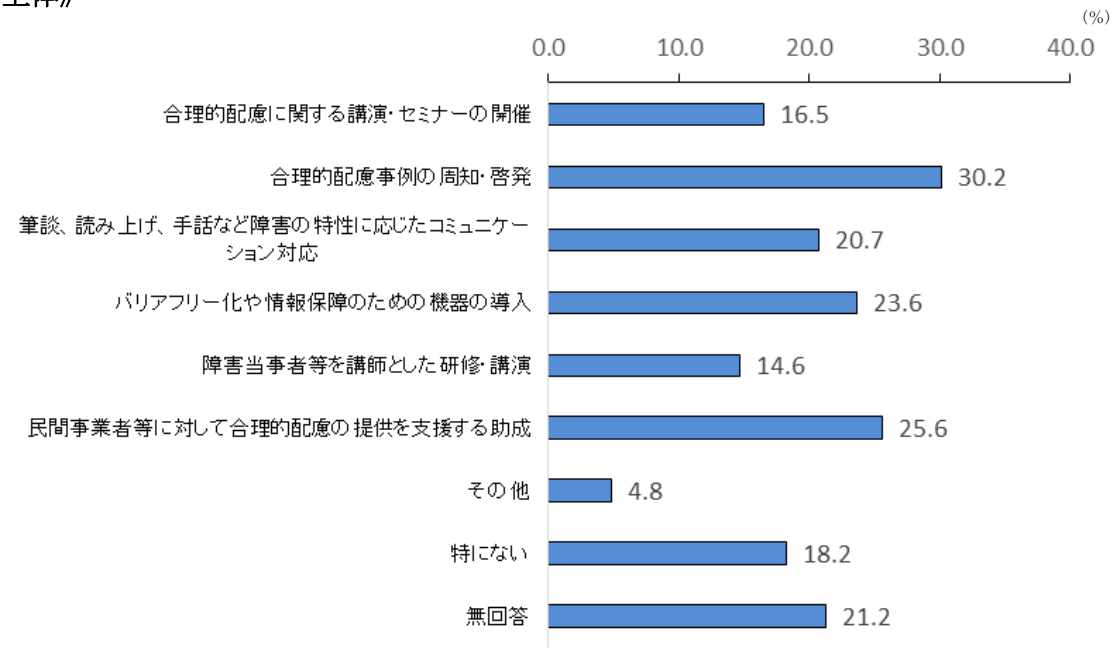
住まいで困っていることについて障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕すべてにおいて「特にない」が多くなっています。

また、〔精神障害〕では、「近隣住民との人間関係」が 14.7%、「転居したいがサポートが無いと難しい」が 9.6%、「周りに相談できる人がいない」が 11.0%と、他の障害より突出して多くなっています。

６．差別解消について

（6-1）合理的配慮を進めていくために必要なこと（問 39）

《全体》



合理的配慮を進めていくために必要なことについてみると、「合理的配慮事例の周知・啓発」（30.2%）が最も多く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」（25.6%）、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」（23.6%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
身体障害	821	13.5	25.2	21.4	**27.8**	11.4	21.3
知的障害	247	23.1	**39.7**	23.9	19.0	18.2	34.0
精神障害	436	20.9	**34.6**	16.7	16.1	21.8	31.0
難病（特定疾病）	606	14.9	**32.5**	22.3	27.6	13.0	28.2

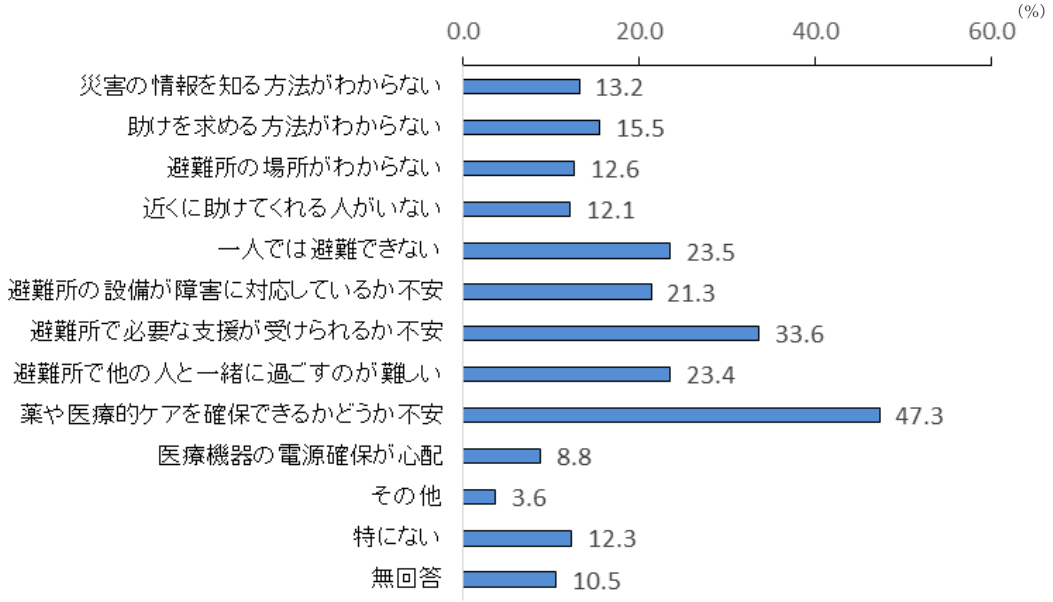
	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	821	3.2	18.1	25.5
知的障害	247	4.9	19.0	16.6
精神障害	436	8.7	20.2	14.4
難病（特定疾病）	606	4.3	17.3	18.2

合理的配慮を進めていくために必要なことを障害別にみると、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕で「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も多く、とくに〔知的障害〕では 39.7%と約４割を占めています。

7．災害対策について

（7-1）災害発生時に困ること（問 40）

《全体》



災害発生時に困ることについてみると、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」（47.3%）が最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」(33.6%)、「一人では避難できない」(23.5%)となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	災害の情報を知る方法がわからない	助けを求める方法がわからない	避難所の場所がわからない	近くに助けてくれる人がいない	一人では避難できない	避難所の設備が障害に対応しているか不安
身体障害	821	13.4	14.7	11.7	12.7	30.8	26.2
知的障害	247	29.1	32.4	23.1	11.3	**48.6**	29.6
精神障害	436	12.8	19.3	16.7	20.6	16.1	18.6
難病（特定疾病）	606	6.1	7.9	6.8	5.9	14.4	17.5

	調査数	避難所で必要な支援が受けられるか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない
身体障害	821	31.8	17.1	**37.9**	12.1	2.6	11.7
知的障害	247	46.2	43.3	28.7	5.3	4.0	10.9
精神障害	436	34.9	36.5	**57.8**	4.8	5.3	12.4
難病（特定疾病）	606	33.8	17.0	**62.5**	9.4	4.3	12.2

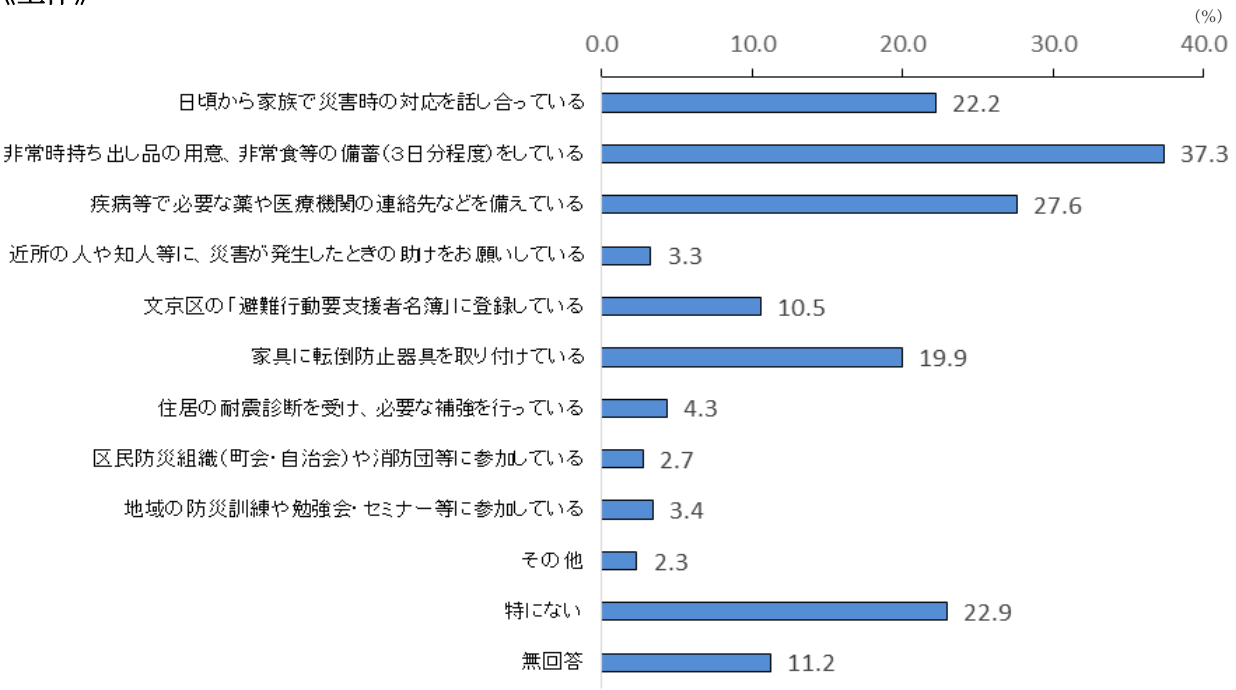
	調査数	無回答
身体障害	821	15.0
知的障害	247	8.5
精神障害	436	4.8
難病（特定疾病）	606	6.4

災害発生時に困ることを障害別にみると、〔身体障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が、それぞれ 37.9% 、57.8% 、62.5%と最も多くなっています。また、〔精神障害〕では、「避難所で他の人と一緒に暮すのが難しい」が 36.5%と多くなっています。

一方、〔知的障害〕では、「一人では避難できない」が 48.6%と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 46.2%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が 43.3%と４割を超えて多くなっています。

（7-2）災害に対する備え（問 41）

《全体》



災害に対する備えについてみると、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日分程度）をしている」(37.3%)が最も多く、次いで「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」(27.6%)、「特にない」（22.9%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日分程度）をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
身体障害	821	21.6	37.5	25.6	4.6	15.5	21.9
知的障害	247	25.9	37.7	17.0	3.6	27.9	22.3
精神障害	436	20.0	28.7	22.2	1.4	3.4	14.7
難病（特定疾病）	606	23.6	46.5	40.6	2.1	6.3	21.3

	調査数	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織（町会・自治会）や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している	その他	特にない	無回答
身体障害	821	4.8	3.5	3.8	2.4	19.0	15.2
知的障害	247	4.0	1.6	2.4	2.0	19.8	10.1
精神障害	436	3.9	2.8	2.8	3.4	34.4	7.1
難病（特定疾病）	606	4.5	1.8	3.8	1.5	19.0	7.6

災害に対する備えを障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔難病（特定疾病）〕では、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日分程度）をしている」が最も多くなっています。

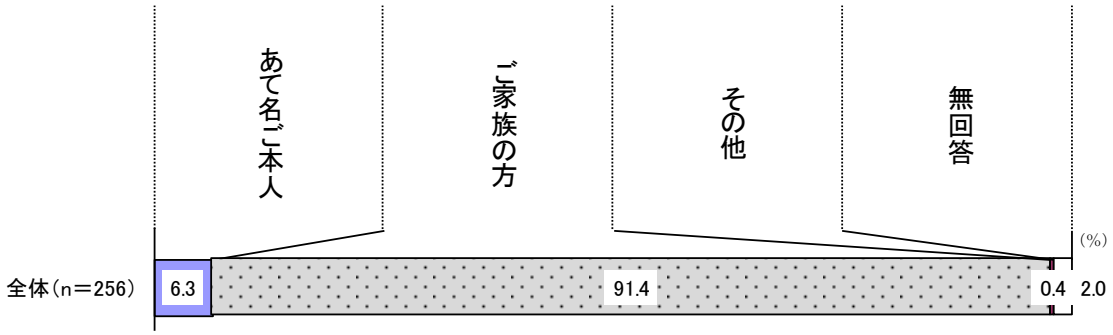
また、〔知的障害〕では「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が 27.9%、〔難病（特定疾病）〕では「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が 40.6%と、他の障害者より多くなっています。

一方、〔精神障害〕では「特にない」が 34.4%と、他の障害者より多くなっています。

4. 18 歳未満の方を対象にした調査

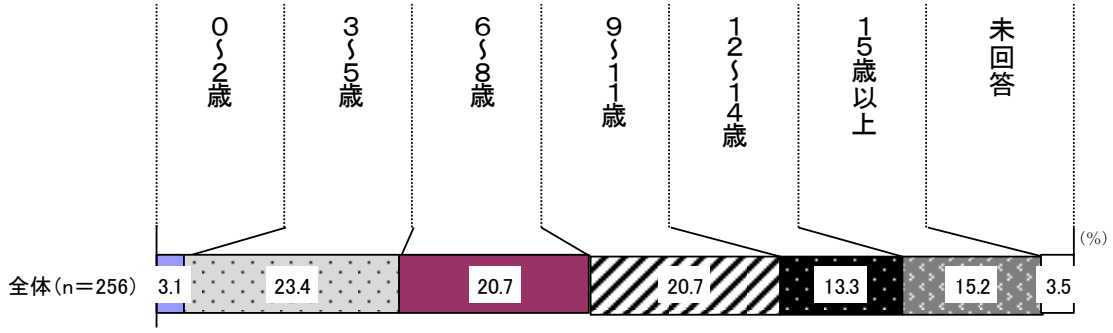
1．対象者特性

（1-1）回答者（問１）



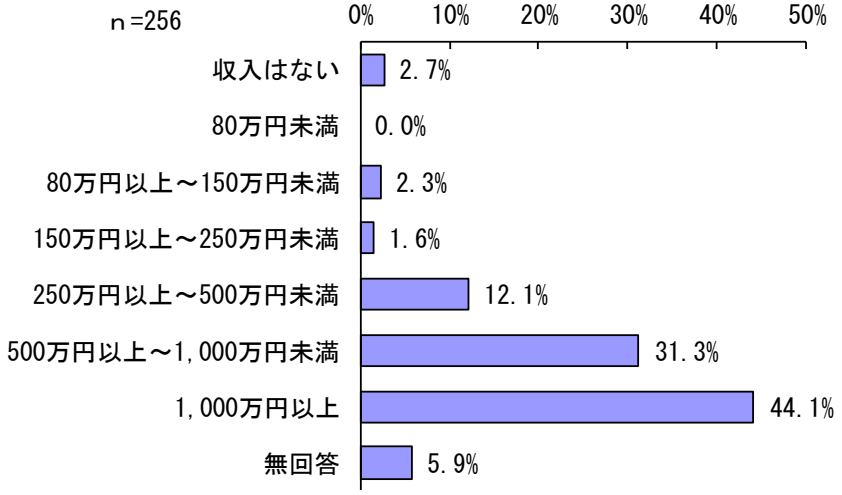
回答者についてみると、「ご家族の方」が 91.4%、「あて名ご本人」が 6.3%となっています。

（1-2）年齢（問２）



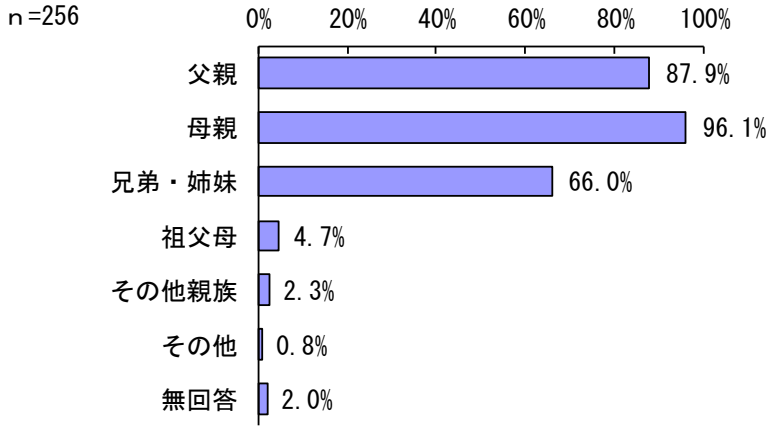
年齢についてみると、３～５歳、６～８歳、９～11 歳がそれぞれ２割台となっています。

（1-3）世帯の年収（問３）



世帯の収入についてみると、500 万円以上が 75.3％と全体の４分の３を占めています。

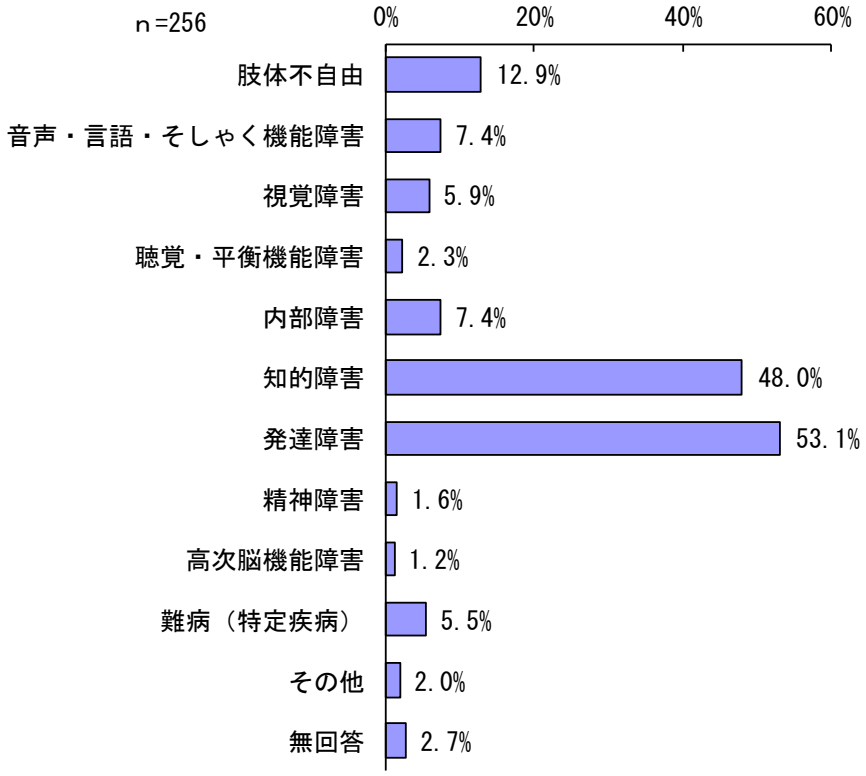
（1-4）同居家族（問５）



同居家族についてみると、「母親」が 96.1％と最も多く、次いで「父親」87.9％となっています。

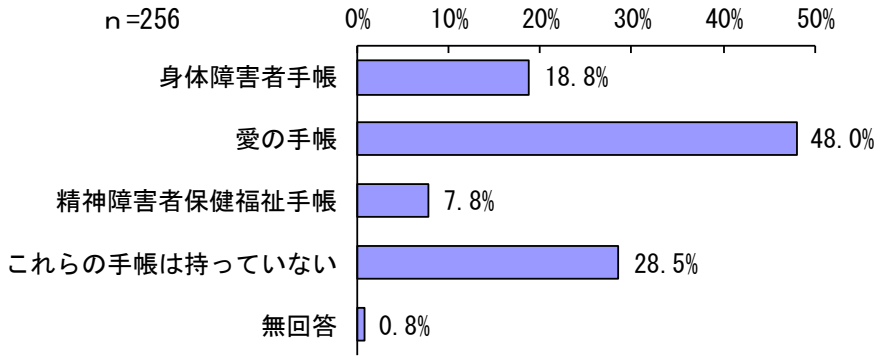
２．障害と健康について

（2-1）障害の種類（問５）



障害の種類については、「発達障害」が 53.1%、「知的障害」が 48.0%と５割前後で、他の障害よりも突出して多くなっています。

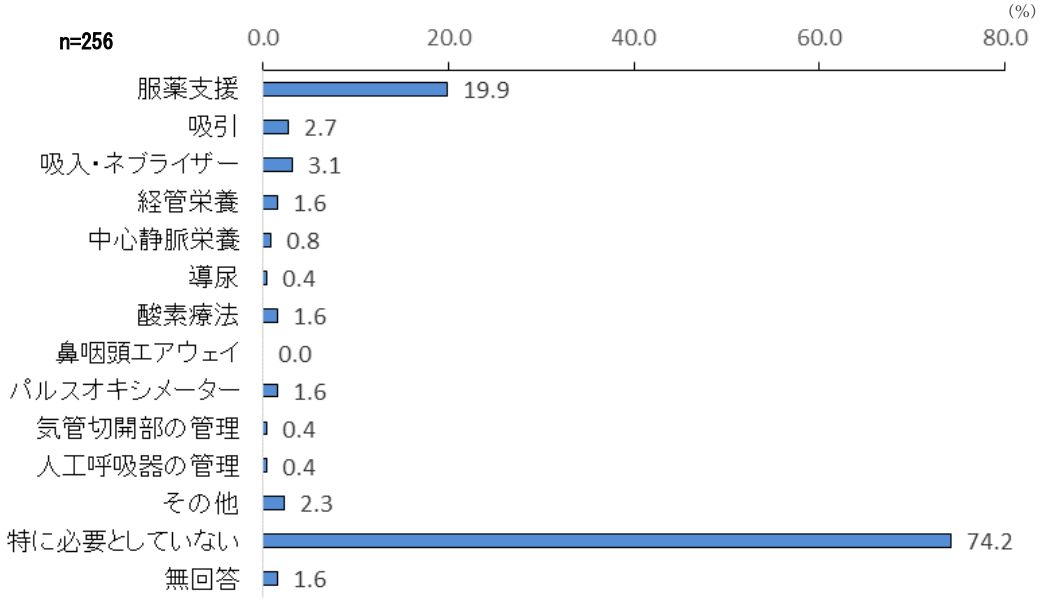
（2-2）手帳の所持状況（問６）



手帳の所持状況については、「愛の手帳」が 48.0%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が 18.8%、「精神障害者保健福祉手帳」が 7.8%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は 28.5%となっています。

（2-3）必要とする医療的ケア（問 13）

《全体》

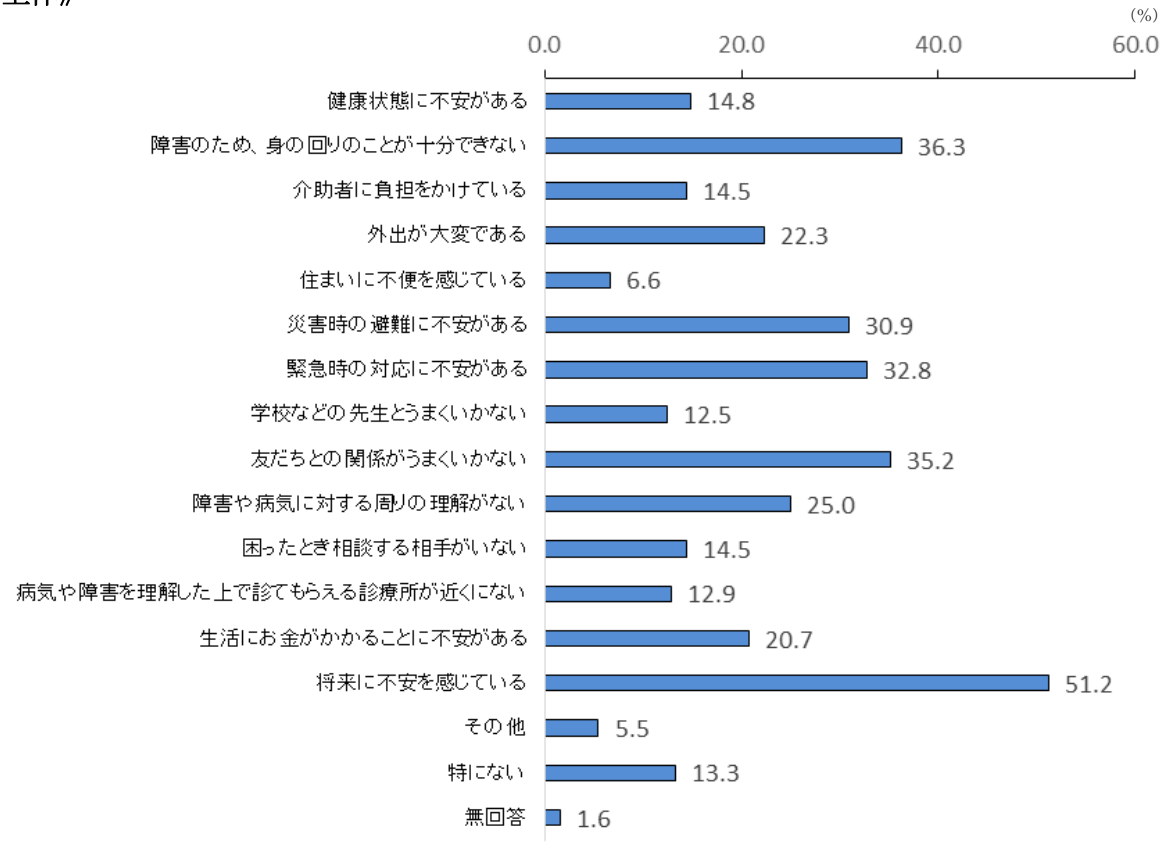


必要とする医療的ケアについてみると、「服薬支援」（19.9%）が最も多く、次いで「吸入・ネブライザー」（3.1%）、「吸引」（2.7%）となっています。

３．相談や福祉の情報について

（3-1）日常生活で困っていること（問 18）

《全体》



日常生活で困っていることについてみると、「将来に不安を感じていること」（51.2%）が最も多く、次いで「障害のため、身の回りのことが十分できない」（36.3%）、「友だちとの関係がうまくいかない」（35.2%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある
身体障害	48	37.5	43.8	18.8	41.7	8.3	39.6
知的障害	123	15.4	52.0	19.5	30.9	8.1	41.5
精神障害	20	15.0	35.0	15.0	5.0	15.0	20.0
難病（特定疾病）	14	64.3	57.1	42.9	64.3	21.4	50.0
発達障害	136	8.8	32.4	16.9	16.2	7.4	27.2

	調査数	緊急時の対応に不安がある	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない
身体障害	48	35.4	0.0	4.2	22.9	4.2	6.3
知的障害	123	43.1	10.6	33.3	24.4	20.3	19.5
精神障害	20	35.0	35.0	50.0	40.0	20.0	10.0
難病（特定疾病）	14	50.0	7.1	7.1	21.4	0.0	14.3
発達障害	136	31.6	17.6	49.3	28.7	19.1	15.4

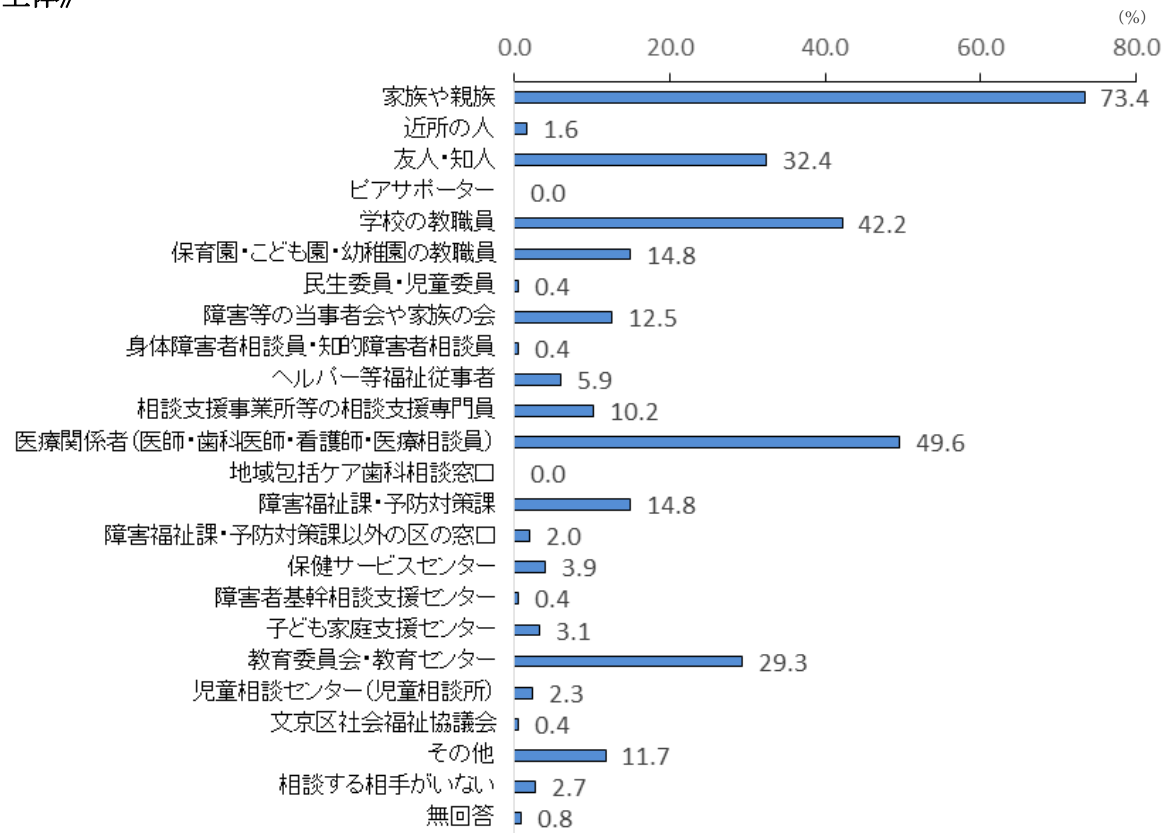
	調査数	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている	その他	特にない	無回答
身体障害	48	31.3	56.3	4.2	12.5	0.0
知的障害	123	27.6	55.3	4.1	8.1	1.6
精神障害	20	20.0	75.0	0.0	10.0	0.0
難病（特定疾病）	14	64.3	71.4	0.0	14.3	0.0
発達障害	136	18.4	51.5	5.9	14.0	1.5

日常生活で困っていることを障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病)〕、〔発達障害〕のいずれでも、「将来に不安を感じている」が最も多くなっています。

また、〔発達障害〕では、「友だちとの関係がうまくいかない」が 49.3%と約５割を占めています。

（3-2）困った時の相談相手（問 19）

《全体》



困ったときの相談相手についてみると、「家族や親族」（73.4%）が最も多く、次いで「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」（49.6%）、「学校の教職員」（42.2%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員
身体障害	48	79.2	2.1	37.5	0.0	37.5	4.2
知的障害	123	78.9	1.6	41.5	0.0	48.8	13.8
精神障害	20	60.0	0.0	20.0	0.0	45.0	5.0
難病（特定疾病）	14	100.0	7.1	35.7	0.0	35.7	0.0
発達障害	136	66.9	1.5	26.5	0.0	41.2	15.4

	調査数	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）
身体障害	48	0.0	25.0	0.0	10.4	6.3	60.4
知的障害	123	0.8	16.3	0.8	8.1	13.0	50.4
精神障害	20	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	55.0
難病（特定疾病）	14	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	78.6
発達障害	136	0.0	2.9	0.0	2.9	8.8	45.6

	調査数	地域包括ケア歯科相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター
身体障害	48	0.0	20.8	2.1	6.3	0.0	0.0
知的障害	123	0.0	16.3	4.1	1.6	0.8	2.4
精神障害	20	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0
難病（特定疾病）	14	0.0	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0
発達障害	136	0.0	11.8	2.2	2.9	0.0	5.1

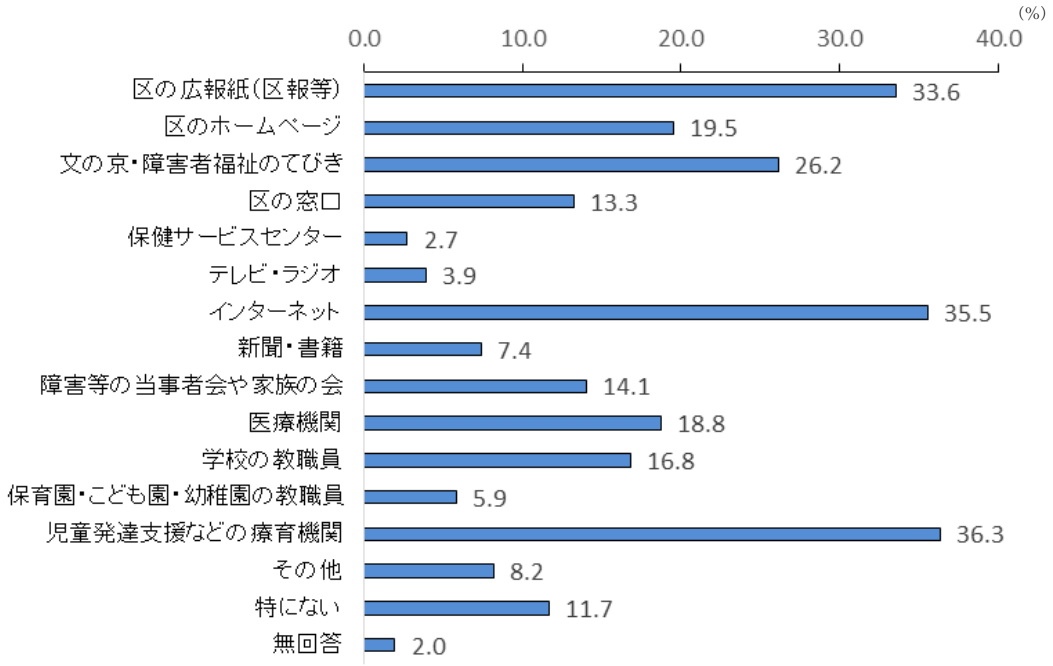
	調査数	教育委員会・教育センター	児童相談センター（児童相談所）	文京区社会福祉協議会	その他	相談する相手がいない	無回答
身体障害	48	16.7	4.2	0.0	6.3	0.0	0.0
知的障害	123	28.5	0.8	0.8	9.8	4.1	0.8
精神障害	20	20.0	10.0	0.0	15.0	5.0	0.0
難病（特定疾病）	14	21.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
発達障害	136	36.0	2.9	0.0	15.4	4.4	0.7

困った時の相談相手を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕、〔発達障害〕いずれも「家族や親族」が６割以上を占めて最も多くなっています。

次いで「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」、「学校の教職員」の順に多くなっています。

（3-3）福祉に関する情報の入手先（問 20）

《全体》



福祉に関する情報の入手先についてみると、「児童発達支援などの療育機関」（36.3%）が最も多く、次いで「インターネット」（35.5%）、「区の広報誌（区報）」（33.6%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	区の広報紙（区報等）	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ
身体障害	48	25.0	14.6	**45.8**	25.0	6.3	2.1
知的障害	123	**45.5**	15.4	39.8	15.4	1.6	4.1
精神障害	20	25.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	28.6	14.3	**64.3**	14.3	0.0	0.0
発達障害	136	29.4	24.3	21.3	8.8	1.5	5.1

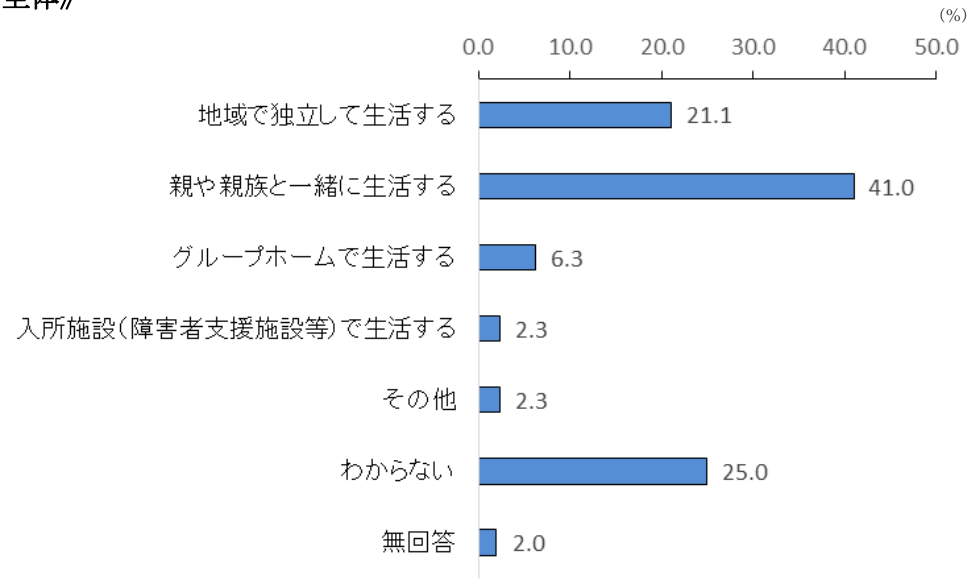
	調査数	インターネット	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員
身体障害	48	29.2	4.2	22.9	35.4	22.9	0.0
知的障害	123	39.0	6.5	20.3	13.8	22.0	4.1
精神障害	20	25.0	5.0	0.0	10.0	10.0	0.0
難病（特定疾病）	14	42.9	0.0	28.6	21.4	21.4	0.0
発達障害	136	39.0	8.1	5.9	16.2	18.4	7.4

	調査数	児童発達支援などの療育機関	その他	特にない	無回答
身体障害	48	20.8	4.2	4.2	4.2
知的障害	123	32.5	15.4	6.5	1.6
精神障害	20	20.0	5.0	**35.0**	0.0
難病（特定疾病）	14	14.3	0.0	21.4	0.0
発達障害	136	**41.9**	6.6	15.4	0.7

福祉の情報の入手先を障害別にみると、〔身体障害〕では「文の京・障害者福祉のてびき」が 45.8%、〔知的障害〕では「区の広報紙（区報等）」が 45.5%、〔発達障害〕では「児童発達支援などの療育機関」が 41.9%と４割を超えて最も多くなっています。

（3-4）今後希望する生活（問 21）

《全体》



今後希望する生活についてみると、「親や親族と一緒に生活する」（41.0%）が最も多く、次いで「わからない」（25.0%）、「地域で独立して生活する」（21.1%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設（障害者支援施設等）で生活する	その他	わからない
身体障害	48	18.8	**39.6**	6.3	8.3	2.1	22.9
知的障害	123	13.8	**37.4**	11.4	2.4	2.4	30.9
精神障害	20	30.0	**45.0**	0.0	0.0	5.0	20.0
難病（特定疾病）	14	7.1	**50.0**	14.3	0.0	7.1	14.3
発達障害	136	23.5	**46.3**	3.7	0.7	2.9	21.3

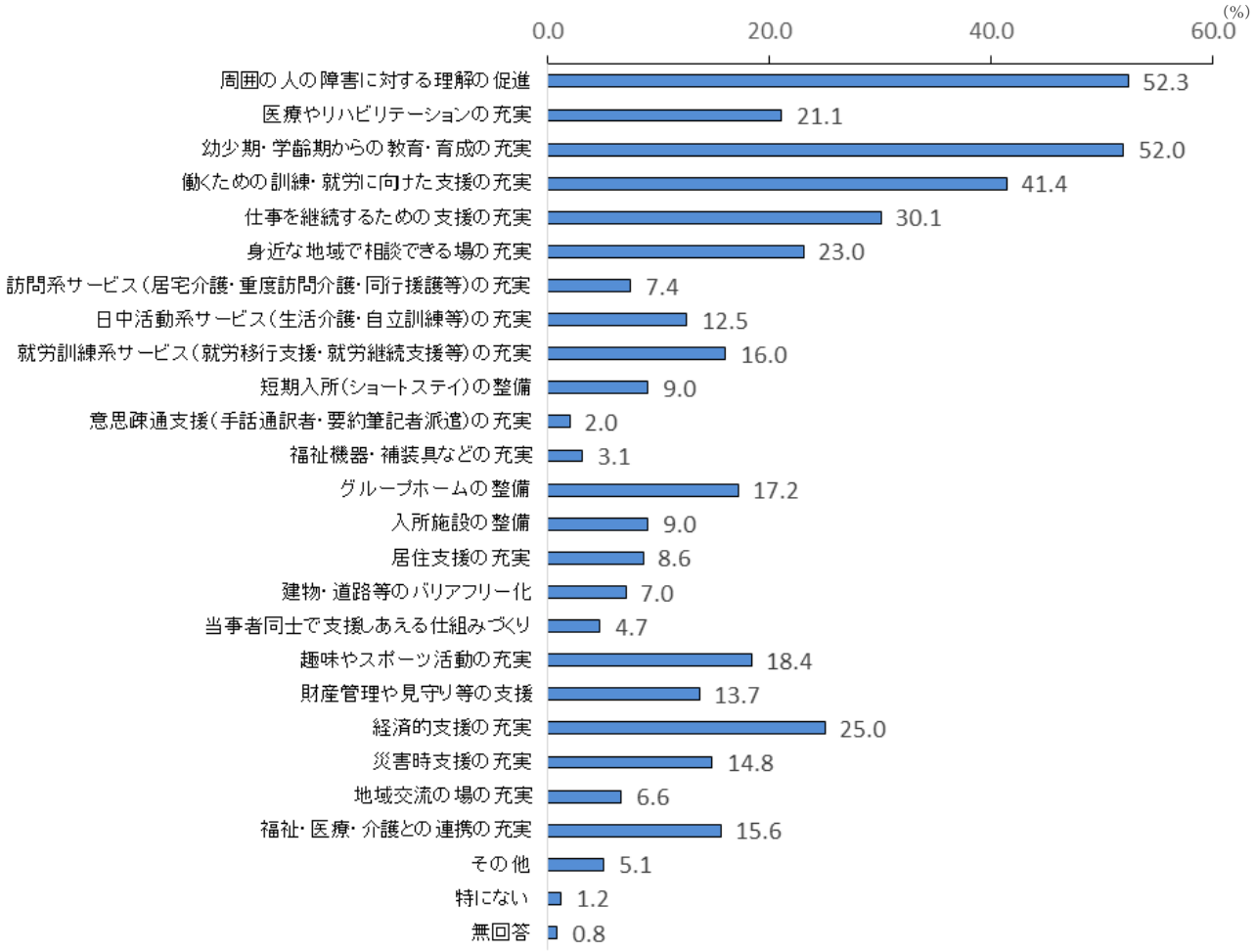
	調査数	無回答
身体障害	48	2.1
知的障害	123	1.6
精神障害	20	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1
発達障害	136	1.5

今後希望する生活について障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕、〔発達障害〕のいずれでも「親や親族と一緒に生活する」が最も多くなっています。

また、〔知的障害〕では、「わからない」が 30.9%と３割を占めて多くなっています。

（3-5）地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問 22）

《全体》



地域で安心して暮らしていくために必要な施策についてみると、「周囲の人の障害に対する理解の促進」（52.3%）が最も多く、次いで「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」（52.0%）、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」（30.1%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実
身体障害	48	39.6	31.3	37.5	18.8	14.6	14.6
知的障害	123	56.1	15.4	39.8	50.4	38.2	14.6
精神障害	20	45.0	20.0	55.0	40.0	45.0	30.0
難病（特定疾病）	14	35.7	28.6	21.4	14.3	14.3	14.3
発達障害	136	53.7	19.9	62.5	43.4	33.8	30.9

	調査数	訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実	日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等）の充実	就労訓練系サービス（就労移行支援・就労継続支援等）の充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣）の充実	福祉機器・補装具などの充実
身体障害	48	18.8	20.8	8.3	14.6	8.3	12.5
知的障害	123	9.8	16.3	22.8	14.6	0.8	2.4
精神障害	20	5.0	5.0	20.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	35.7	14.3	14.3	0.0	14.3
発達障害	136	5.1	8.8	16.2	5.9	0.7	0.7

	調査数	グループホームの整備	入所施設の整備	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実
身体障害	48	20.8	18.8	14.6	27.1	2.1	10.4
知的障害	123	30.1	11.4	8.9	4.1	3.3	23.6
精神障害	20	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	20.0
難病（特定疾病）	14	42.9	14.3	35.7	21.4	7.1	0.0
発達障害	136	11.8	5.9	6.6	2.9	4.4	17.6

	調査数	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	その他
身体障害	48	10.4	33.3	12.5	6.3	27.1	4.2
知的障害	123	22.0	32.5	20.3	7.3	11.4	4.1
精神障害	20	10.0	20.0	5.0	5.0	20.0	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1	35.7	14.3	7.1	21.4	7.1
発達障害	136	14.7	22.8	12.5	5.9	11.8	5.9

	調査数	特にない	無回答
身体障害	48	0.0	0.0
知的障害	123	0.0	1.6
精神障害	20	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1	0.0
発達障害	136	1.5	0.0

地域で安心して暮すために必要な施策を障害別にみると、〔身体障害〕では「周囲の人の障害に対する理解の促進」が 39.6%と最も多く、次いで「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が 37.5%と４割近くで多くなっています。

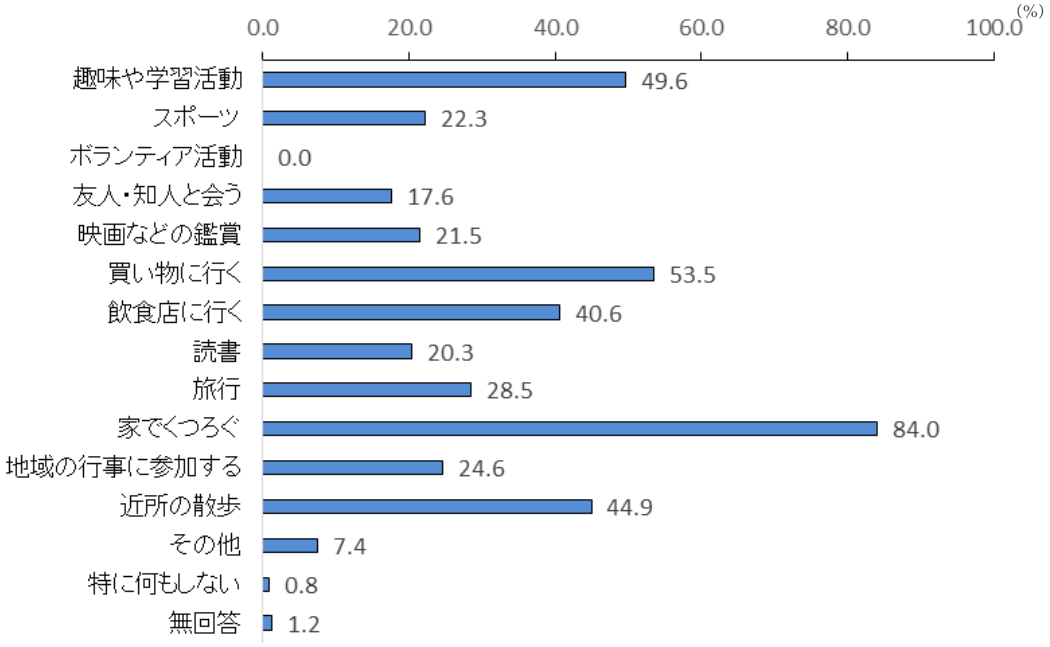
〔知的障害〕では、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が 56.1%と最も多く、次いで「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が 50.4%と５割を超えています。

〔発達障害〕では、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が 62.5%と６割を超えて最も多く、次いで「周囲の人の障害に対する理解の促進」が 53.7%と５割を超えています。

４．教育・保育について

（4-1）余暇の過ごし方（問 38）

《全体》



余暇の過ごし方についてみると、「家でくつろぐ」（84.0%）が最も多く、次いで「買い物に行く」（53.5%）、「趣味や学習活動」（49.6%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	趣味や学習活動	スポーツ	ボランティア活動	友人・知人と会う	映画などの鑑賞	買い物に行く
身体障害	48	37.5	12.5	0.0	22.9	12.5	56.3
知的障害	123	46.3	22.8	0.0	8.9	23.6	56.1
精神障害	20	55.0	20.0	0.0	25.0	10.0	35.0
難病（特定疾病）	14	35.7	35.7	0.0	28.6	42.9	78.6
発達障害	136	56.6	22.1	0.0	17.6	20.6	52.2

	調査数	飲食店に行く	読書	旅行	家でくつろぐ	地域の行事に参加する	近所の散歩
身体障害	48	45.8	14.6	20.8	**79.2**	18.8	52.1
知的障害	123	41.5	13.8	33.3	**86.2**	23.6	46.3
精神障害	20	20.0	25.0	10.0	**85.0**	15.0	15.0
難病（特定疾病）	14	50.0	21.4	35.7	**85.7**	7.1	57.1
発達障害	136	38.2	25.0	27.2	**84.6**	24.3	41.9

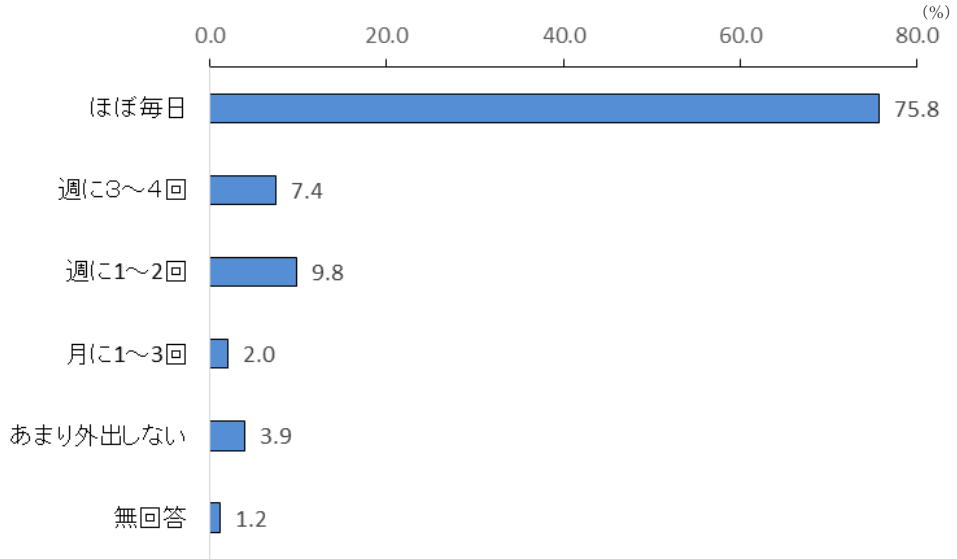
	調査数	その他	特に何もしない	無回答
身体障害	48	6.3	0.0	2.1
知的障害	123	7.3	0.0	0.8
精神障害	20	10.0	5.0	0.0
難病（特定疾病）	14	0.0	0.0	0.0
発達障害	136	8.8	0.7	1.5

休日や余裕のある時の過ごし方を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕、〔発達障害〕のいずれも、「家でくつろぐ」が最も多くなっています。次いで、身体障害者と知的障害者では「買い物に行く」が、〔発達障害〕では「趣味や学習活動」が多くなっています。

５．外出や住まいについて

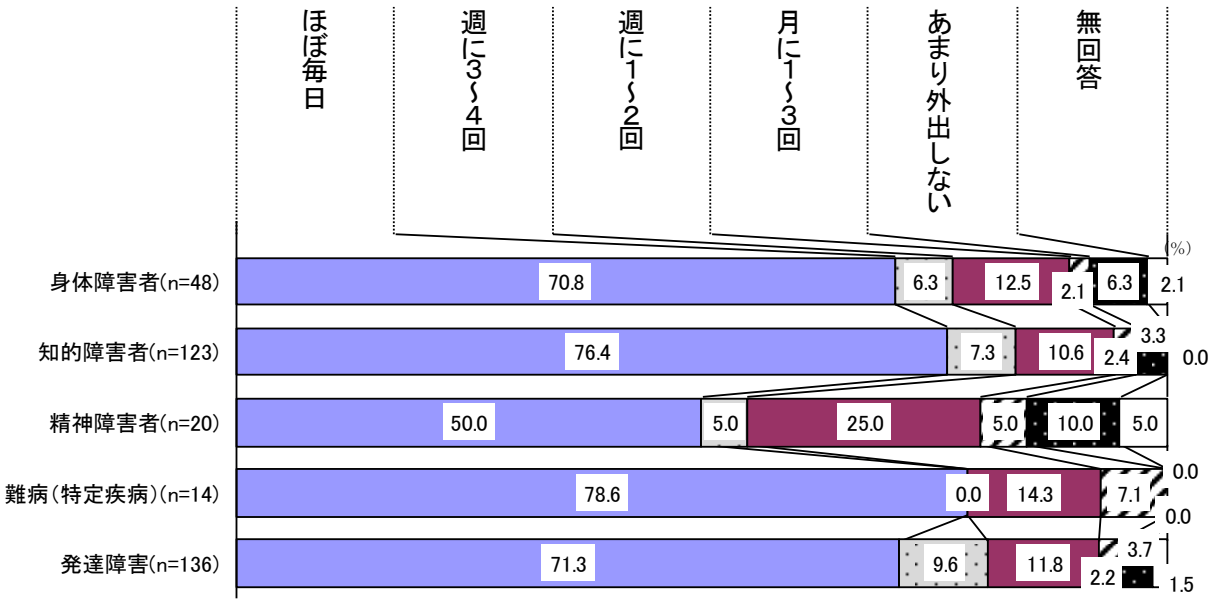
（5-１）外出頻度（問 39）

《全体》



外出頻度についてみると、「ほぼ毎日」（75.8%）が最も多く、次いで「週に 1～2 回」（9.8%）、「週に 3～4 回」（7.4%）となっています。

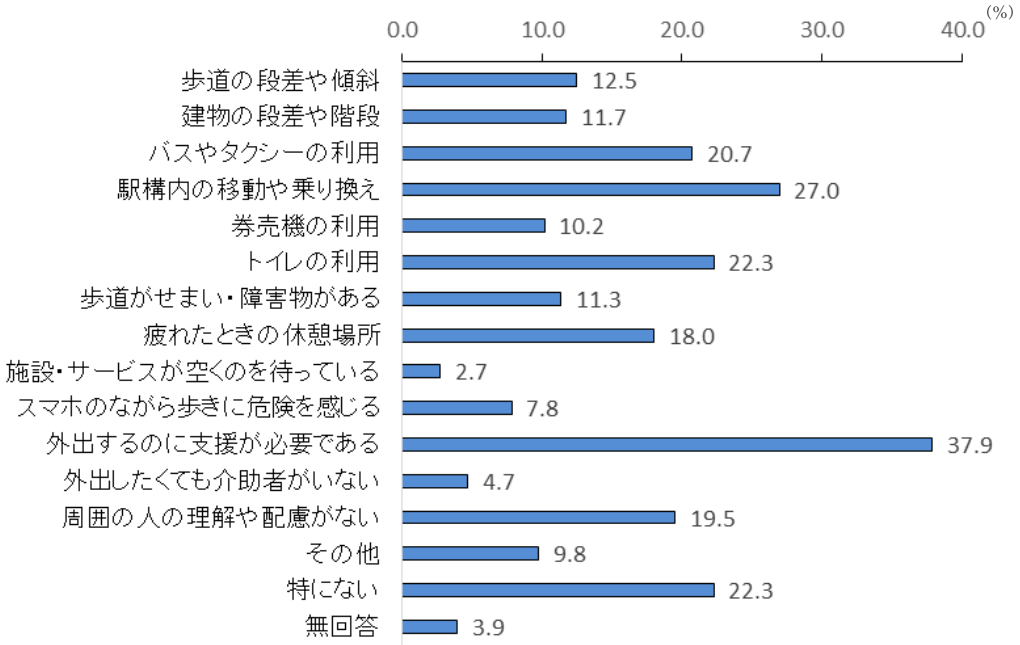
《障害の種類別》



外出の頻度を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕、〔難病（特定疾病）〕、〔発達障害〕いずれも「ほぼ毎日」が７割を超えて最も多くなっています。

（5-2）外出の際に困っていること（問 40）

《全体》



外出の際に困っていることについてみると、「外出するのに支援が必要である」（37.9%）が最も多く、次いで「駅構内の移動や乗り換え」（27.0%）、「トイレの利用」、「特にない」（22.3%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用
身体障害	48	37.5	33.3	35.4	**45.8**	4.2	35.4
知的障害	123	13.8	13.0	25.2	34.1	16.3	29.3
精神障害	20	0.0	0.0	15.0	20.0	10.0	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	50.0	35.7	50.0	14.3	50.0
発達障害	136	3.7	4.4	17.6	16.9	8.8	16.9

	調査数	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所	施設・サービスが空くのを待っている	スマホのながら歩きに危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない
身体障害	48	27.1	22.9	2.1	14.6	43.8	4.2
知的障害	123	13.8	19.5	5.7	6.5	**57.7**	8.9
精神障害	20	5.0	**25.0**	0.0	20.0	**25.0**	0.0
難病（特定疾病）	14	21.4	21.4	7.1	7.1	**64.3**	14.3
発達障害	136	5.9	16.9	2.9	5.9	**29.4**	5.1

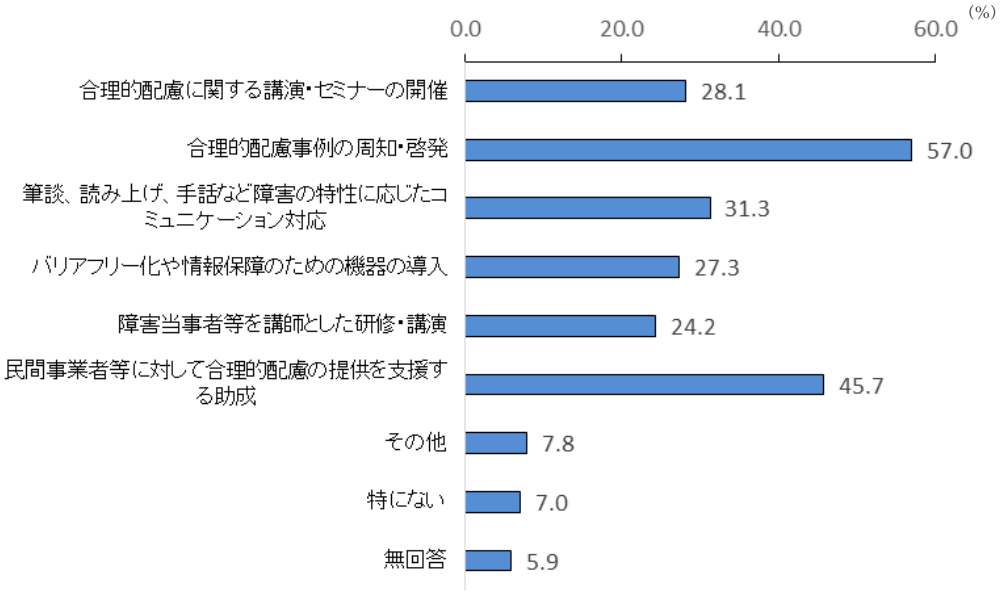
	調査数	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
身体障害	48	14.6	6.3	12.5	2.1
知的障害	123	26.0	6.5	14.6	1.6
精神障害	20	20.0	15.0	**25.0**	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	0.0	0.0	7.1
発達障害	136	19.9	14.7	27.2	2.2

外出の際に困っていることについて障害別にみると、〔身体障害〕では「駅構内の移動や乗り換え」が最も多く、〔知的障害〕、〔精神障害〕、〔難病（特定疾病）〕、〔発達障害〕については、「外出するのに支援が必要である」が最も多くなっています。

６．差別解消について

（6-1）合理的配慮を進めていくために必要なこと（問 42）

《全体》



合理的配慮を進めていくために必要なことについてみると、「合理的配慮事例の周知・啓発」（57.0%）が最も多く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」（45.7%）、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」（31.3%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
身体障害	48	12.5	45.8	29.2	**47.9**	22.9	43.8
知的障害	123	31.7	**65.0**	35.0	24.4	29.3	56.1
精神障害	20	45.0	**55.0**	25.0	25.0	20.0	30.0
難病（特定疾病）	14	7.1	50.0	28.6	**57.1**	21.4	35.7
発達障害	136	30.9	**60.3**	30.9	22.1	22.8	41.2

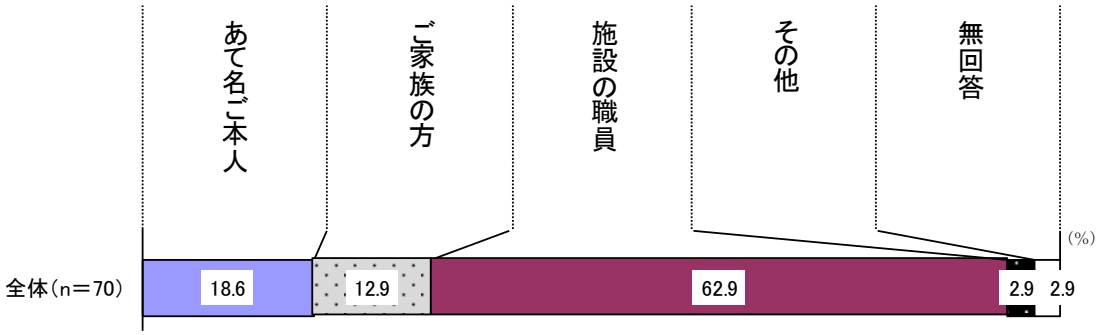
	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	48	10.4	2.1	4.2
知的障害	123	6.5	4.1	5.7
精神障害	20	10.0	5.0	5.0
難病（特定疾病）	14	7.1	7.1	0.0
発達障害	136	7.4	9.6	5.1

合理的配慮を進めていくために必要なことを障害別にみると、〔知的障害〕と〔発達障害〕では「合理的配慮事例の周知・啓発」が６割を超えて最も多くなっていますが、〔身体障害〕では「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が 47.9%と最も多くなっています。

5. 施設入所の方を対象にした調査

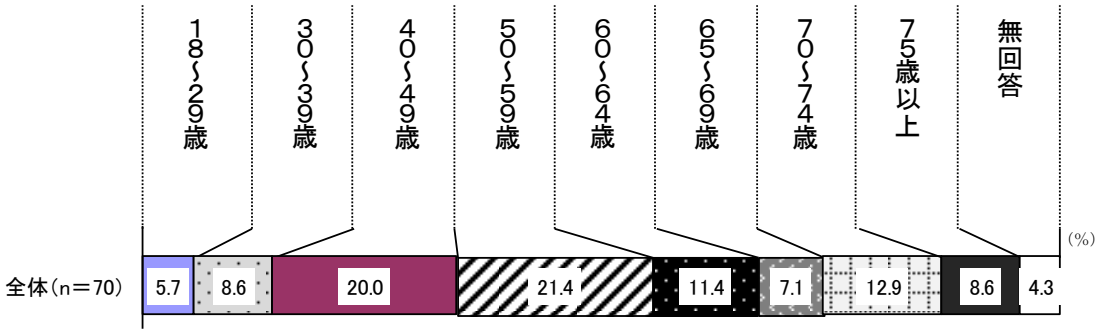
1．対象者特性

（1-1）回答者（問１）



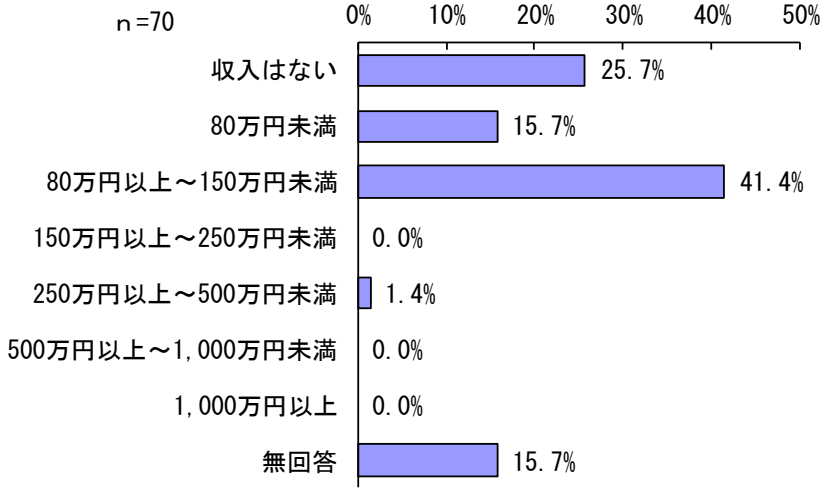
回答者についてみると、「施設の職員」が 62.9%、「あて名ご本人」が 18.6%、「ご家族の方」が 12.9%となっています。

（1-2）年齢（問２）



年齢についてみると、「50～59 歳」が 21.4%と最も多く、次いで「40～49 歳」が 20.0%、「70～74 歳」が 12.9%となっています。

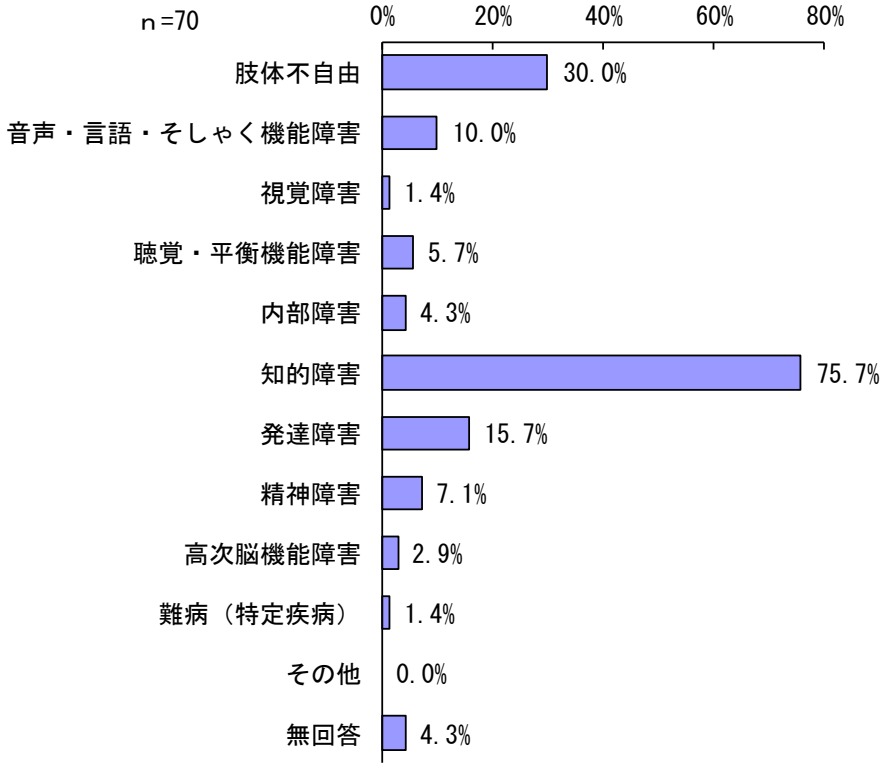
（1-3）年収（問３）



本人の収入についてみると、「80 万円以上～150 万円未満」が 41.4%と４割を超えて多く、150 万円未満が全体の８割を超えています。

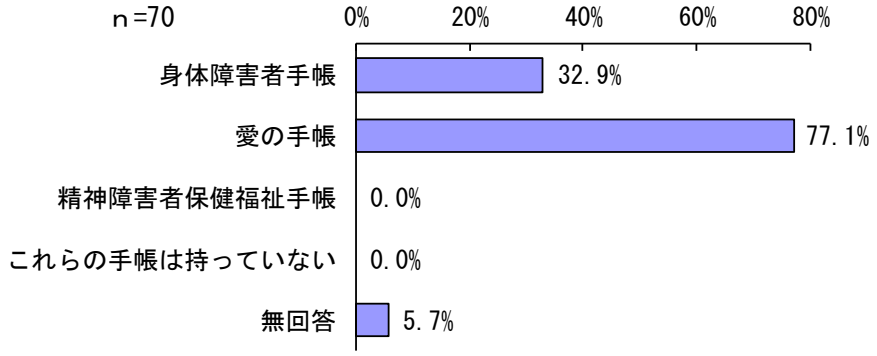
２．障害の状況について

（2-1）障害の種類（問５）



障害の種類については、「知的障害」が 75.7%と７割半ばで最も多く、次いで「肢体不自由」が 30.0%、「発達障害」が 15.7%となっています。

（2-2）手帳の所持状況（問６）

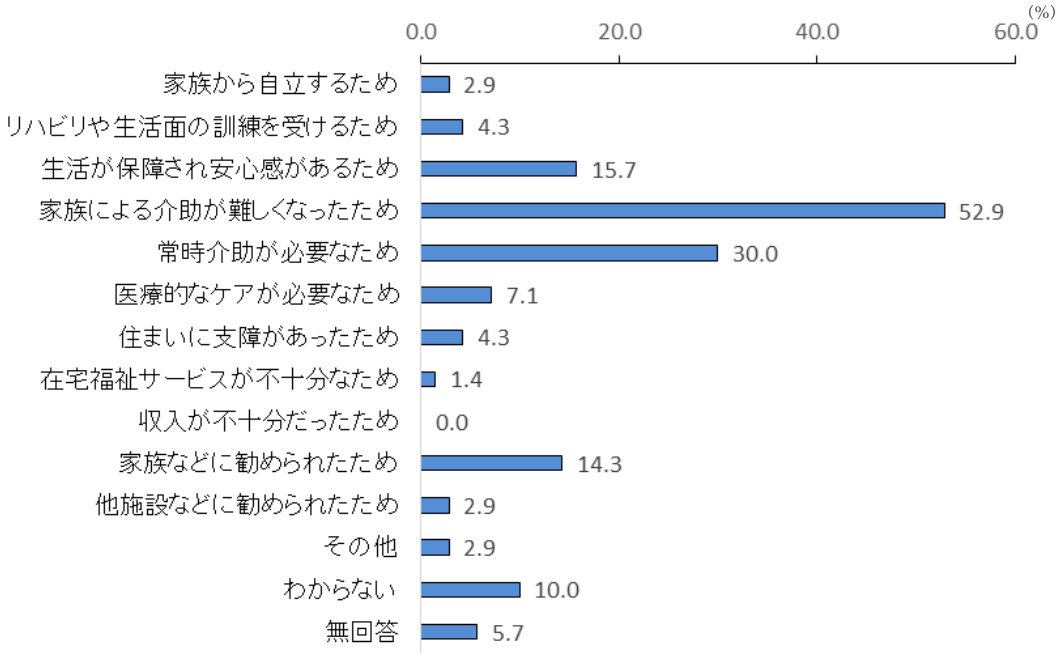


手帳の所持状況については、「愛の手帳」が 77.1%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が 32.9%、となっています。一方、「精神障害者保健福祉手帳」と「これらの手帳は持っていない」の回答はありませんでした。

３．施設入所について

（3-1）入所した理由（問 11）

《全体》



施設に入所した理由についてみると、「家族による介助が難しくなったため」（52.9%）が最も多く、次いで「常時介護が必要なため」（30.0%）、「生活が保障され安心感があるため」（15.7%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	家族から自立するため	リハビリや生活面の訓練を受けるため	生活が保障され安心感があるため	家族による介助が難しくなったため	常時介助が必要なため	医療的なケアが必要なため
身体障害	23	8.7	4.3	13.0	52.2	39.1	17.4
知的障害	54	3.7	3.7	13.0	55.6	24.1	3.7

	調査数	住まいに支障があったため	在宅福祉サービスが不十分なため	収入が不十分だったため	家族などに勧められたため	他施設などに勧められたため	その他
身体障害	23	8.7	4.3	0.0	8.7	4.3	0.0
知的障害	54	1.9	0.0	0.0	16.7	1.9	3.7

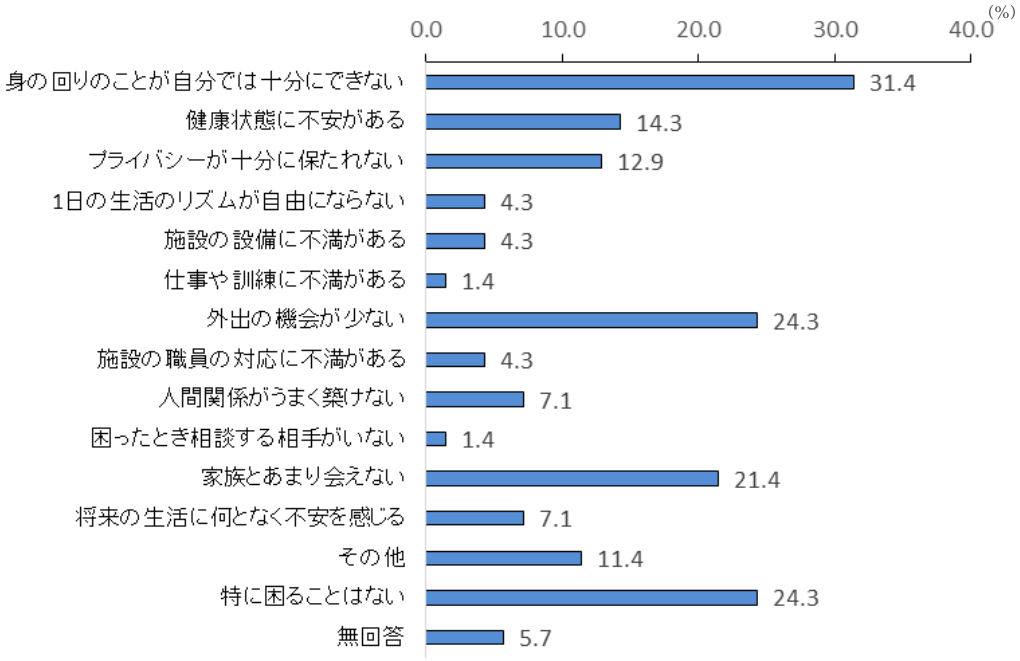
	調査数	わからない	無回答
身体障害	23	13.0	0.0
知的障害	54	11.1	3.7

施設に入所した理由について障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕ともに「家族による介助が難しくなったため」が５割以上と最も多くなっています。また、〔知的障害〕では「家族などに勧められたため」が 16.7%と比較的多くなっています。

４．施設での生活について

（4-1）困っていることや不安なこと（問 14）

《全体》



困っていることや不安なことについてみると、「身の回りのことが十分にできない」（31.4%）が最も多く、次いで「外出の機会が少ない」（24.3%）、「特に困ることはない」（24.3%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	身の回りのことが自分では十分にできない	健康状態に不安がある	プライバシーが十分に保たれない	1 日の生活のリズムが自由にならない	施設の設備に不満がある	仕事や訓練に不満がある
身体障害	23	26.1	13.0	8.7	13.0	4.3	0.0
知的障害	54	31.5	16.7	14.8	3.7	5.6	1.9

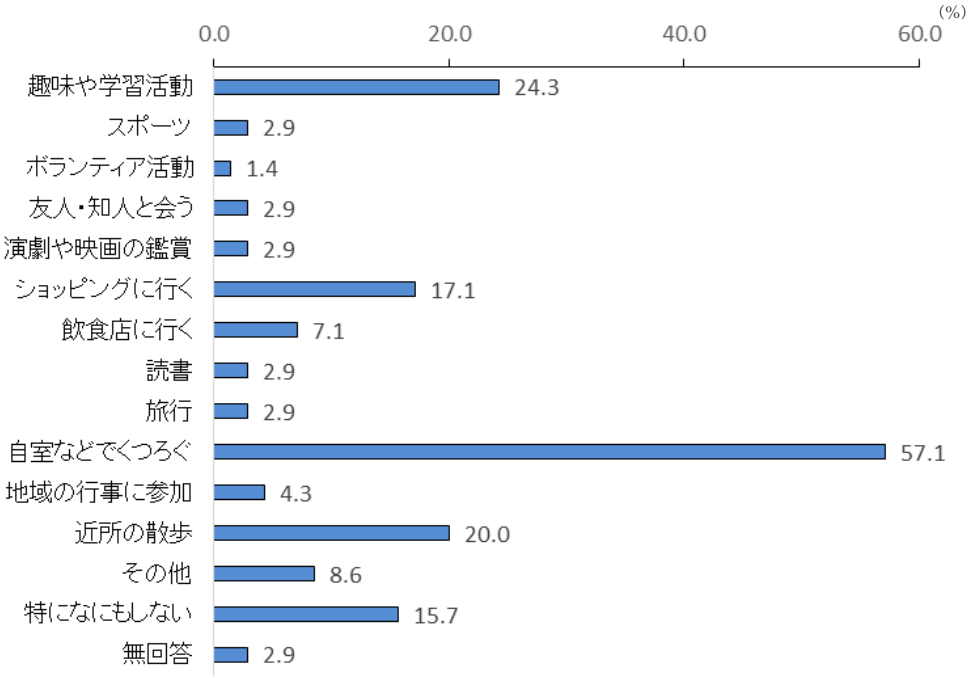
	調査数	外出の機会が少ない	施設の職員の対応に不満がある	人間関係がうまく築けない	困ったとき相談する相手がいない	家族とあまり会えない	将来の生活に何となく不安を感じる
身体障害	23	21.7	8.7	13.0	0.0	13.0	13.0
知的障害	54	25.9	5.6	7.4	1.9	20.4	7.4

	調査数	その他	特に困ることはない	無回答
身体障害	23	13.0	30.4	0.0
知的障害	54	13.0	22.2	5.6

困っていることや不安なことについて障害別にみると、〔身体障害〕は「特に困ることはない」が 30.4%で最も多く、〔知的障害〕は「身の回りのことが自分では十分にできない」が 31.5%と最も多くなっています。

（4-2）余暇の過ごし方（問 18）

《全体》



余暇の過ごし方についてみると、「自室などでくつろぐ」（57.1%）が最も多く、次いで「趣味や学習活動」（24.3%）、「近所の散歩」（20.0%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	趣味や学習活動	スポーツ	ボランティア活動	友人・知人と会う	演劇や映画の鑑賞	ショッピングに行く
身体障害	23	17.4	4.3	0.0	0.0	8.7	17.4
知的障害	54	24.1	3.7	1.9	1.9	1.9	20.4

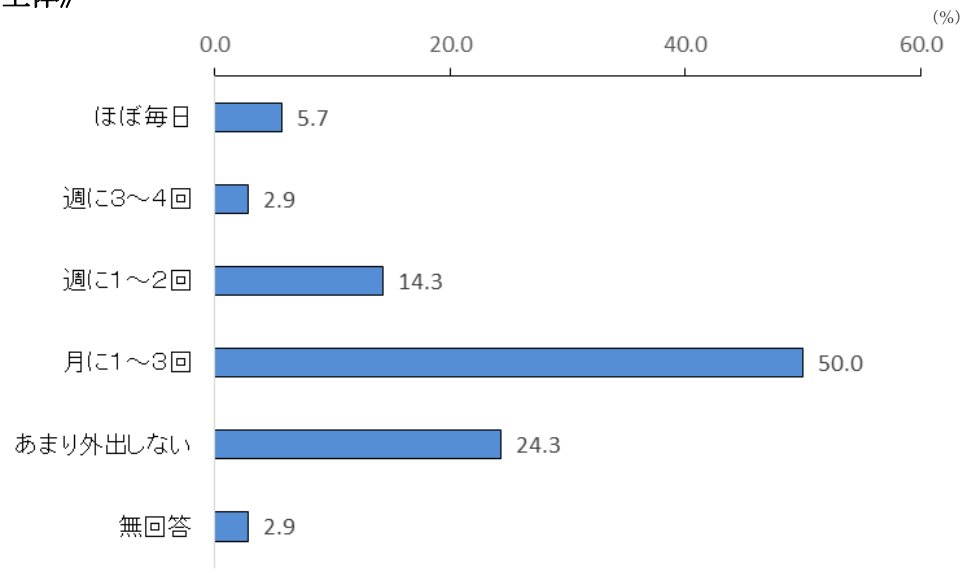
	調査数	飲食店に行く	読書	旅行	自室などでくつろぐ	地域の行事に参加	近所の散歩
身体障害	23	4.3	0.0	0.0	47.8	0.0	26.1
知的障害	54	9.3	3.7	3.7	59.3	5.6	24.1

	調査数	その他	特になにもしない	無回答
身体障害	23	17.4	17.4	4.3
知的障害	54	5.6	13.0	1.9

休日や余裕のある時の過ごし方を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕ともに「自室などでくつろぐ」が最も多くなっています。

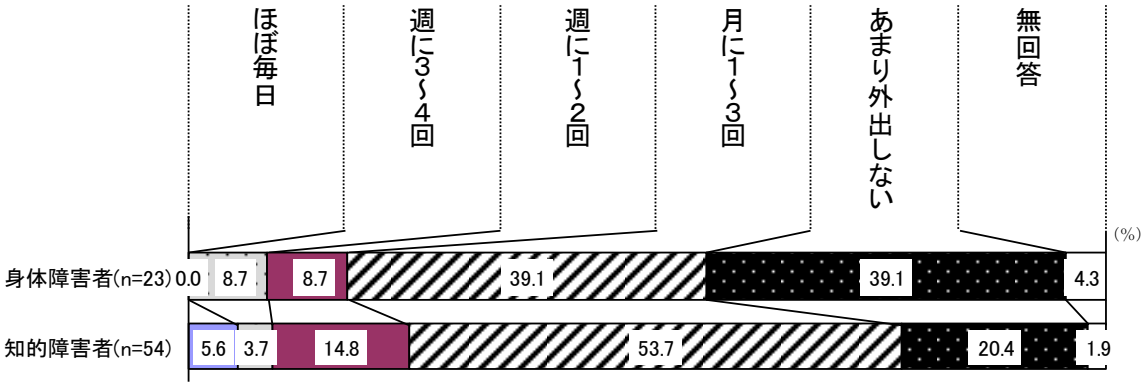
（4-3）外出頻度（問 19）

《全体》



外出頻度についてみると、「月に 1～3 回」（50.0%）が最も多く、次いで「あまり外出しない」（24.3%）、「週に 1～2 回」（14.3%）となっています。

《障害の種類別》

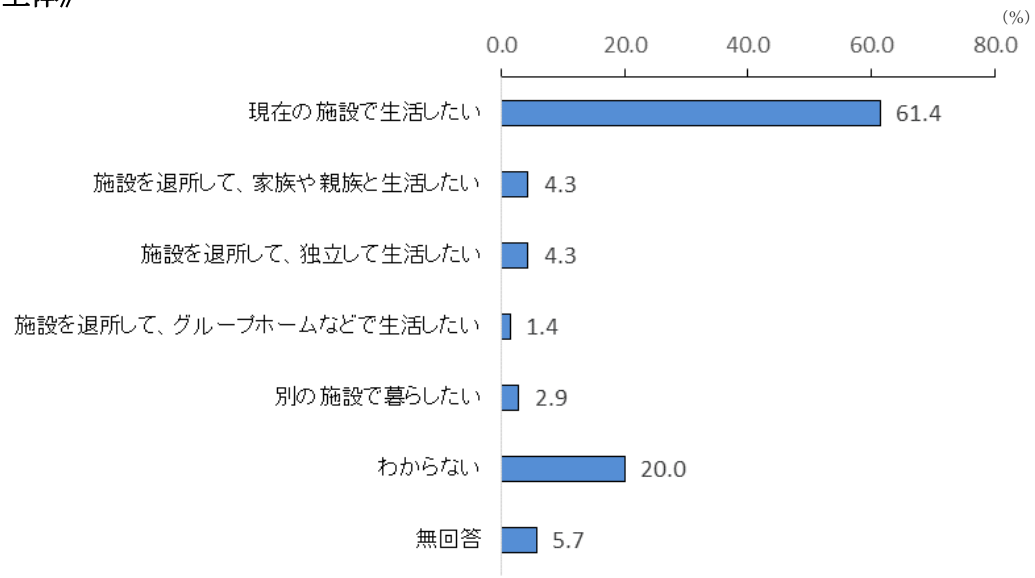


外出の頻度を障害別にみると、〔身体障害〕では「あまり外出しない」が 39.1%と約４割を占め最も多く、〔知的障害〕では「月に１～３回」が 53.7%と５割を超えて多くなっています。

５．今後の暮らし方について

（5-1）今後希望する生活（問 20）

《全体》



今後希望する生活についてみると、「現在の施設で生活したい」（61.4%）が最も多く、次いで「わからない」（20.0%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

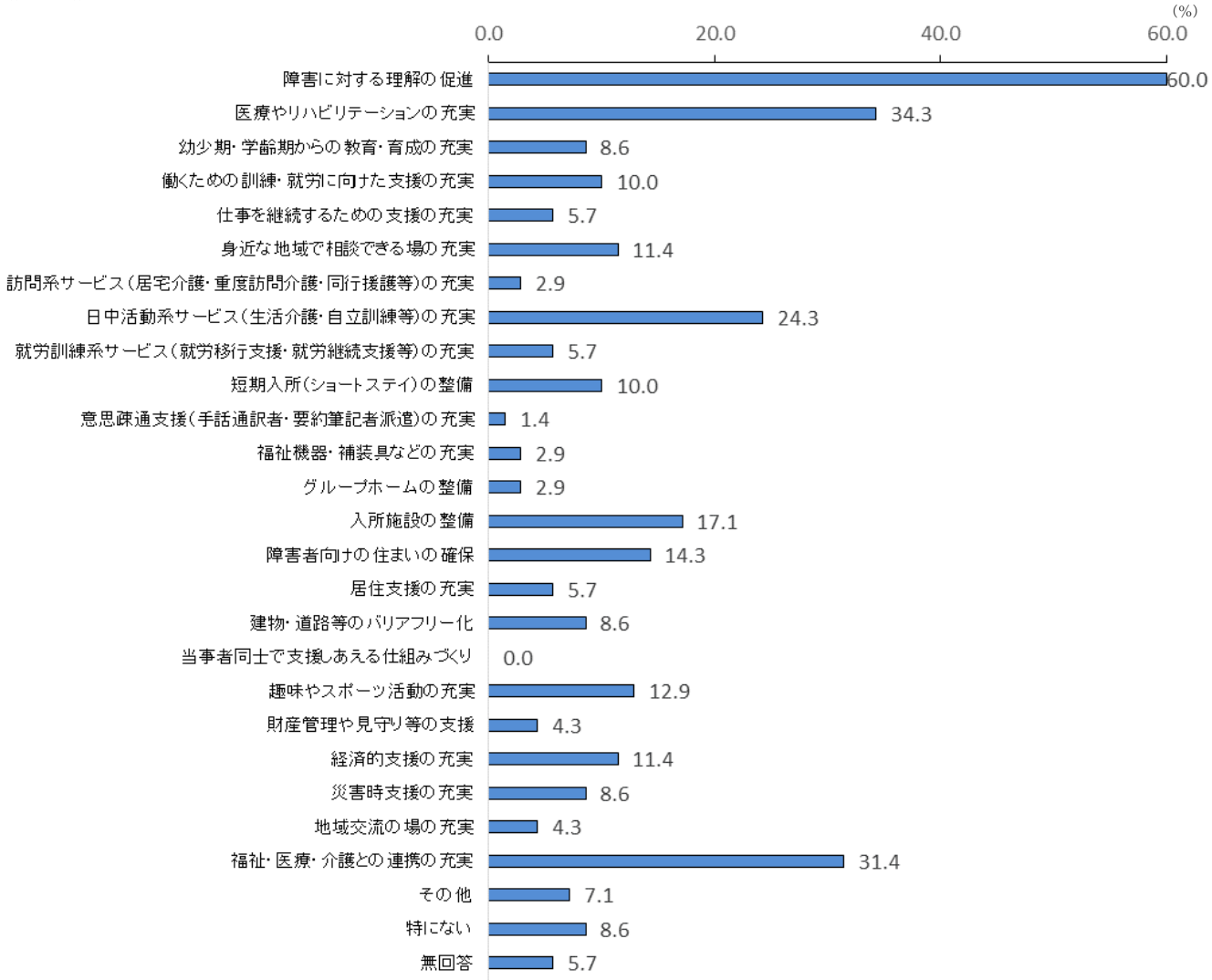
	調査数	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	わからない
身体障害	23	65.2	4.3	4.3	4.3	0.0	21.7
知的障害	54	55.6	5.6	3.7	1.9	3.7	24.1

	調査数	無回答
身体障害	23	0.0
知的障害	54	5.6

今後希望する生活について障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕ともに「現在の施設で生活したい」が５割を超えて最も多くなっています。

（5-2）地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問 21）

《全体》



地域で安心して暮らしていくために必要な施策についてみると、「障害に対する理解の促進」（60.0%）が最も多く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」（34.3%）、「福祉・医療・介護との連携の充実」（31.4%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実
身体障害	23	60.9	56.5	4.3	26.1	4.3	13.0
知的障害	54	63.0	31.5	7.4	7.4	5.6	9.3

	調査数	訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実	日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等）の充実	就労訓練系サービス（就労移行支援・就労継続支援等）の充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣）の充実	福祉機器・補装具などの充実
身体障害	23	4.3	13.0	4.3	4.3	4.3	4.3
知的障害	54	1.9	27.8	5.6	11.1	0.0	1.9

	調査数	グループホームの整備	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
身体障害	23	8.7	8.7	17.4	8.7	4.3	0.0
知的障害	54	0.0	20.4	11.1	7.4	5.6	0.0

	調査数	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実
身体障害	23	13.0	0.0	17.4	17.4	4.3	34.8
知的障害	54	14.8	5.6	11.1	5.6	3.7	29.6

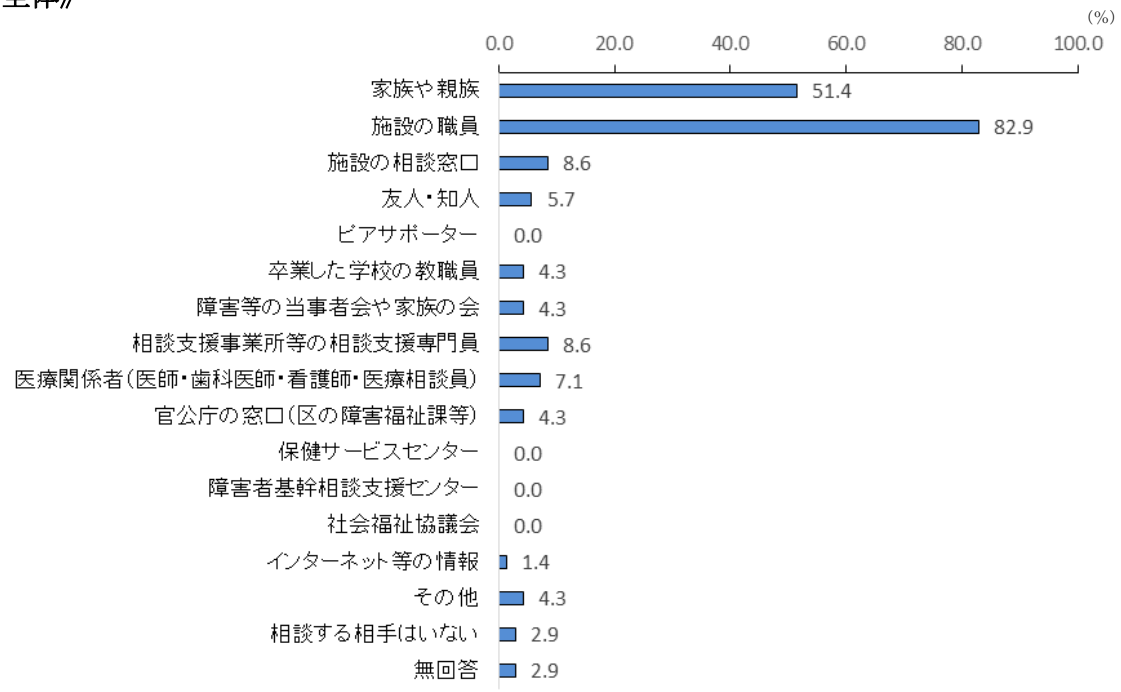
	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	23	0.0	13.0	4.3
知的障害	54	9.3	7.4	5.6

地域で安心して暮すために必要な施策を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕ともに「障害に対する理解の促進」が６割を超えて最も多く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」、「福祉・医療・介護との連携の充実」が多くなっています。また、〔身体障害〕では「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が 26.1%と多く、〔知的障害〕では「日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等）の充実」が 27.8%、「入所施設の整備」が 20.4%と多くなっています。

６．相談や福祉の情報について

（6-1）困った時の相談相手（問 22）

《全体》



困ったときの相談相手についてみると、「施設の職員」（82.9%）が最も多く、次いで「家族や親族」（51.4%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	家族や親族	施設の職員	施設の相談窓口	友人・知人	ピアサポーター	卒業した学校の教職員
身体障害	23	56.5	65.2	13.0	13.0	0.0	13.0
知的障害	54	50.0	88.9	9.3	3.7	0.0	1.9

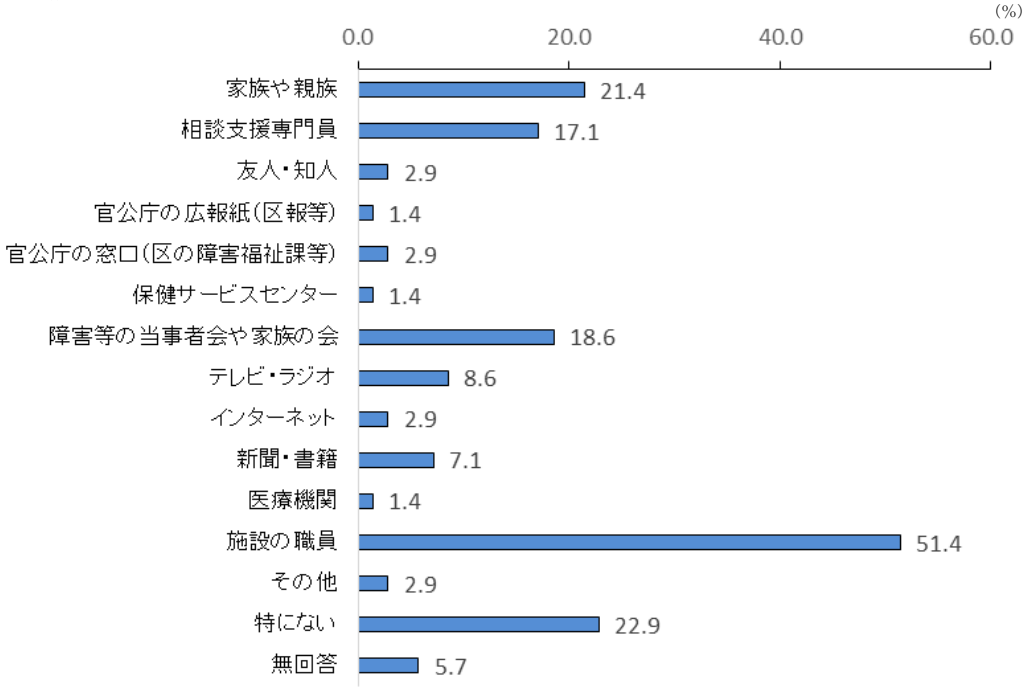
	調査数	障害等の当事者会や家族の会	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	官公庁の窓口（区の障害福祉課等）	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター
身体障害	23	8.7	17.4	21.7	13.0	0.0	0.0
知的障害	54	3.7	7.4	1.9	3.7	0.0	0.0

	調査数	社会福祉協議会	インターネット等の情報	その他	相談する相手はいない	無回答
身体障害	23	0.0	4.3	4.3	8.7	4.3
知的障害	54	0.0	0.0	5.6	0.0	1.9

困った時の相談相手を障害別にみると、「施設の職員」が〔身体障害〕で 65.2%、〔知的障害〕で 88.9%と最も多く、次いで「家族や親族」が５割を超えて多くなっています。また、〔身体障害〕では「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が 21.7%と多くなっています。

（6-2）福祉に関する情報の入手先（問 23）

《全体》



福祉に関する情報の入手先についてみると、「施設の職員」（51.4%）が最も多く、次いで「特にない」（22.9%）、「家族や親族」（21.4%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	家族や親族	相談支援専門員	友人・知人	官公庁の広報紙（区報等）	官公庁の窓口（区の障害福祉課等）	保健サービスセンター
身体障害	23	30.4	21.7	8.7	0.0	8.7	4.3
知的障害	54	18.5	16.7	1.9	1.9	1.9	0.0

	調査数	障害等の当事者会や家族の会	テレビ・ラジオ	インターネット	新聞・書籍	医療機関	施設の職員
身体障害	23	21.7	8.7	4.3	4.3	4.3	52.2
知的障害	54	13.0	7.4	1.9	7.4	1.9	53.7

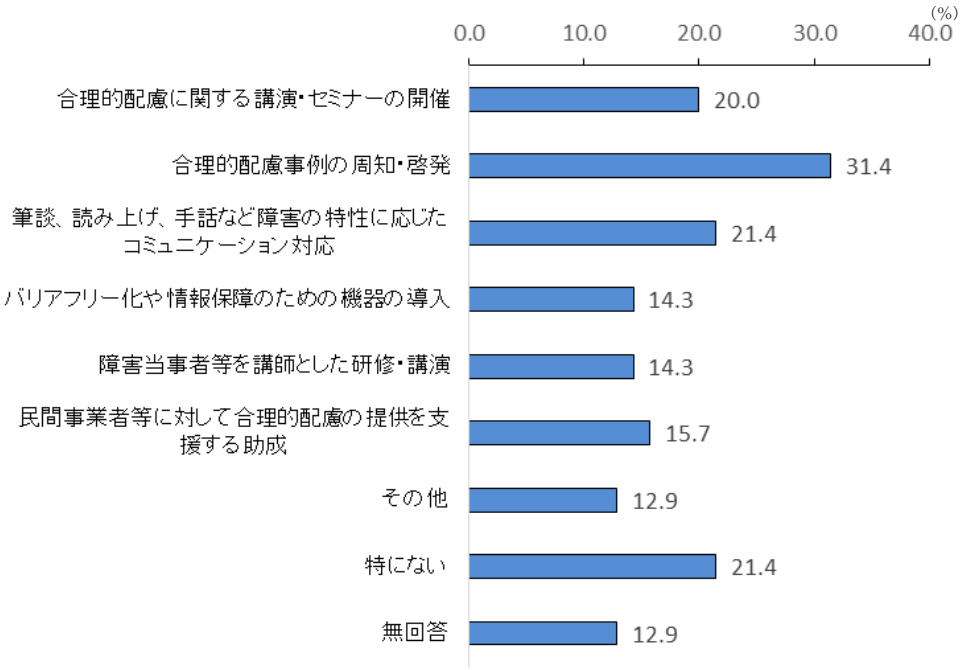
	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	23	0.0	26.1	4.3
知的障害	54	3.7	18.5	5.6

福祉の情報の入手先を障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕ともに「施設の職員」が５割を超えて最も多く、次いで「家族や親族」、「相談支援専門員」となっています。

７．差別解消について

（7-1）合理的配慮を進めていくために必要なこと（問 25）

《全体》



合理的配慮を進めていくために必要なことについてみると、「合理的配慮事例の周知・啓発」（31.4%）が最も多く、次いで「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」（21.4%）、「特にない」（21.4%）となっています。

《障害の種類別》

(%)

	調査数	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
身体障害	23	21.7	30.4	26.1	17.4	13.0	13.0
知的障害	54	20.4	31.5	22.2	13.0	13.0	14.8

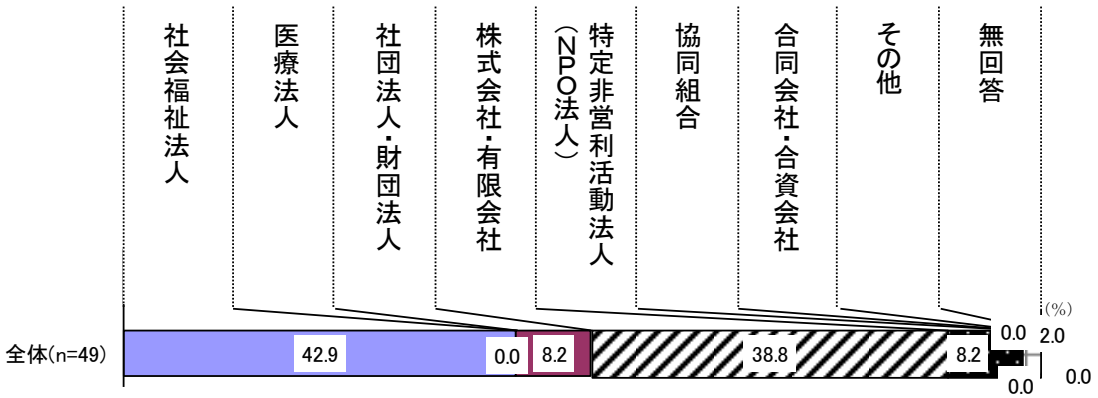
	調査数	その他	特にない	無回答
身体障害	23	8.7	26.1	8.7
知的障害	54	14.8	22.2	13.0

合理的配慮を進めていくために必要なことを障害別にみると、〔身体障害〕、〔知的障害〕ともに「合理的配慮事例の周知・啓発」が３割を超えて最も多く、次いで「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」、「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」となっています。

6. サービス事業所の方を対象にした調査

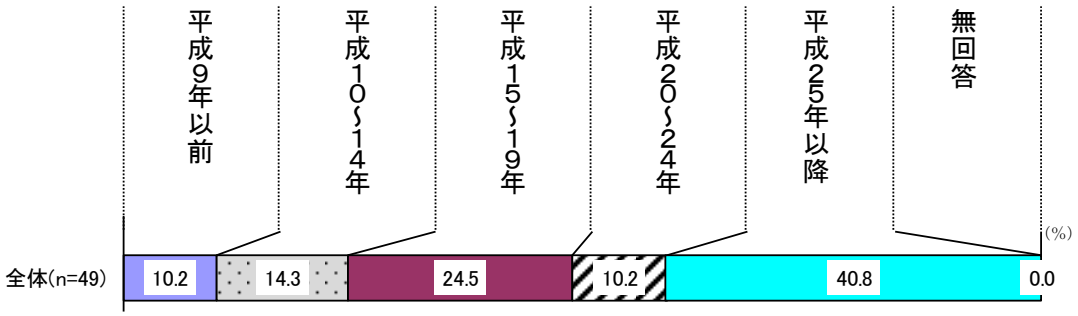
1．事業運営について

（1-1）経営主体（問１）



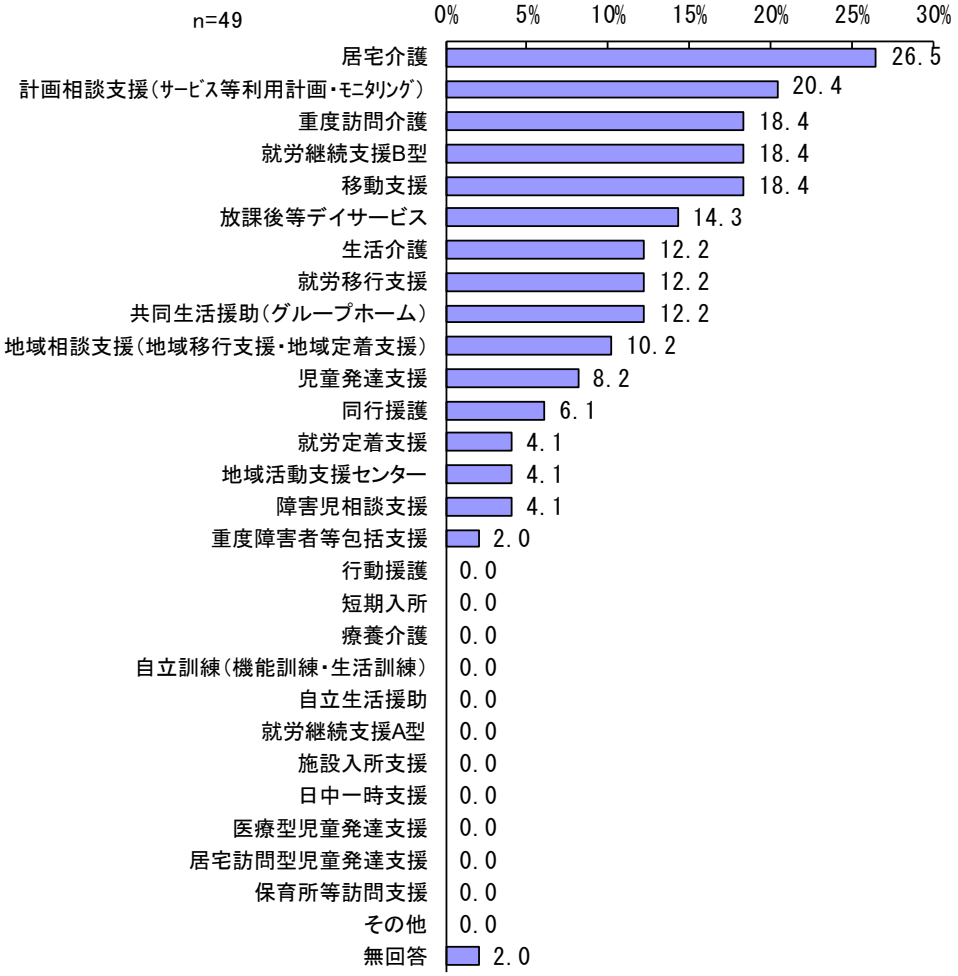
経営主体をみると、「社会福祉法人」が 42.9%と最も多く、次いで「株式会社・有限会社」が 38.8%となっています。

（1-2）開業年（問２）



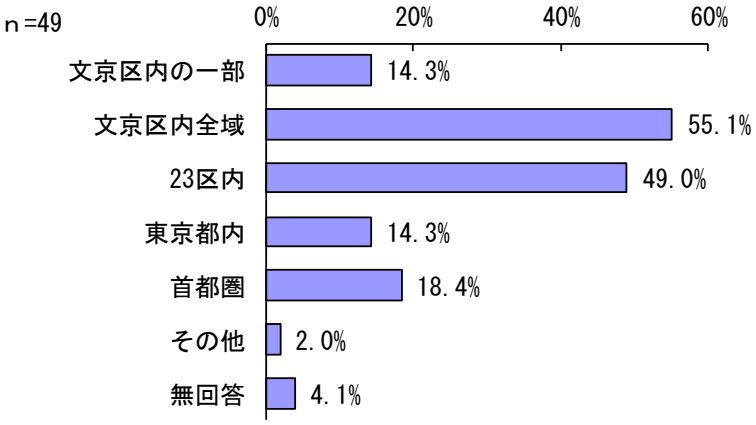
開業年をみると、「平成 25 年以降」の開業が 40.8%と、４割を占めています。

（1-3）提供しているサービス（問３）



提供しているサービスをみると、「居宅介護」が 26.5%と最も多く、次いで「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング)」が 20.4%、「重度訪問介護」「就労継続支援Ｂ型」「移動支援」がそれぞれ 18.4%となっています。

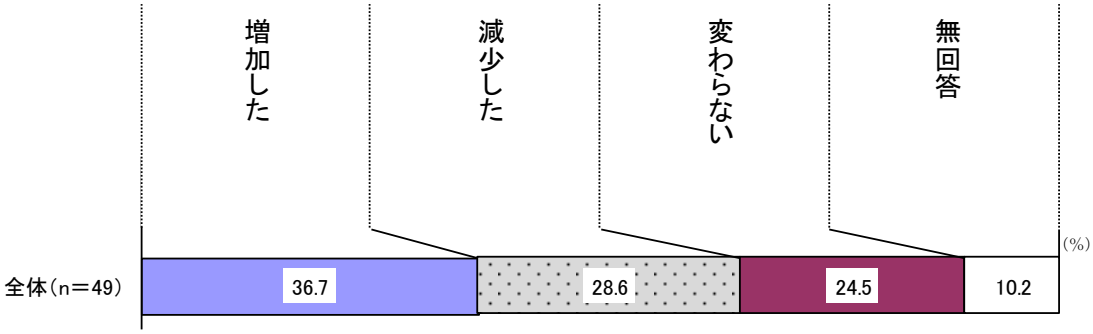
（1-4）事業を展開しているエリア（問４）



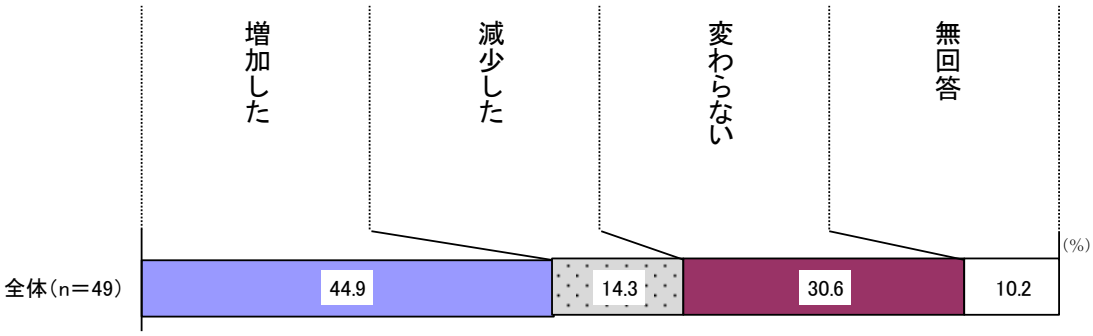
事業を展開しているエリアをみると、「文京区内全域」が 55.1%で最も多く、次いで「23 区内」の 49.0%となっています。

（1-5）収支状況（問６）

【収入】



【支出】

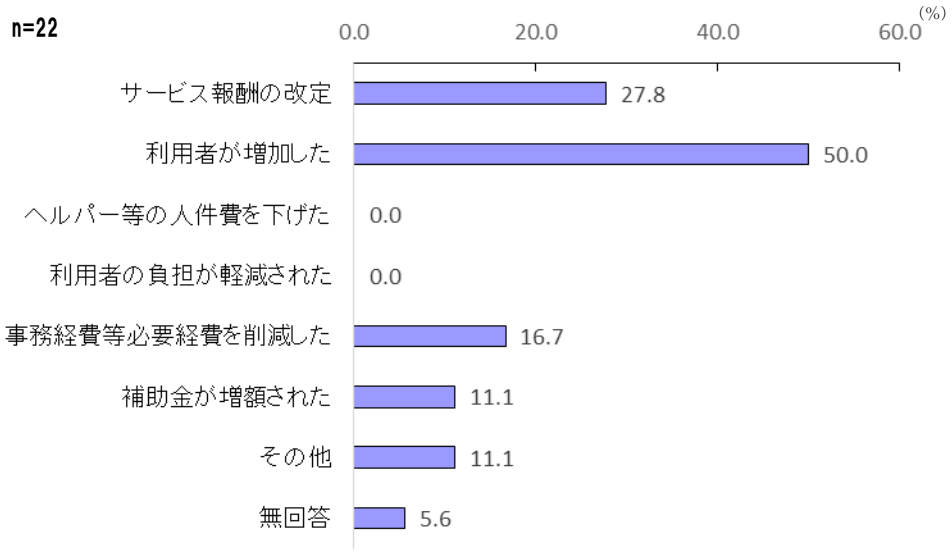


収支状況をみると、収入では「増加した」が 36.7%、「減少した」が 28.6%、「変わらない」が 24.5%となっています。

支出では「増加した」が 44.9%、「減少した」が 14.3%、「変わらない」が 30.6%となっています。

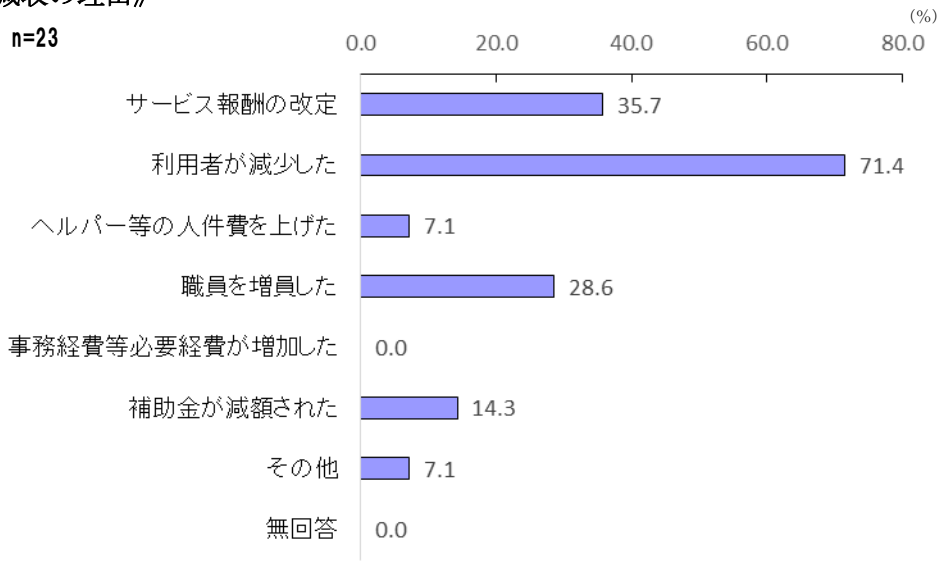
（1-6）増収または減収の理由（問 6-1）

《増収の理由》



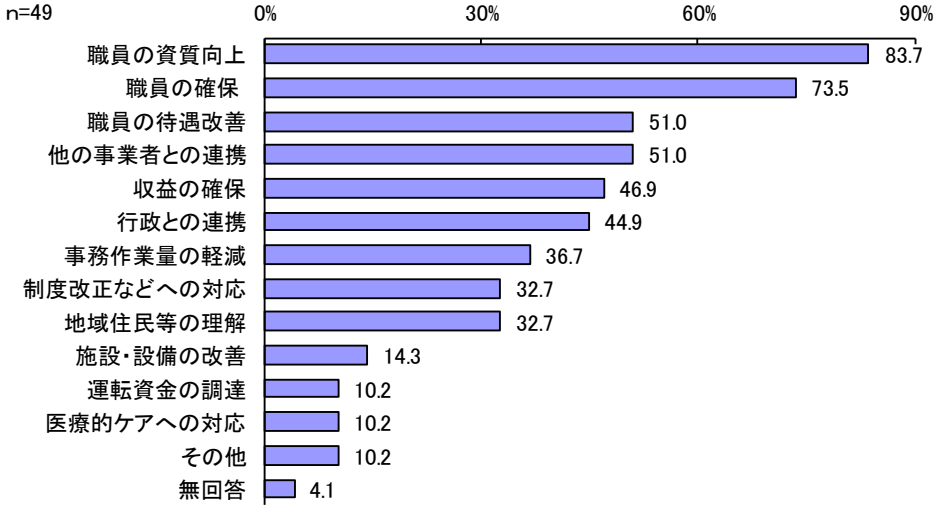
増収の理由をみると、「利用者が増加した」（50.0%）が最も多く、次いで「サービス報酬の改定」（27.8%）、「事務経費等必要経費を削減した」（16.7%）となっています。

《減収の理由》



減収の理由をみると、「利用者が減少した」（71.4%）が最も多く、次いで「サービス報酬の改定」（35.7%）、「職員を増員した」（28.6%）となっています。

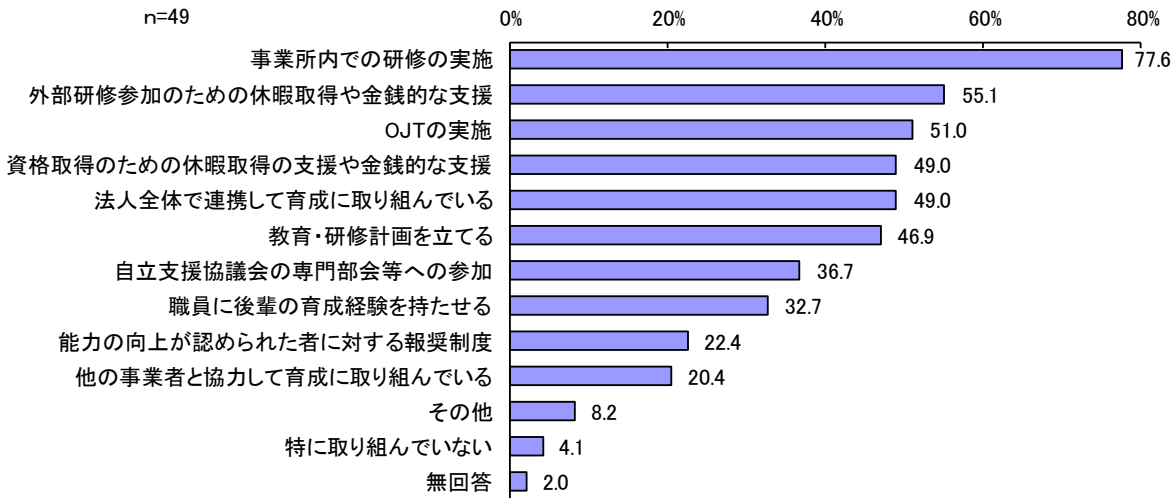
（1-7）経営で重視していること（問７）



経営で重視していることをみると、「職員の資質向上」が 83.7%と８割を超えて最も多く、次いで「職員の確保」が 73.5%と７割を超えています。

２．職員について

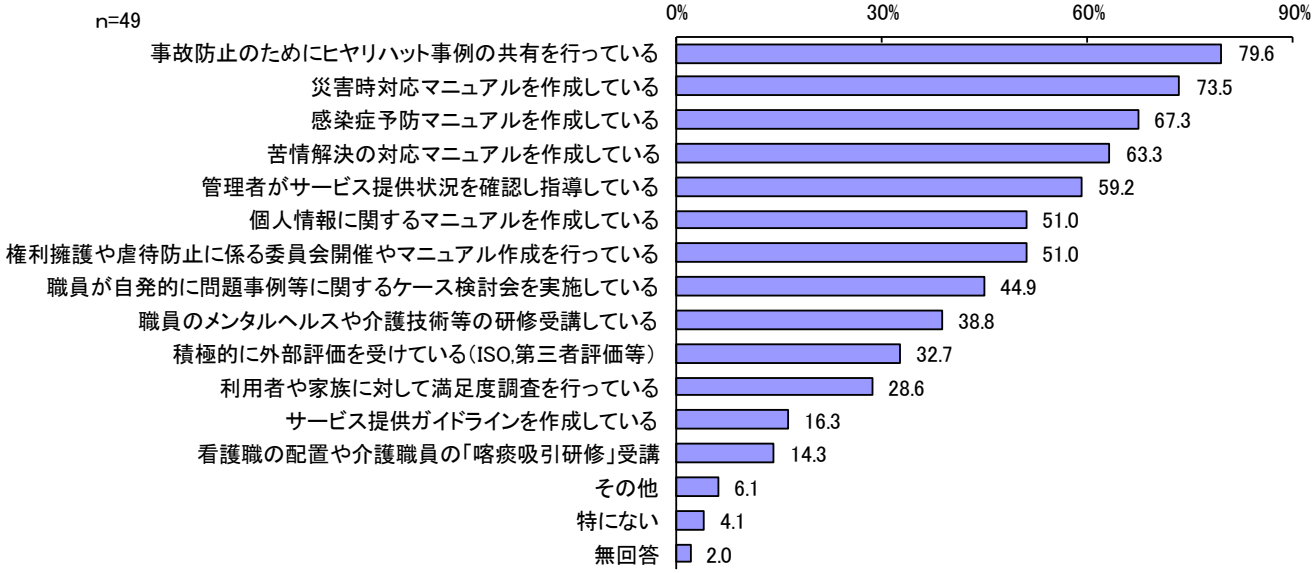
（2-1）人材育成のための取り組み（問 14）



人材育成のための取り組みは、「事業所内での研修の実施」が 77.6%と８割近くで最も多く、次いで「外部研修参加のための休暇取得の支援や金銭的な支援」が 55.1%、「OJT の実施」が 51.0%と５割を超えています。

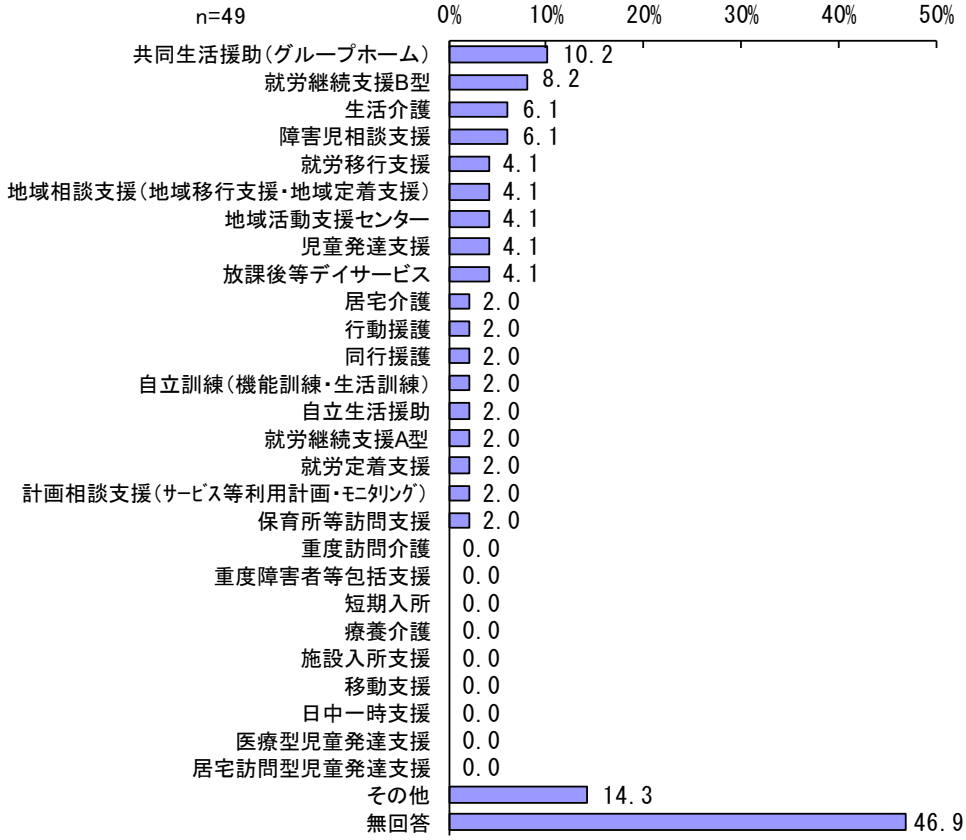
３．サービス提供について

（3-1）サービス向上のための取り組み（問 20）



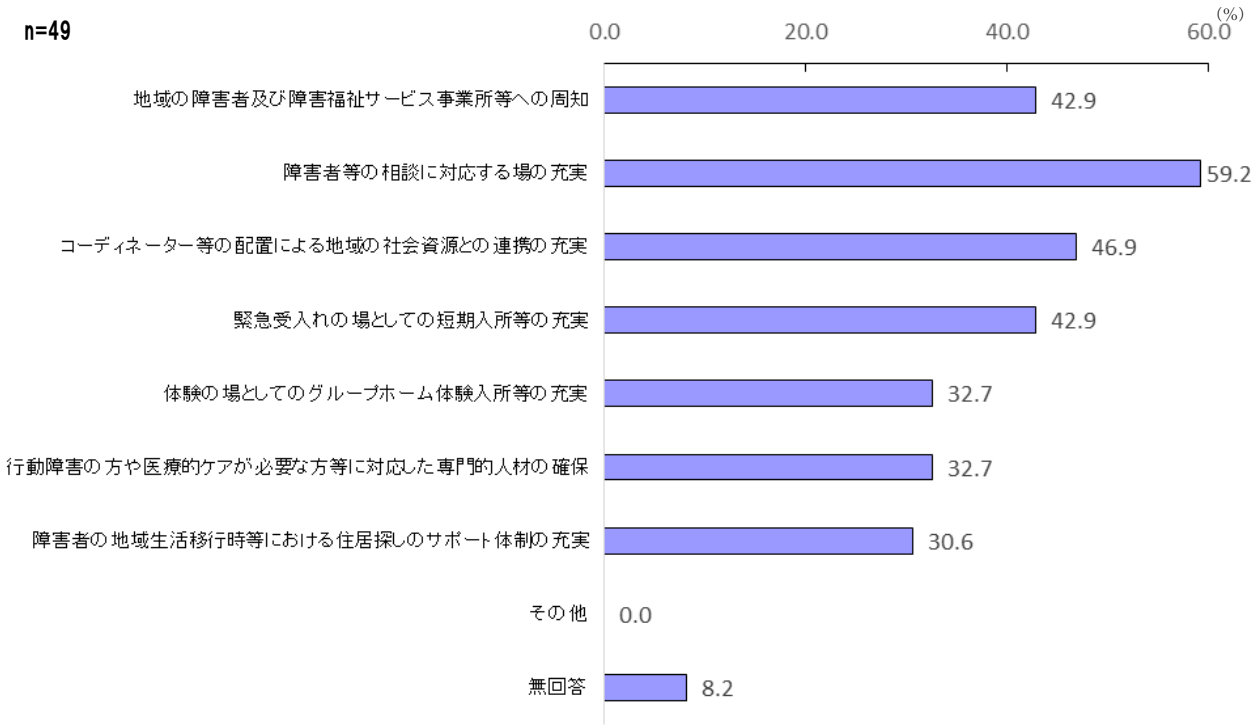
サービス向上のための取り組みをみると、「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」が 79.6%と約８割で最も多く、次いで「災害時対応マニュアルを作成している」が 73.5%と７割を超えています。

（3-2）今後参入を検討しているサービス（問 20）



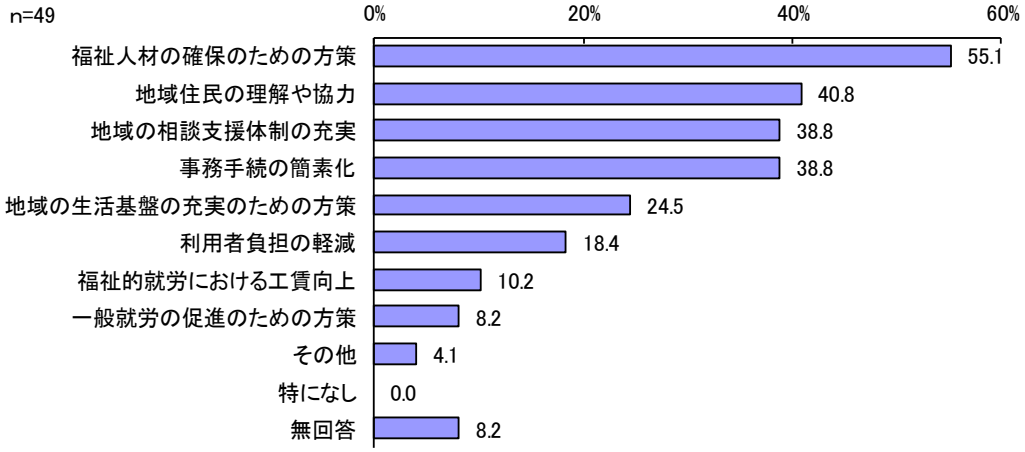
今後参入を検討しているサービスをみると、何らかの回答があったのは全体の 53.1%で、「共同生活援助（グループホーム）」が 10.2%と最も多くなっています。

（3-3）地域生活支援拠点の整備に向けて必要なこと（問 25）



地域生活支援拠点の整備に向けて必要なことをみると、「障害者等の相談に対応する場の充実」（59.2%）が最も多く、次いで「コーディネータ等の配置による地域の社会資源との連携の充実」（46.9%）、「地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知」、「緊急受入れの場としての短期入所等の充実」（42.9%）となっています。

（3-4）障害福祉施策に必要なこと（問 28）



障害福祉施策に必要なことをみると、「福祉人材の確保のための方策」が 55.1%と５割半ばで最も多く、次いで「地域住民の理解や協力」が 40.8%、「地域の相談支援体制の充実」「事務手続の簡素化」がともに 38.8%と４割前後で続いています。

7. 質的調査（インタビュー調査）

1　質的調査の概要

これまで、障害者の思いやニーズを可能な限り可視化する試みとして、質的調査（インタビュー調査）は、区内通所施設を利用している知的障害者を対象に実施してきたところです。今年度は調査対象者を広げ、知的障害者に加え精神障害者も対象にするとともに、通所施設のみならず生活の場であるグループホームも訪問し、インタビュー調査を実施しました。

調査実施者は、東洋大学社会学部社会福祉学科の学生で、障害者福祉に関心のある学生が、同学科の髙山教授・志村教授及び社会福祉学研究科の勝又氏の指導の下、担当しました。

2　調査対象

①	区内通所施設を利用する 18 歳以上の愛の手帳所持者	48 名
②	区内通所施設を利用する 18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者	18 名
③	区内グループホームを利用する 18 歳以上の愛の手帳所持者	20 名
④	区内グループホームを利用する 18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者	5 名
計		91 名

①及び②の手帳所持者について、年代の分布は以下の通りです。

	年代								
	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	不明	計
男	0	9	11	8	4	5	0	2	39
女	0	9	7	5	3	3	0	0	27
計	0	18	18	13	7	8	0	2	66

（※ ③及び④の手帳所持者については、個人情報保護の観点から除外）

●対象施設 15 か所

【主に知的障害者が利用する施設　10 か所】

	施設名	サービス種別		施設名	サービス種類
1	大塚福祉作業所	就労継続支援 B 型	6	陽だまりの郷	共同生活援助
2	本後福祉センター（若駒の里）	生活介護	7	ワークショップやまどり	就労継続支援 B 型
3	エルムンド小石川	共同生活援助	8	工房わかぎり	就労継続支援 B 型
4	エルムンド千石	共同生活援助	9	ドリームハウス	共同生活援助
5	は～と・ピア 2	生活介護	10	ワークプレイスぶんぶん	就労継続支援 B 型

【主に精神障害者が利用する施設　5 か所】

	施設名	サービス種別		施設名	サービス種類
1	銀杏企画	就労継続支援 B 型	4	文京ホームアンダンテ	共同生活援助
2	ホームいちょう	共同生活援助	5	Abeam（アビーム）	就労継続支援 B 型
3	エナジーハウス	地域活動支援センター			

3　調査方法

面接法（グループ・インタビュー）

4　調査内容

属性、日中及び施設での楽しみ、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等

５　調査時期

令和元年６月～７月

６　総評

（１）通所施設について（生活介護・就労継続支援Ｂ型・地域活動支援センター）

①ニーズに対応した日中活動の場が確保できている
②毎日通う場所があり規則正しい生活ができる
③働きがいを感じつつ、お金を稼げる場所がある
④専門的なことも含めて相談できる場所になっている

（２）グループホームについて

①自分の好きなことができ、規則正しい生活をおくることができる
②相談できる相手がいて、安全に暮らせる環境である
③家族との良好な関係を維持しつつ、地域で生活する
④共同生活のルールを守り、仲間との時間を大切にする

７　課題とその対応策（一部抜粋）

（１）主に精神障害者が利用する就労継続支援Ｂ型事業所及び地域活動支援センターのインタビュー調査結果

課題	考えられる対応策
地域との交流が乏しい	地域住民と交流するイベント等を多く開催する
適度な距離間の気軽に話せる相手がおらず、地域の偏見の目が気になる	・友達以上専門職未満の存在がいるといい。（例.学生ボランティアなど） ・障害理解のための啓発・講座を開催する
サービス認知度が低い	SNS 活用などで区の情報を受信できる場を増やす
区の交通アクセスが不便	事業所やかかるつけ医療機関などの区間のバスの無償化、手帳によるサポートを手厚くする
体調面が不安	食生活の見直しなど、生活習慣の改善や医療面のサポートを拡充
仕事（訓練）に満足しているが、就労（訓練）時間が短いことが不満	就労サポートの継続と就労（訓練）時間を長くする、多様な働き方や雇用の場を拡充する

（２）主に知的障害者が利用する就労継続支援Ｂ型事業所のインタビュー調査結果

課題	考えられる対応策
相談相手が家族や職員に限られる	・事業所を通じて利用者と地域との関わりをつなげる ・様々な人との交流の場を増やす
自立生活に向けた住まいの支援体制が十分でない	一人暮らし手当て
自立生活に関する将来への希望が出てこない（仕事など）	仕事をさらに増やす対策
事業所に通うための交通アクセスが不便	事業所間移動に関する支援（公共交通機関）を手厚くする
サービス自体を知らない	利用できるサービスや制度について、広報や SNS を通じて分かりやすく周知する

（3）生活介護事業所のインタビュー調査結果

課題	考えられる対応策
相談相手が身内に限られる	家族・職員だけでなく、新たな第三者の「対等な関係」として、ボランティアや学生等との交流の機会を持つ
他者と関わる機会が少ない	・障害があっても参加しやすいイベントの機会を区で設ける。そのための SNS 等を利用した情報発信ツールを拡充する。
区民の障害についての認知度が低いことから偏見の目があり、活動の場が制限される	・利用者の余暇活動の充実に向け、地域住民への障害理解の必要性を啓発する ・公共施設や民間事業者に向けた啓発や障害理解の普及を推進する
親亡き後に対する不安	・自立生活に向けた支援体制を拡充する ・グループホームを増やす ・公営住宅を増やす

（4）主に精神障害者が利用するグループホーム事業所のインタビュー調査結果

課題	考えられる対応策
サービス自体を知らない	・字だけでなく、絵、映像を用いたものでわかりやすくまとめる ・定期的な情報交換等により区とグループホームとのつながりを強くする
相談相手が限られている	ボランティア等との交流により親睦を深め、距離を縮める
休日の過ごし方が限られている	同じ障害を持つ人、同姓、同世代との交流の場のような居場所をつくる
入居者の年齢層が上がっているが、自立へ向けた活動への意欲が高い人が多い	・自立に向けた学習の場を提供する ・地域住民に対して働きかけ、地域ネットワークを形成・活用する
精神障害に対する理解度が低い	・ヘルプマークの認知を向上させる
地域住民、友人等との関りが少ない	・学生を活用して、地域住民と利用者が交流できる場をつくる ・地域に住む精神障害者に関することについて情報発信する（冊子、交流の場等にて）

（5）主に知的障害者が利用するグループホーム事業所のインタビュー調査結果

課題	考えられる対応策
地域との交流が少ない	・イベントや行事など、地域の人々と交流する機会があるものは、わかりやすく区が PR する ・イベントや行事に参加しやすい環境をつくり、促す
サービス自体を知らないことからサービスを利用できていない	絵や漫画などを交えて分かりやすい冊子にする
愛の手帳が持つサービス内容を改善してほしい	愛の手帳で使える娯楽（映画の入場料など）のためのサービスや施設を増やす
区に相談する機会がない	自身が抱える不安や今後の生活、家族のことについて区に相談できるようにする
相談相手が施設職員に限定化されている	・交流型イベントを開催し、同じニーズを持つ人々の友人づくりの場を提供する ・趣味を生かした創作物の展示会等を開催し、同じ趣味を持つ人々との出会いの場を作る